

令和4年度
郡山市障がい者（児）実態調査

令和5年3月
郡 山 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	障がい者（児）当事者調査	2
(1)	回答者属性	2
(2)	障がいの状況について	22
(3)	医療について	26
(4)	外出や日中活動について	36
(5)	就労について	53
(6)	教育について	59
(7)	相談・情報について	63
(8)	障がい福祉サービス等の利用について	67
(9)	地域生活支援事業について	82
(10)	権利擁護について	90
(11)	緊急時等について	98
(12)	障がい福祉施策について	105
2	事業所調査	125
(1)	事業所の運営状況について	125
(2)	事業展開における現状と課題について	155
(3)	地域生活支援への取組について	163
(4)	その他	169

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障害児通所支援受給者証交付者及び難病患者等の実態や意向を把握し、障がい者福祉のより一層の推進と充実を図るための基礎資料とします。

2 調査対象

障がい者（児）当事者：障がい者手帳、指定難病医療費受給者表、障がい児通所支援の受給者証をお持ちの方の中から無作為に抽出
障がい福祉サービス事業所：市内の障がい福祉サービス事業所

3 調査期間

2023年（令和5年）2月3日～2023年（令和5年）2月17日

4 調査方法

郵送配付・郵送回収方式

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
障がい者（児）当事者	4,000 通	2,030 通	50.8%
障がい福祉サービス事業所	208 通	163 通	78.4%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを網かけしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ 調査結果

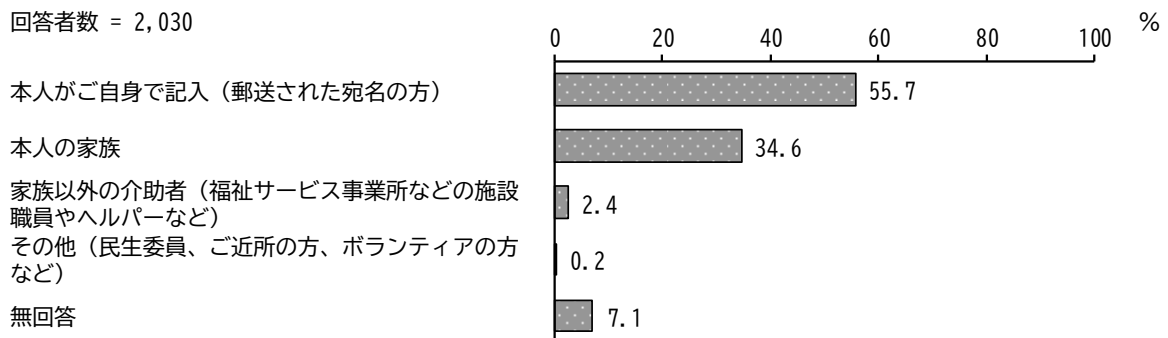
1 障がい者（児）当事者調査

（1）回答者属性

問1 調査票の記入は、どなたですか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

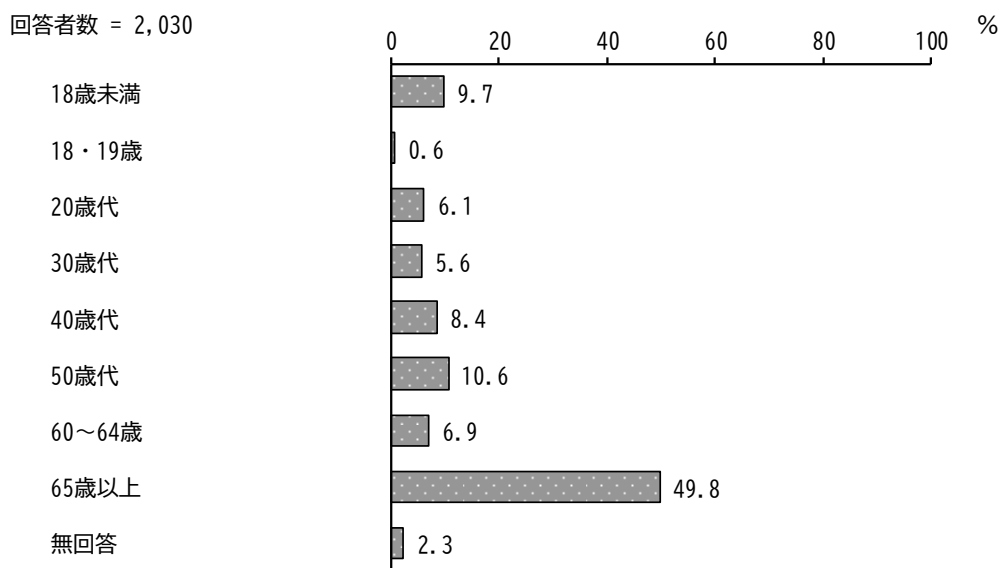
「本人がご自身で記入（郵送された宛名の方）」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「本人の家族」の割合が 34.6%となっています。

回答者数 = 2,030



問2 あなたの年齢をお答えください。(令和5年1月1日現在)

「65歳以上」の割合が49.8%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が10.6%となっています。



【障がい種別】

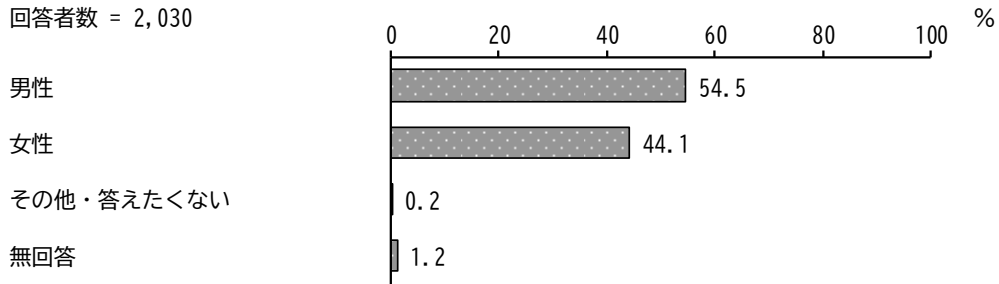
障がい種別にみると、他に比べ、身体障がいでは「65歳以上」の割合が、高次脳機能障がいでは「65歳以上」の割合が、精神障がいでは「50歳代」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	18歳未満	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65歳以上	無回答
全体	2,030	9.7	0.6	6.1	5.6	8.4	10.6	6.9	49.8	2.3
身体障がい	1,244	2.7	0.2	3.1	2.4	6.2	10.0	8.0	65.4	2.1
知的障がい	379	33.8	2.9	18.2	13.7	11.6	6.3	1.6	10.6	1.3
精神障がい	270	7.0	0.7	15.6	10.0	16.7	17.4	9.3	21.1	2.2
難病	424	3.5	0.5	3.8	6.6	12.0	15.6	9.4	46.5	2.1
発達障がい	318	48.4	3.1	22.0	10.1	8.8	3.8	0.6	2.5	0.6
高次脳機能障がい	92	—	—	2.2	3.3	7.6	10.9	8.7	63.0	4.3

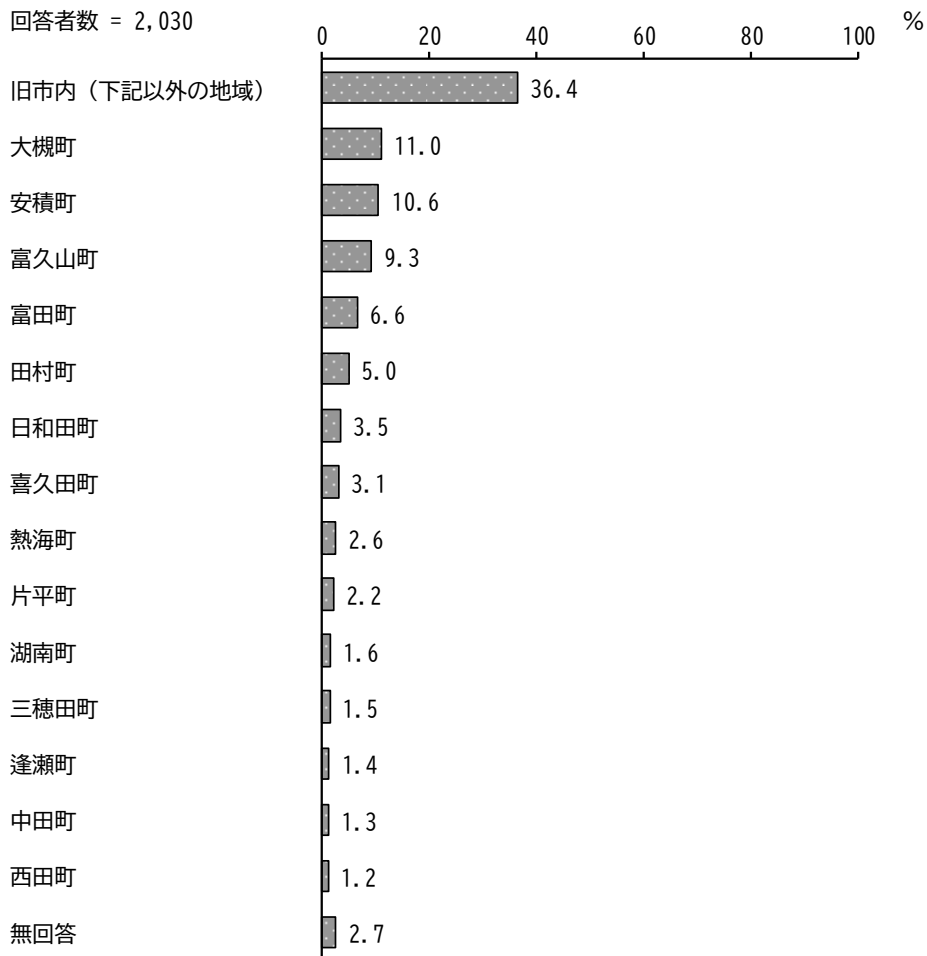
問3 あなたの性別をお答えください。

「男性」の割合が54.5%と最も高く、次いで「女性」の割合が44.1%となっています。



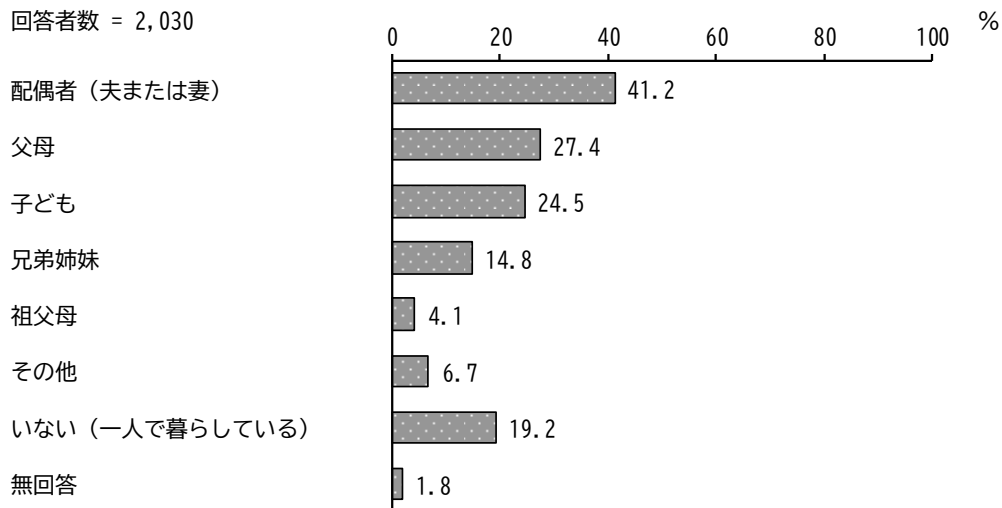
問4 あなたがお住まいの地域はどこですか。

「旧市内（下記以外の地域）」の割合が36.4%と最も高く、次いで「大槻町」の割合が11.0%、「安積町」の割合が10.6%となっています。



問5 あなたと一緒に暮らしている人は、どなたですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「配偶者（夫または妻）」の割合が41.2%と最も高く、次いで「父母」の割合が27.4%、「子ども」の割合が24.5%となっています。

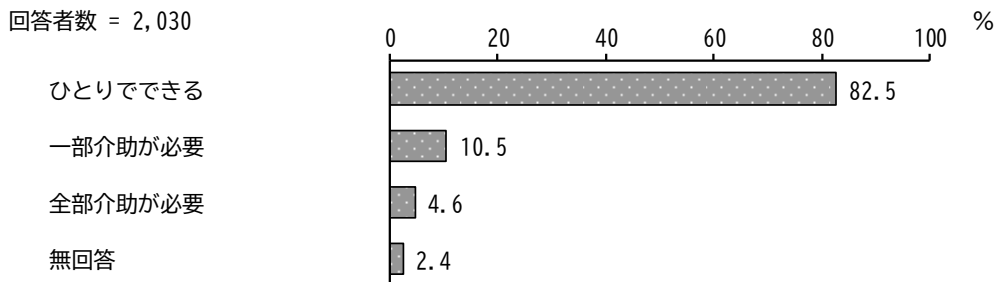


問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

(①から②のそれぞれの項目について、「ひとりでできる」、「一部介助が必要」、「全部介助が必要」のうちひとつに○をつけてください。)

①食事をする

「ひとりでできる」の割合が82.5%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が10.5%となっています。



【障がい種別】

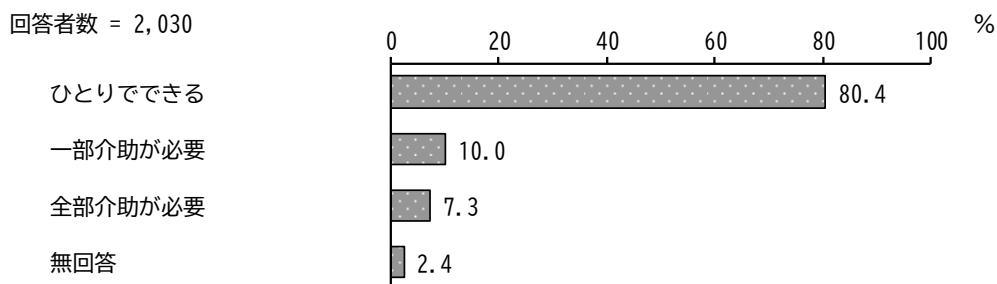
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がいで「一部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全 体	2,030	82.5	10.5	4.6	2.4
身体障がい	1,244	82.2	9.8	5.7	2.3
知的障がい	379	66.8	22.4	9.5	1.3
精神障がい	270	87.8	8.9	1.5	1.9
難病	424	81.1	9.7	7.1	2.1
発達障がい	318	75.5	18.6	5.3	0.6
高次脳機能障がい	92	52.2	30.4	15.2	2.2

②トイレ（排泄）

「ひとりでできる」の割合が80.4%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が10.0%となっています。



【障がい種別】

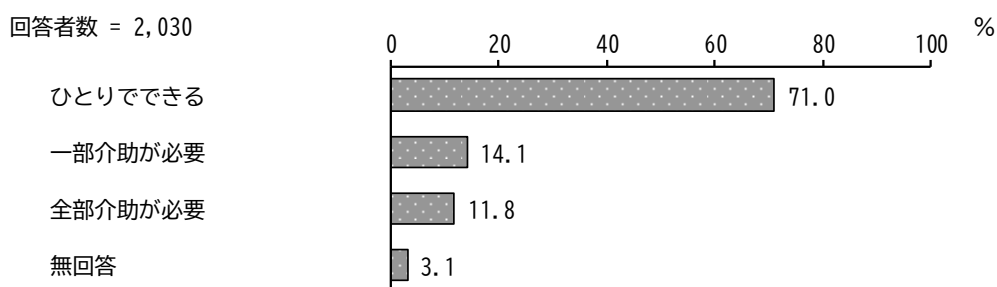
障がい種別にみると、知的障がい、高次脳機能障がいで「一部介助が必要」の割合が、で「一部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	80.4	10.0	7.3	2.4
身体障がい	1,244	79.8	8.8	9.3	2.0
知的障がい	379	63.6	21.9	13.2	1.3
精神障がい	270	89.6	6.7	2.2	1.5
難病	424	80.2	9.2	9.2	1.4
発達障がい	318	73.6	18.9	6.3	1.3
高次脳機能障がい	92	44.6	26.1	27.2	2.2

③入浴をする

「ひとりでできる」の割合が71.0%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が14.1%、「全部介助が必要」の割合が11.8%となっています。



【障がい種別】

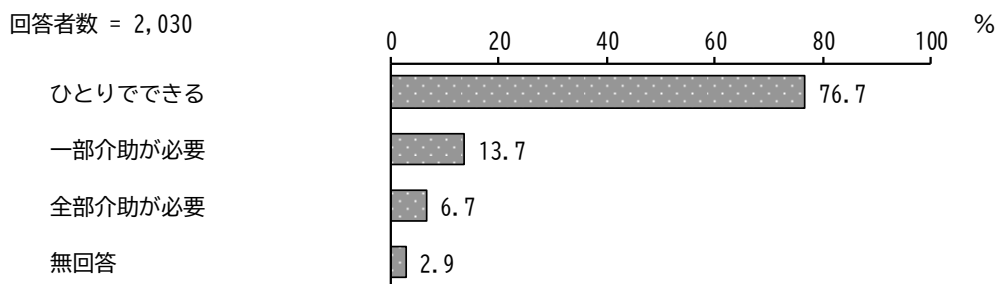
障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「全部介助が必要」の割合が、知的障がい、発達障がいでは「一部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	71.0	14.1	11.8	3.1
身体障がい	1,244	69.6	12.5	14.9	3.0
知的障がい	379	52.8	28.0	17.9	1.3
精神障がい	270	83.3	11.1	4.1	1.5
難病	424	73.1	10.4	14.2	2.4
発達障がい	318	60.1	28.6	10.1	1.3
高次脳機能障がい	92	30.4	23.9	42.4	3.3

④衣服の着脱

「ひとりでできる」の割合が76.7%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が13.7%となっています。



【障がい種別】

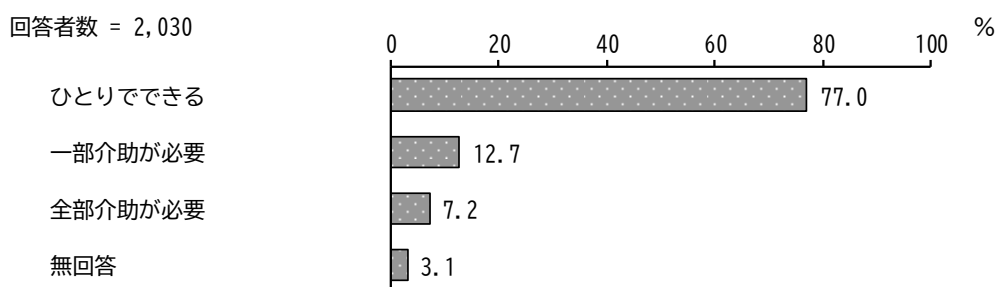
障がい種別にみると、知的障がい、高次脳機能障がいで「一部介助が必要」の割合が、精神障がいで「ひとりでできる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	76.7	13.7	6.7	2.9
身体障がい	1,244	73.9	14.5	9.0	2.7
知的障がい	379	63.6	25.1	9.5	1.8
精神障がい	270	88.1	7.4	2.2	2.2
難病	424	75.0	14.9	8.7	1.4
発達障がい	318	74.8	18.9	4.7	1.6
高次脳機能障がい	92	33.7	34.8	28.3	3.3

⑤身だしなみ（歯磨き、洗面など）

「ひとりでできる」の割合が77.0%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が12.7%となっています。



【障がい種別】

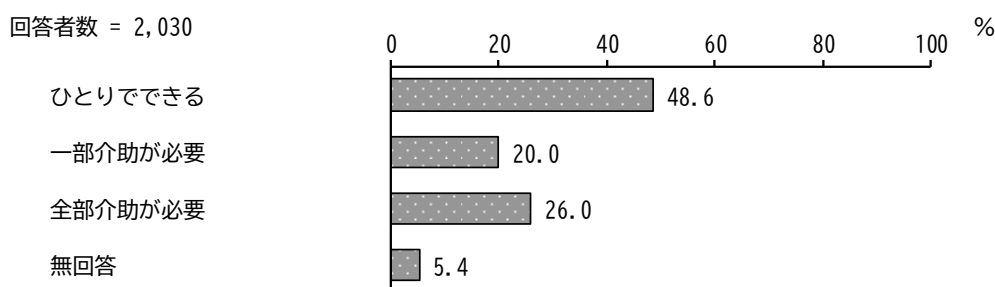
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がいで「一部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	77.0	12.7	7.2	3.1
身体障がい	1,244	79.3	10.2	7.6	2.9
知的障がい	379	52.8	26.9	18.2	2.1
精神障がい	270	84.4	11.5	3.0	1.1
難病	424	81.4	9.0	8.3	1.4
発達障がい	318	57.5	29.2	11.6	1.6
高次脳機能障がい	92	42.4	27.2	27.2	3.3

⑥家の中の家事（掃除、洗濯、調理等）

「ひとりでできる」の割合が48.6%と最も高く、次いで「全部介助が必要」の割合が26.0%、「一部介助が必要」の割合が20.0%となっています。



【障がい種別】

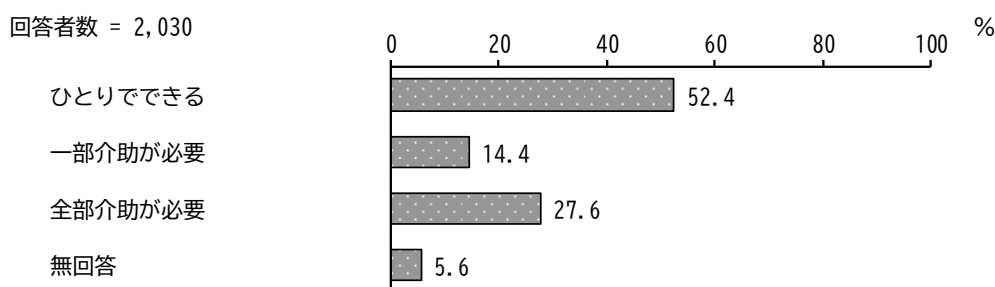
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がいで「全部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	48.6	20.0	26.0	5.4
身体障がい	1,244	50.8	18.1	25.6	5.5
知的障がい	379	20.1	26.1	49.6	4.2
精神障がい	270	44.1	37.0	16.3	2.6
難病	424	58.5	14.9	21.9	4.7
発達障がい	318	18.9	32.4	46.5	2.2
高次脳機能障がい	92	16.3	13.0	57.6	13.0

⑦家から出て行う家事（ごみ捨て等）

「ひとりでできる」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「全部介助が必要」の割合が 27.6%、「一部介助が必要」の割合が 14.4%となっています。



【障がい種別】

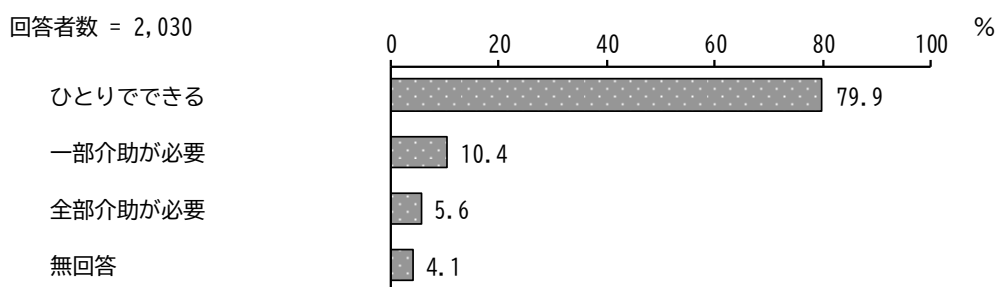
障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「全部介助が必要」の割合が、知的障がいでは「全部介助が必要」の割合が、発達障がいでは「全部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	52.4	14.4	27.6	5.6
身体障がい	1,244	51.5	13.3	29.0	6.1
知的障がい	379	31.7	18.2	45.9	4.2
精神障がい	270	58.9	20.7	16.3	4.1
難病	424	56.1	12.3	27.8	3.8
発達障がい	318	32.7	24.2	40.9	2.2
高次脳機能障がい	92	20.7	10.9	50.0	18.5

⑧家の中の移動

「ひとりでできる」の割合が79.9%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が10.4%となっています。



【障がい種別】

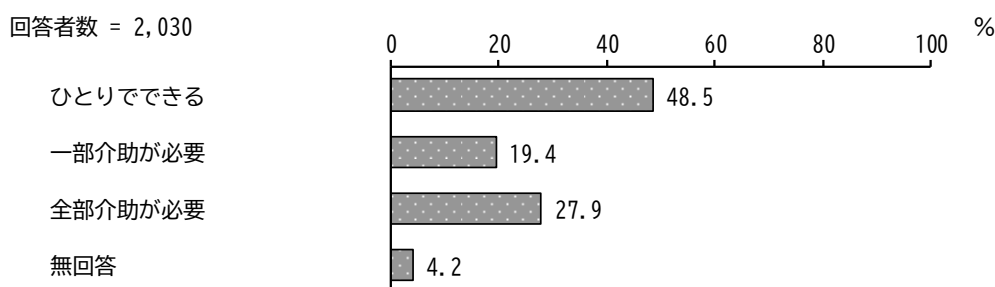
障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「一部介助が必要」の割合が、精神障がい、発達障がいでは「ひとりでできる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	79.9	10.4	5.6	4.1
身体障がい	1,244	74.9	13.3	7.6	4.3
知的障がい	379	77.8	11.9	6.1	4.2
精神障がい	270	88.9	7.0	1.1	3.0
難病	424	76.4	14.2	7.1	2.4
発達障がい	318	86.8	7.9	2.5	2.8
高次脳機能障がい	92	44.6	23.9	23.9	7.6

⑨医療機関への通院

「ひとりでできる」の割合が48.5%と最も高く、次いで「全部介助が必要」の割合が27.9%、「一部介助が必要」の割合が19.4%となっています。



【障がい種別】

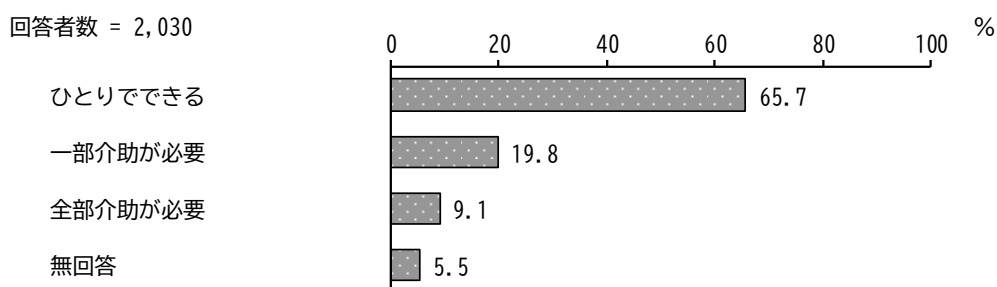
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がいで「全部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	48.5	19.4	27.9	4.2
身体障がい	1,244	51.2	18.2	26.4	4.2
知的障がい	379	18.7	20.1	58.0	3.2
精神障がい	270	53.7	25.9	17.4	3.0
難病	424	57.3	15.3	24.1	3.3
発達障がい	318	17.3	27.0	52.2	3.5
高次脳機能障がい	92	20.7	13.0	56.5	9.8

⑩家族以外の人との意思疎通（コミュニケーション）

「ひとりでできる」の割合が 65.7%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が 19.8%となっています。



【障がい種別】

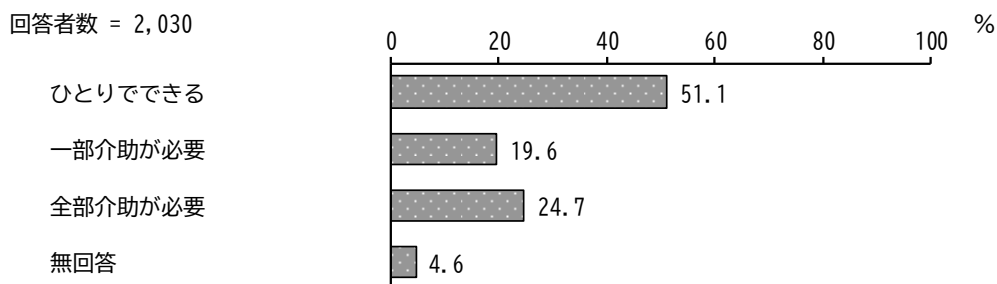
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がいで「一部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	65.7	19.8	9.1	5.5
身体障がい	1,244	69.3	16.1	8.9	5.7
知的障がい	379	30.9	39.8	25.9	3.4
精神障がい	270	60.7	28.9	7.0	3.3
難病	424	77.6	12.3	7.3	2.8
発達障がい	318	36.5	43.4	18.2	1.9
高次脳機能障がい	92	28.3	33.7	22.8	15.2

①買い物やお金の管理

「ひとりでできる」の割合が51.1%と最も高く、次いで「全部介助が必要」の割合が24.7%、「一部介助が必要」の割合が19.6%となっています。



【障がい種別】

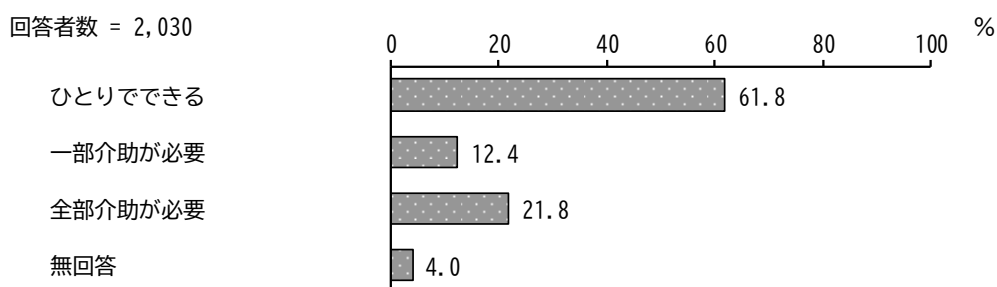
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がいで「全部介助が必要」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	51.1	19.6	24.7	4.6
身体障がい	1,244	55.5	17.0	22.7	4.7
知的障がい	379	15.8	25.9	55.1	3.2
精神障がい	270	49.6	30.4	17.0	3.0
難病	424	62.0	15.8	19.1	3.1
発達障がい	318	14.8	34.9	48.4	1.9
高次脳機能障がい	92	13.0	16.3	59.8	10.9

⑫薬の管理

「ひとりでできる」の割合が61.8%と最も高く、次いで「全部介助が必要」の割合が21.8%、「一部介助が必要」の割合が12.4%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がい「全部介助が必要」の割合が高くなっています。

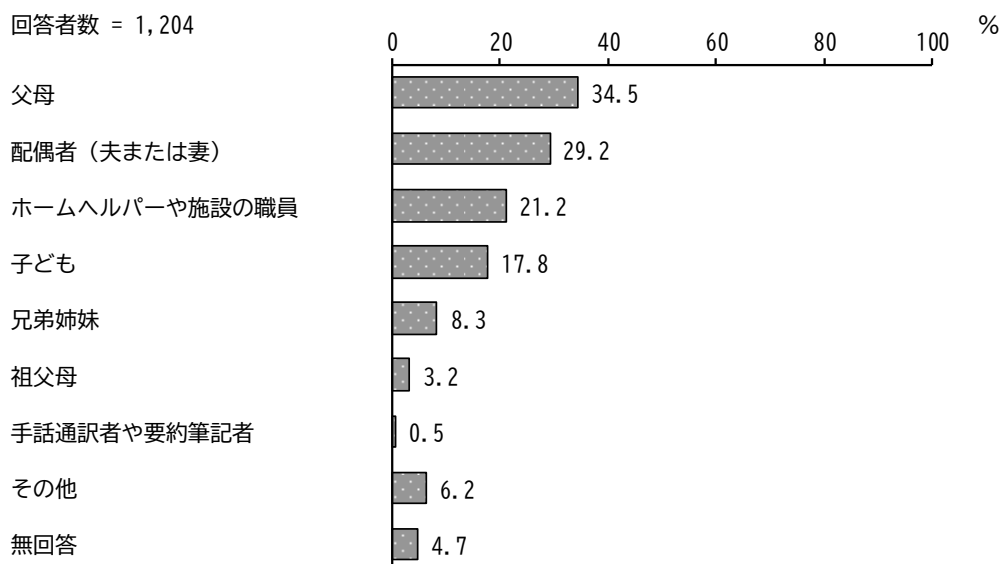
単位：%

区分	回答者数(件)	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答
全体	2,030	61.8	12.4	21.8	4.0
身体障がい	1,244	67.8	9.8	18.2	4.1
知的障がい	379	23.5	19.8	53.3	3.4
精神障がい	270	59.6	22.2	16.3	1.9
難病	424	74.1	8.7	14.2	3.1
発達障がい	318	20.1	27.7	50.0	2.2
高次脳機能障がい	92	20.7	15.2	52.2	12.0

(次の問7は、問6の①から⑫でひとつでも「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」を選んだ方にお聞きします。)

問7 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「父母」の割合が34.5%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」の割合が29.2%、「ホームヘルパーや施設の職員」の割合が21.2%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、発達障がい、知的障がいで「父母」の割合が、難病で「配偶者(夫または妻)」の割合が高くなっています。

単位：%

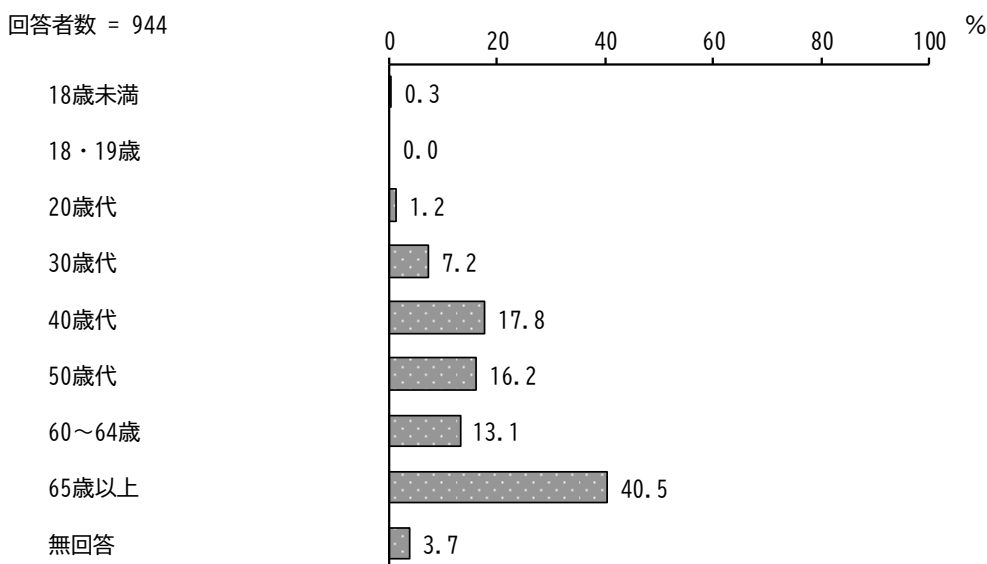
区分	回答者数(件)	父母	配偶者(夫または妻)	祖父母	子ども	兄弟姉妹	ホームヘルパーや施設の職員	手話通訳者や要約筆記者	その他	無回答
全体	1,204	34.5	29.2	3.2	17.8	8.3	21.2	0.5	6.2	4.7
身体障がい	711	17.2	38.5	1.7	26.2	5.8	23.2	0.6	7.2	4.2
知的障がい	337	76.6	4.2	7.7	0.3	17.5	20.8	0.3	4.5	2.4
精神障がい	182	45.1	21.4	0.5	4.9	6.0	24.2	0.5	8.8	4.4
難病	204	20.6	45.1	2.0	19.1	8.3	23.0	—	6.9	2.5
発達障がい	292	86.3	3.8	9.2	1.0	13.7	10.3	—	4.8	1.7
高次脳機能障がい	84	14.3	44.0	—	25.0	3.6	29.8	1.2	9.5	9.5

(次の問8は、問7で「父母」～「兄弟姉妹」を選んだ方にお聞きします。)

問8 あなたを介助してくれる家族の中で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

①年齢（令和5年1月1日現在）

「65歳以上」の割合が40.5%と最も高く、次いで「40歳代」の割合が17.8%、「50歳代」の割合が16.2%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「65歳以上」の割合が、発達障がい、知的障がいでは「40歳代」の割合が高くなっています。

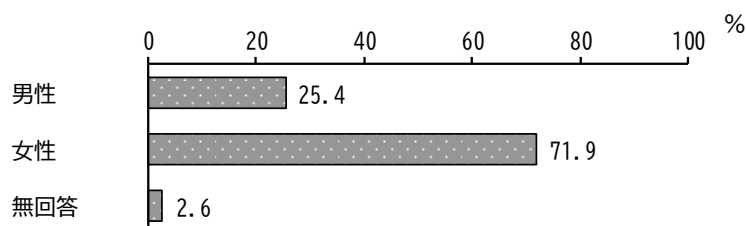
単位：%

区分	回答者数 (件)	18歳未満	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65歳以上	無回答
全体	944	0.3	—	1.2	7.2	17.8	16.2	13.1	40.5	3.7
身体障がい	545	0.4	—	0.7	3.3	11.4	13.9	13.4	52.1	4.8
知的障がい	283	0.4	—	1.1	10.6	32.9	19.4	13.1	19.8	2.8
精神障がい	128	—	—	1.6	6.3	21.1	16.4	16.4	37.5	0.8
難病	163	—	—	1.2	6.1	12.9	16.6	11.7	50.3	1.2
発達障がい	269	0.4	—	1.9	16.4	37.5	20.4	10.8	10.4	2.2
高次脳機能障がい	57	—	—	—	3.5	3.5	14.0	14.0	61.4	3.5

②性別（どちらかに○をつけてください。）

「男性」の割合が25.4%、「女性」の割合が71.9%となっています。

回答者数 = 944



【障がい種別】

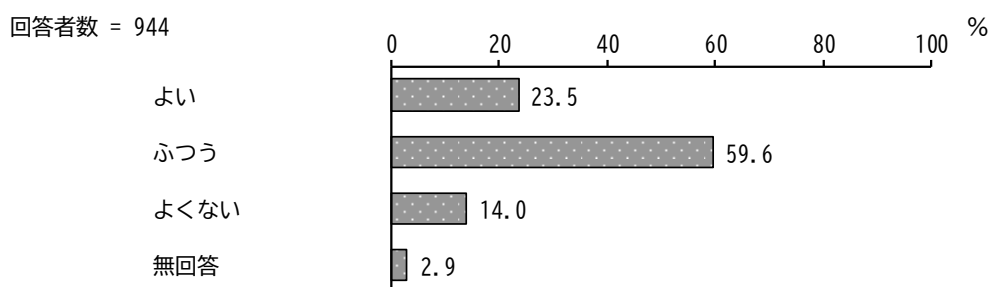
障がい種別にみると、発達障がい、知的障がいでは「女性」の割合が、難病では「男性」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	男性	女性	無回答
全 体	944	25.4	71.9	2.6
身体障がい	545	30.1	66.2	3.7
知的障がい	283	10.6	88.0	1.4
精神障がい	128	31.3	68.0	0.8
難病	163	38.0	61.3	0.6
発達障がい	269	10.8	88.1	1.1
高次脳機能障がい	57	28.1	70.2	1.8

③健康状態（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

「ふつう」の割合が59.6%と最も高く、次いで「よい」の割合が23.5%、「よくない」の割合が14.0%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「ふつう」の割合が、発達障がい、知的障がいでは「よい」の割合が高くなっています。

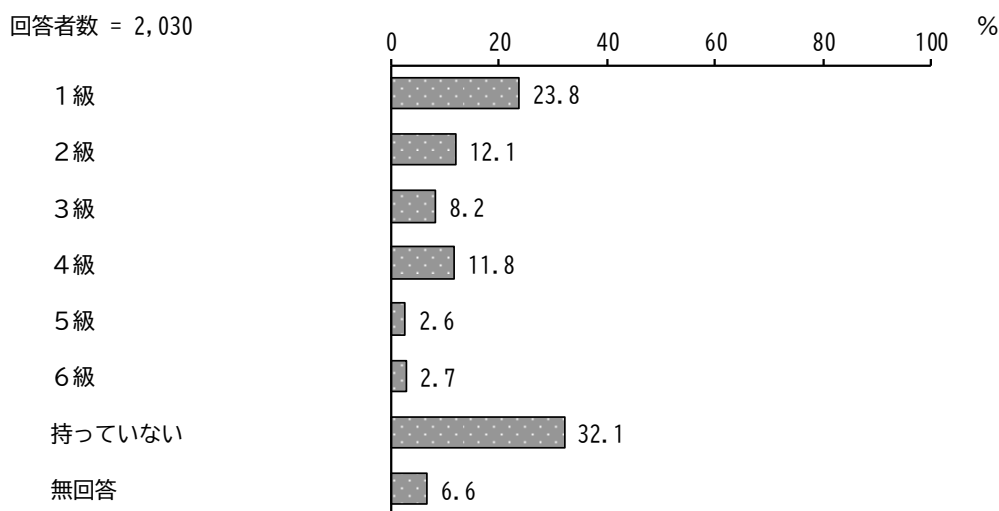
単位：%

区分	回答者数(件)	よい	ふつう	よくない	無回答
全 体	944	23.5	59.6	14.0	2.9
身体障がい	545	16.5	63.7	15.8	4.0
知的障がい	283	29.0	59.4	9.9	1.8
精神障がい	128	18.8	63.3	16.4	1.6
難病	163	25.2	58.9	15.3	0.6
発達障がい	269	30.9	56.5	11.2	1.5
高次脳機能障がい	57	10.5	70.2	17.5	1.8

(2) 障がいの状況について

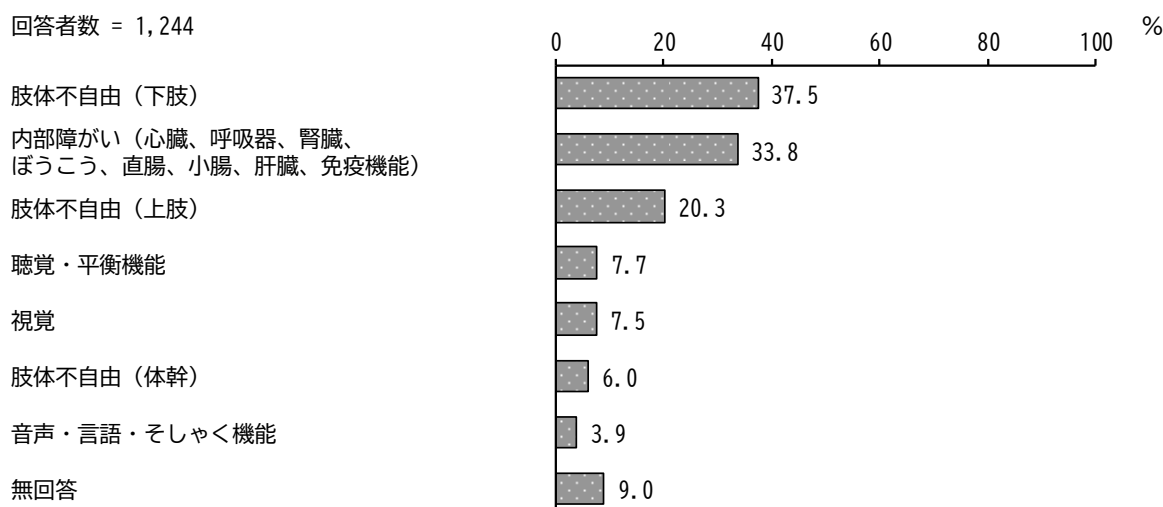
問9 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「持っていない」の割合が32.1%と最も高く、次いで「1級」の割合が23.8%、「2級」の割合が12.1%となっています。



問10 身体障害者手帳をお持ちの場合、手帳に記載されている障がいをお答えください。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

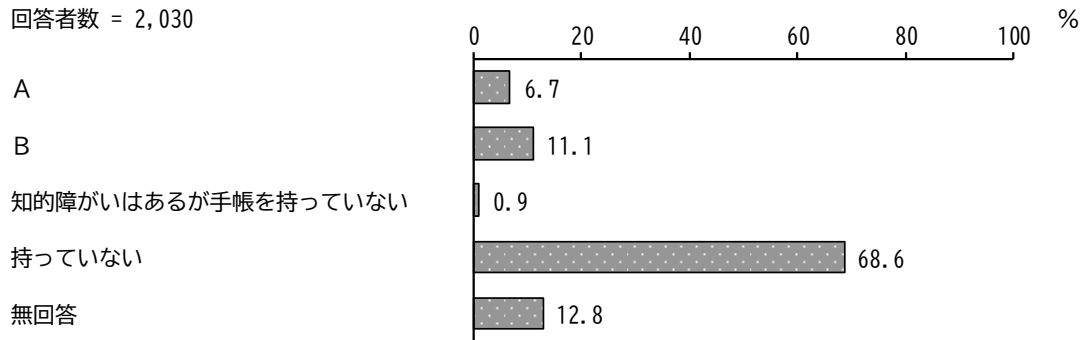
「肢体不自由（下肢）」の割合が37.5%と最も高く、次いで「内部障がい（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫機能）」の割合が33.8%、「肢体不自由（上肢）」の割合が20.3%となっています。



問 11 あなたは療育手帳をお持ちですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「持っていない」の割合が68.6%と最も高く、次いで「B」の割合が11.1%となっています。

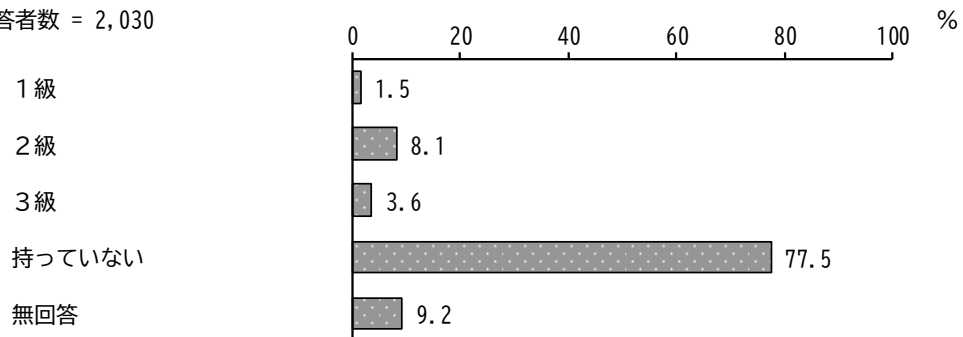
回答者数 = 2,030



問 12 あなたは精神保健福祉手帳をお持ちですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

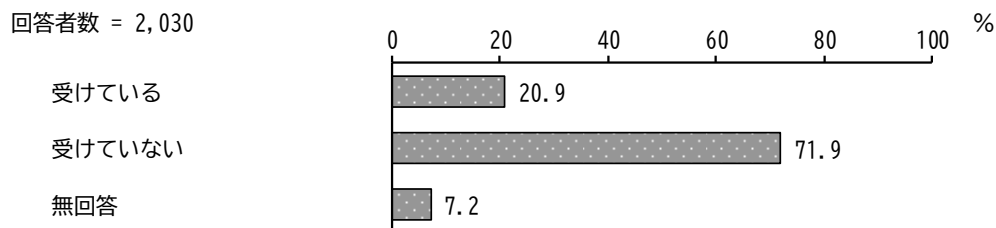
「持っていない」の割合が77.5%と最も高くなっています。

回答者数 = 2,030



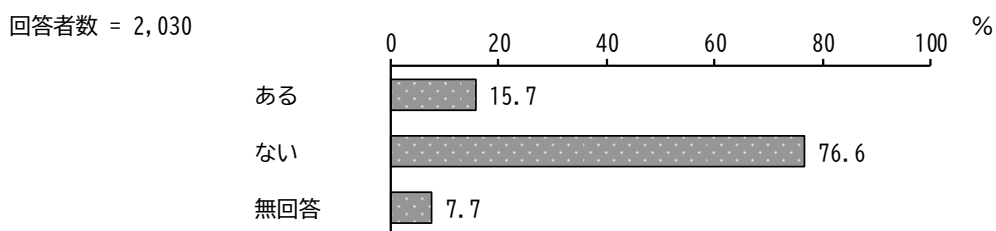
問 13 あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

「受けている」の割合が 20.9%、「受けていない」の割合が 71.9%となっています。



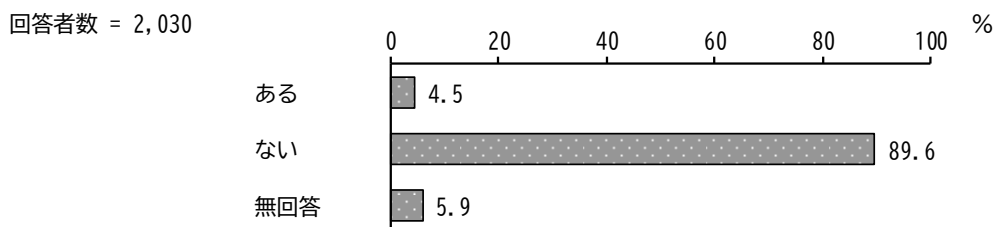
問 14 あなたは発達障がいとして診断をされたことがありますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

「ある」の割合が 15.7%、「ない」の割合が 76.6%となっています。



問 15 あなたは高次脳機能障がいとして診断されたことがありますか。
（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

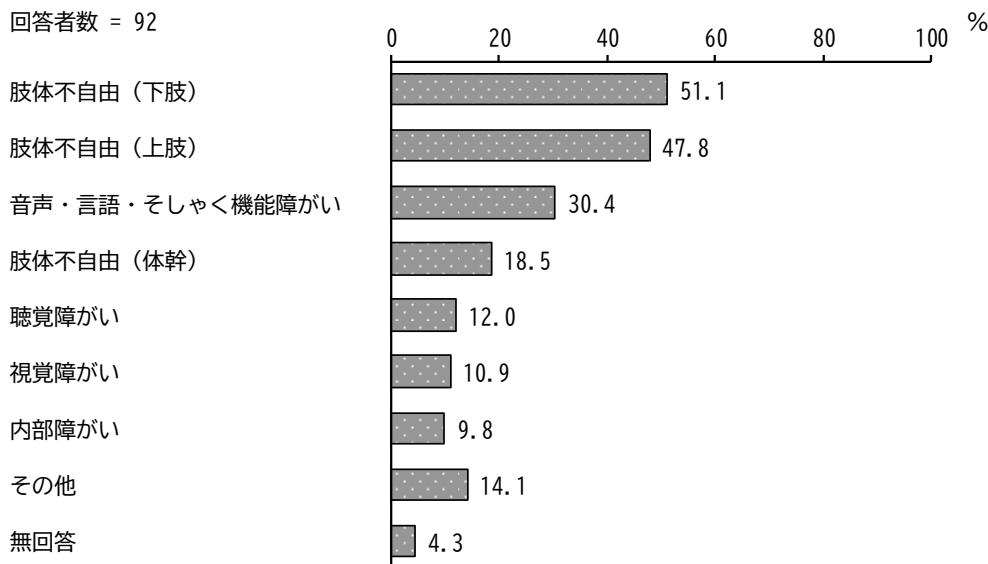
「ある」の割合が 4.5%、「ない」の割合が 89.6%となっています。



(問15で「ある」を選択された方がお答えください)

問 16 その関連障がいをお答えください。(あてはまるものすべてに○をつけてください)

「肢体不自由（下肢）」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「肢体不自由（上肢）」の割合が 47.8%、「音声・言語・そしゃく機能障がい」の割合が 30.4%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代で「肢体不自由（上肢）」「肢体不自由（下肢）」の割合が高くなっています。

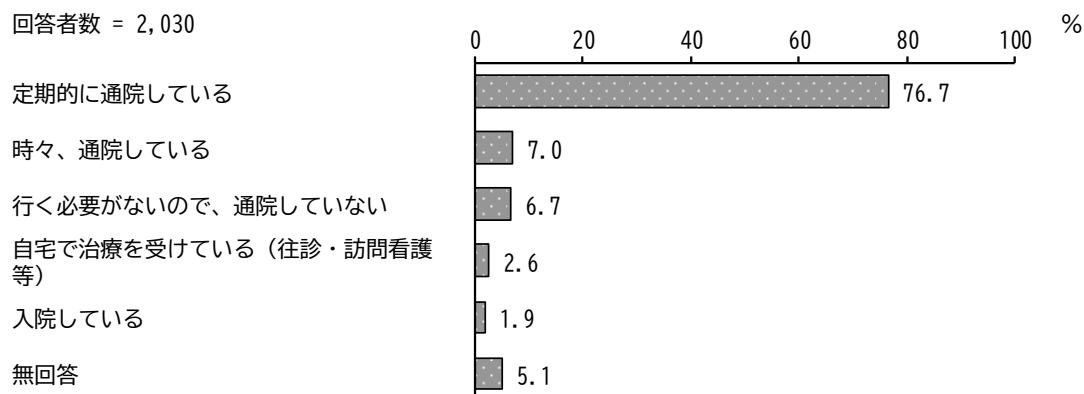
単位：%

区分	回答者数(件)	視覚障がい	聴覚障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	内部障がい	その他	無回答
全 体	92	10.9	12.0	30.4	47.8	51.1	18.5	9.8	14.1	4.3
18歳未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18・19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	2	—	50.0	—	50.0	50.0	—	—	50.0	—
30歳代	3	—	—	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	—
40歳代	7	14.3	—	57.1	42.9	42.9	14.3	—	14.3	14.3
50歳代	10	10.0	—	20.0	60.0	60.0	20.0	—	—	10.0
60～64歳	8	—	12.5	25.0	75.0	50.0	37.5	—	12.5	—
65歳以上	58	13.8	15.5	32.8	41.4	53.4	17.2	13.8	12.1	3.4

(3) 医療について

問 17 あなたは、現在通院していますか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「定期的に通院している」の割合が76.7%と最も高くなっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がい、難病で「定期的に通院している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	定期的に通院している	時々、通院している	行く必要がないので、通院していない	自宅で治療を受けている (往診・訪問看護等)	入院している	無回答
全体	2,030	76.7	7.0	6.7	2.6	1.9	5.1
身体障がい	1,244	78.3	6.6	5.4	3.5	2.1	4.2
知的障がい	379	66.2	12.1	15.0	2.1	1.6	2.9
精神障がい	270	84.8	4.1	4.4	1.1	1.9	3.7
難病	424	88.0	3.3	1.4	3.5	2.6	1.2
発達障がい	318	68.9	12.3	16.0	0.3	0.9	1.6
高次脳機能障がい	92	62.0	8.7	2.2	10.9	8.7	7.6

【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。

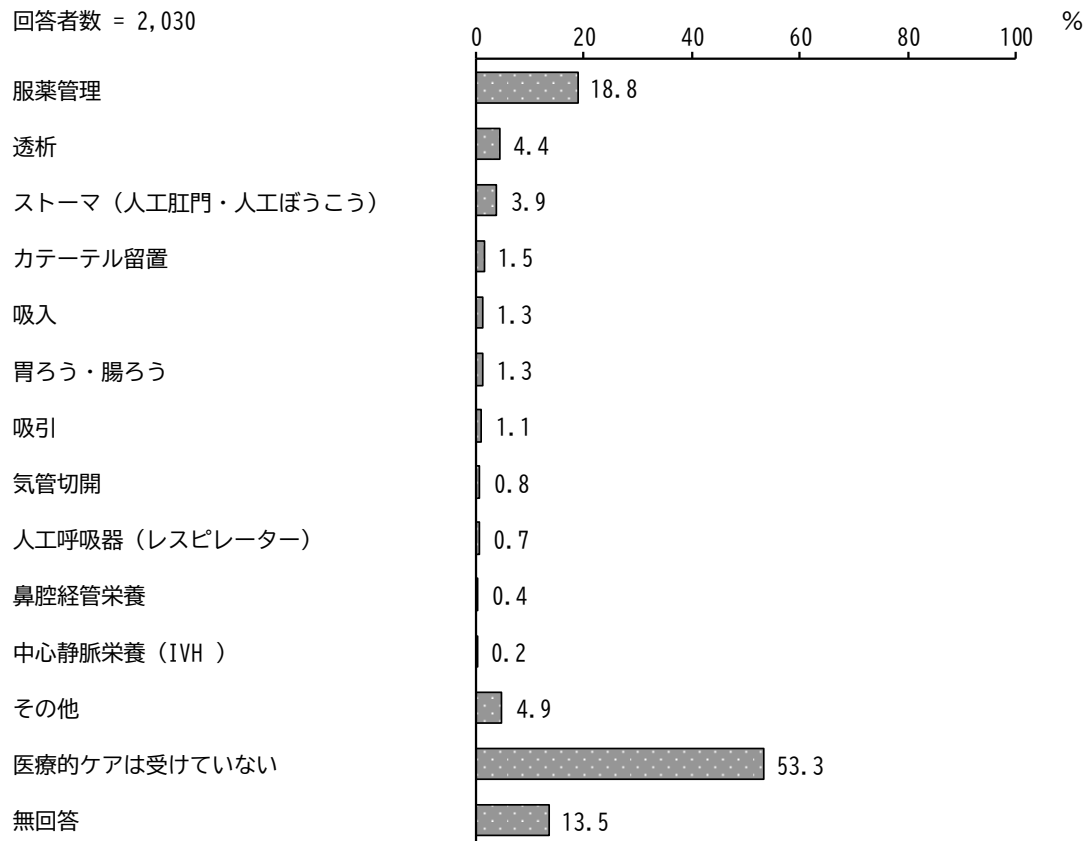
単位：％

区分	回答者数 (件)	定期的に通院している	時々、通院している	行く必要がないので、 通院していない	自宅で治療を受けている (往診・訪問看護等)	入院している	無回答
全 体	2,030	76.7	7.0	6.7	2.6	1.9	5.1
18 歳未満	196	71.4	11.7	14.8	—	1.0	1.0
18・19 歳	13	46.2	38.5	15.4	—	—	—
20 歳代	123	70.7	10.6	13.0	1.6	0.8	3.3
30 歳代	113	77.9	5.3	15.0	—	0.9	0.9
40 歳代	171	76.6	6.4	9.4	2.3	1.8	3.5
50 歳代	216	79.6	4.6	10.2	0.9	0.9	3.7
60～64 歳	140	79.3	6.4	5.0	2.1	2.9	4.3
65 歳以上	1,011	78.0	6.1	2.6	4.1	2.4	6.8

問 18 あなたは現在、医療的ケアを受けていますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)
 (受けていない場合は「医療的ケアは受けていない」に○をつけてください)

「医療的ケアは受けていない」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「服薬管理」の割合が 18.8% となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

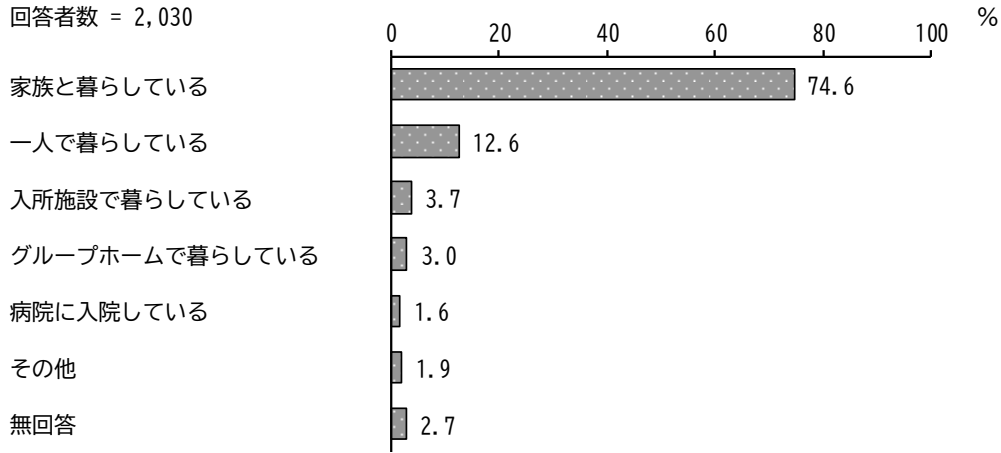
障がい種別にみると、知的障がい、精神障がい、発達障がいで「医療的ケアは受けていない」の割合が、高次脳機能障がいで「服薬管理」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	気管切開	人工呼吸器 (レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養 (IVH)	透析	カテーテル留置	ストーマ (人工肛門・人工ぼうこう)	服薬管理	その他	医療的ケアは受けていない	無回答
全体	2,030	0.8	0.7	1.3	1.1	1.3	0.4	0.2	4.4	1.5	3.9	18.8	4.9	53.3	13.5
身体障がい	1,244	1.1	1.1	1.6	1.4	1.8	0.6	0.2	7.2	2.3	5.7	19.6	5.9	47.0	13.3
知的障がい	379	1.1	0.3	2.1	2.4	2.1	0.8	0.3	0.8	0.5	0.3	15.6	5.0	62.8	12.9
精神障がい	270	—	—	0.4	0.7	0.7	—	—	1.1	0.4	—	22.2	4.1	61.1	11.9
難病	424	0.9	1.4	2.4	3.1	3.5	1.2	0.2	3.1	2.1	1.9	24.8	3.8	54.2	9.9
発達障がい	318	1.3	0.3	1.6	1.9	1.6	—	—	—	0.3	—	18.9	4.4	68.9	7.5
高次脳機能障がい	92	5.4	1.1	3.3	2.2	4.3	2.2	1.1	1.1	4.3	3.3	28.3	12.0	25.0	22.8

問 19 あなたは現在どのように暮らしていますか。
 (あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「家族と暮らしている」の割合が 74.6%と最も高く、次いで「一人で暮らしている」の割合が 12.6%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいで「家族と暮らしている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	入所施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
全体	2,030	12.6	74.6	3.0	3.7	1.6	1.9	2.7
身体障がい	1,244	15.4	72.5	1.8	3.9	1.8	2.3	2.3
知的障がい	379	4.2	82.1	5.5	5.5	0.8	0.5	1.3
精神障がい	270	16.7	63.7	10.7	3.3	2.2	1.9	1.5
難病	424	12.5	78.1	1.7	2.6	1.9	2.4	0.9
発達障がい	318	1.3	92.5	1.6	2.8	—	0.6	1.3
高次脳機能障がい	92	7.6	63.0	1.1	9.8	7.6	4.3	6.5

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満、18・19歳、20歳代で「家族と暮らしている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	入所施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
全体	2,030	12.6	74.6	3.0	3.7	1.6	1.9	2.7
18歳未満	196	－	98.5	－	1.0	－	－	0.5
18・19歳	13	－	84.6	7.7	－	－	－	7.7
20歳代	123	2.4	88.6	1.6	3.3	－	2.4	1.6
30歳代	113	11.5	77.9	7.1	－	0.9	2.7	－
40歳代	171	8.8	76.6	1.8	6.4	1.8	2.9	1.8
50歳代	216	17.6	68.5	6.9	3.2	0.9	0.5	2.3
60～64歳	140	16.4	69.3	7.1	2.1	2.1	2.1	0.7
65歳以上	1,011	15.6	69.8	2.1	4.7	2.3	2.1	3.4

【同居家族別】

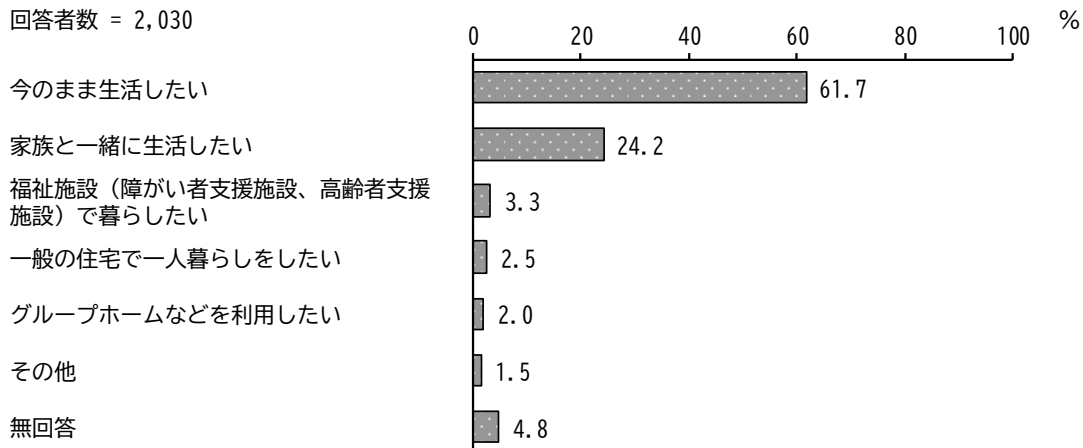
同居家族別にみると、いない（一人で暮らしている）で「一人で暮らしている」の割合が、父母、祖父母で「家族と暮らしている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	入所施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
全体	2,030	12.6	74.6	3.0	3.7	1.6	1.9	2.7
父母	557	0.4	97.5	－	0.4	0.5	0.7	0.5
配偶者(夫または妻)	837	0.6	94.0	－	0.5	1.3	1.2	2.4
祖父母	83	－	97.6	－	－	－	1.2	1.2
子ども	498	0.6	94.0	－	0.8	1.2	0.6	2.8
兄弟姉妹	300	0.3	97.0	－	－	0.3	1.0	1.3
その他	135	2.2	76.3	－	0.7	3.7	14.1	3.0
いない(一人で暮らしている)	389	61.4	0.3	15.2	16.2	3.6	0.5	2.8

問 20 あなたは今後3年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。
 (あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「今のまま生活したい」の割合が61.7%と最も高く、次いで「家族と一緒に生活したい」の割合が24.2%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいで「家族と一緒に生活したい」の割合が、難病で「今のまま生活したい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	今のまま生活したい	家族と一緒に生活したい	グループホームなどを利用したい	一般の住宅で一人暮らしをしたい	福祉施設(障がい者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしたい	その他	無回答
全体	2,030	61.7	24.2	2.0	2.5	3.3	1.5	4.8
身体障がい	1,244	63.1	24.4	1.4	1.5	4.2	1.4	4.0
知的障がい	379	45.4	35.1	3.4	4.2	4.7	1.8	5.3
精神障がい	270	57.4	18.9	6.3	7.0	2.2	3.0	5.2
難病	424	71.7	19.6	1.4	1.4	2.1	1.2	2.6
発達障がい	318	47.5	36.5	3.1	5.7	2.2	1.9	3.1
高次脳機能障がい	92	44.6	23.9	5.4	1.1	9.8	4.3	10.9

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満で「家族と一緒に生活したい」の割合が、50歳代、60～64歳で「今のまま生活したい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	今のまま生活したい	家族と一緒に生活したい	グループホームなどを利用したい	一般の住宅で一人暮らしをしたい	福祉施設(障がい者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしたい	その他	無回答
全体	2,030	61.7	24.2	2.0	2.5	3.3	1.5	4.8
18歳未満	196	53.6	42.3	0.5	0.5	0.5	0.5	2.0
18・19歳	13	38.5	15.4	7.7	30.8	—	—	7.7
20歳代	123	43.9	30.1	6.5	9.8	2.4	4.1	3.3
30歳代	113	58.4	24.8	2.7	5.3	0.9	3.5	4.4
40歳代	171	64.3	19.3	1.2	3.5	2.9	3.5	5.3
50歳代	216	68.5	17.1	3.7	2.8	1.9	1.9	4.2
60～64歳	140	74.3	15.0	2.9	1.4	3.6	—	2.9
65歳以上	1,011	62.9	23.3	1.3	1.4	4.5	1.0	5.5

【同居家族別】

同居家族別にみると、父母、祖父母、兄弟姉妹で「家族と一緒に生活したい」の割合が高くなっています。

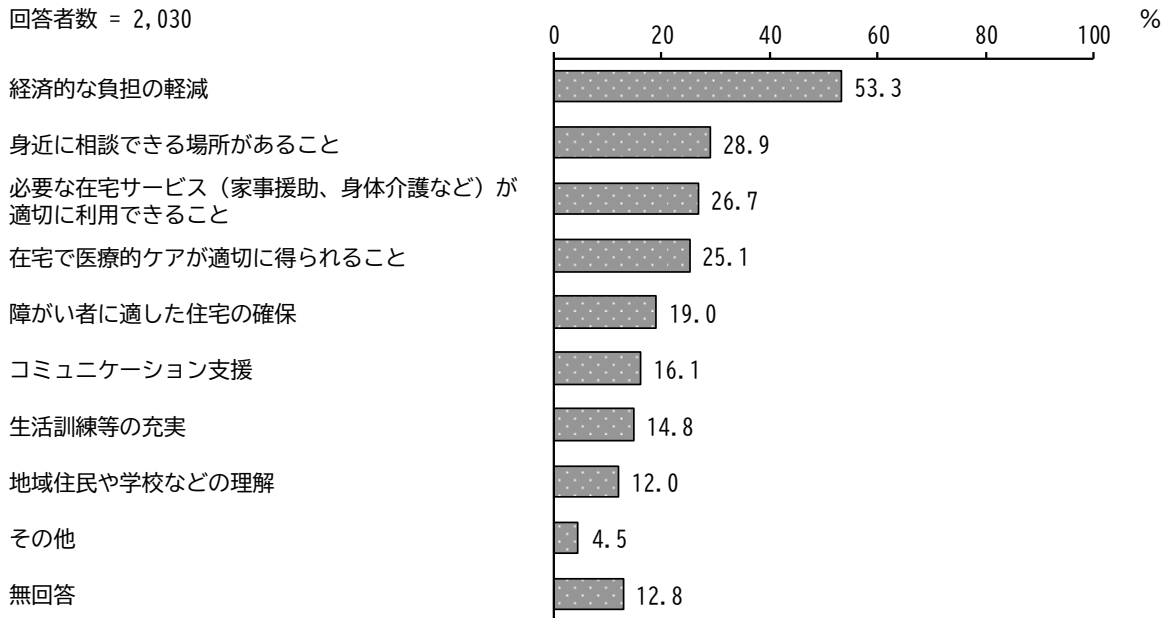
単位：％

区分	回答者数(件)	今のまま生活したい	家族と一緒に生活したい	グループホームなどを利用したい	一般の住宅で一人暮らしをしたい	福祉施設(障がい者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしたい	その他	無回答
全体	2,030	61.7	24.2	2.0	2.5	3.3	1.5	4.8
父母	557	55.5	33.6	1.4	3.8	0.7	1.3	3.8
配偶者(夫または妻)	837	66.4	25.9	0.2	0.7	1.9	1.0	3.8
祖父母	83	49.4	37.3	—	6.0	2.4	2.4	2.4
子ども	498	62.7	28.9	0.4	1.2	2.8	0.4	3.6
兄弟姉妹	300	54.3	36.7	1.3	2.7	1.3	0.7	3.0
その他	135	60.0	25.9	0.7	1.5	3.7	5.2	3.0
いない(一人で暮らしている)	389	65.6	6.7	6.4	4.4	7.7	2.6	6.7

問 21 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「経済的な負担の軽減」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「身近に相談できる場所があること」の割合が 28.9%、「必要な在宅サービス（家事援助、身体介護など）が適切に利用できること」の割合が 26.7%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

障がい種別にみると、発達障がいでは「地域住民や学校などの理解」「身近に相談できる場所があること」「コミュニケーション支援」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	在宅で医療的ケアが適切に得られること	障がい者に適した住宅の確保	必要な在宅サービス（家事援助、身体介護など）が適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	身近に相談できる場所があること	地域住民や学校などの理解	コミュニケーション支援	その他	無回答
全体	2,030	25.1	19.0	26.7	14.8	53.3	28.9	12.0	16.1	4.5	12.8
身体障がい	1,244	30.5	18.8	29.3	10.7	49.4	22.3	5.7	11.3	4.0	14.0
知的障がい	379	15.0	31.7	31.4	32.5	55.4	44.6	29.0	34.3	7.4	6.3
精神障がい	270	11.1	24.4	21.1	17.8	67.4	45.6	18.5	28.5	3.7	10.7
難病	424	32.1	16.0	28.5	9.7	61.1	24.8	7.5	7.5	5.7	8.5
発達障がい	318	8.2	27.0	22.6	34.6	66.4	56.9	45.0	41.5	6.3	3.5
高次脳機能障がい	92	19.6	19.6	31.5	15.2	46.7	18.5	4.3	12.0	4.3	25.0

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満で「地域住民や学校などの理解」「身近に相談できる場所があること」「生活訓練等の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	在宅で医療的ケアが適切に得られること	障がい者に適した住宅の確保	必要な在宅サービス(家事援助、身体介護など)が適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	身近に相談できる場所があること	地域住民や学校などの理解	コミュニケーション支援	その他	無回答
全体	2,030	25.1	19.0	26.7	14.8	53.3	28.9	12.0	16.1	4.5	12.8
18歳未満	196	4.1	24.5	18.9	42.3	67.3	59.2	70.9	42.9	7.7	2.6
18・19歳	13	7.7	30.8	15.4	38.5	46.2	46.2	7.7	23.1	—	7.7
20歳代	123	12.2	30.1	30.9	21.1	64.2	47.2	17.1	39.0	4.9	6.5
30歳代	113	15.9	27.4	32.7	24.8	67.3	50.4	13.3	26.5	8.8	6.2
40歳代	171	16.4	26.9	18.7	14.6	66.7	35.7	10.5	17.0	5.8	9.4
50歳代	216	17.1	25.9	19.0	8.3	66.2	28.7	6.9	12.0	5.1	6.9
60～64歳	140	20.7	22.1	20.7	9.3	55.7	28.6	5.0	8.6	4.3	20.0
65歳以上	1,011	35.6	12.4	31.3	9.5	43.1	17.7	2.6	9.2	3.4	16.7

【同居家族別】

同居家族別にみると、父母で「地域住民や学校などの理解」の割合が、祖父母、兄弟姉妹で「地域住民や学校などの理解」の割合が高くなっています。

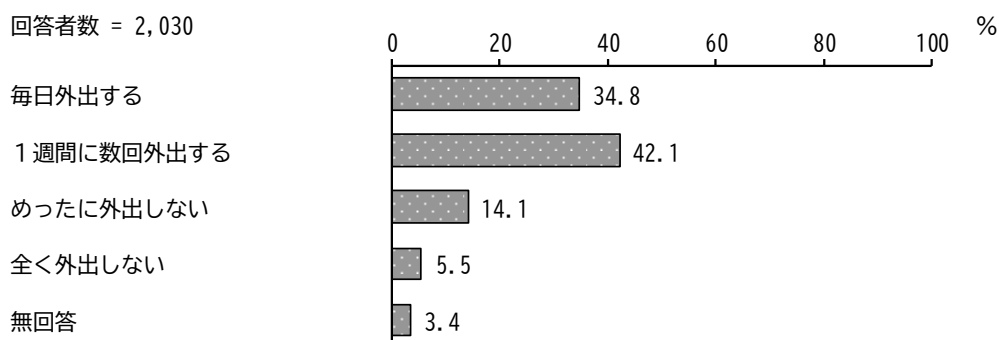
単位：％

区分	回答者数(件)	在宅で医療的ケアが適切に得られること	障がい者に適した住宅の確保	必要な在宅サービス(家事援助、身体介護など)が適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	身近に相談できる場所があること	地域住民や学校などの理解	コミュニケーション支援	その他	無回答
全 体	2,030	25.1	19.0	26.7	14.8	53.3	28.9	12.0	16.1	4.5	12.8
父母	557	11.0	24.6	24.2	26.4	63.7	46.1	32.1	30.5	6.1	7.0
配偶者(夫または妻)	837	30.9	13.6	26.4	10.4	51.6	21.9	5.0	8.5	4.7	14.5
祖父母	83	7.2	21.7	18.1	24.1	57.8	48.2	45.8	32.5	7.2	4.8
子ども	498	34.1	14.3	28.1	10.8	50.2	24.5	4.8	8.8	3.2	15.7
兄弟姉妹	300	14.7	26.7	25.7	28.3	62.0	46.7	39.0	35.3	4.3	6.3
その他	135	26.7	18.5	30.4	11.9	54.8	24.4	5.9	16.3	5.9	11.9
いない(一人で暮らしている)	389	24.4	24.4	27.8	9.8	50.9	24.9	3.6	13.4	3.6	12.1

(4) 外出や日中活動について

問 22 あなたは、1週間にどの程度外出しますか
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「1週間に数回外出する」の割合が42.1%と最も高く、次いで「毎日外出する」の割合が34.8%、「めったに外出しない」の割合が14.1%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいでは「毎日外出する」の割合が、高次脳機能障がいでは「めったに外出しない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	毎日外出する	1週間に数回外出する	めったに外出しない	全く外出しない	無回答
全 体	2,030	34.8	42.1	14.1	5.5	3.4
身体障がい	1,244	26.2	45.3	17.9	7.2	3.5
知的障がい	379	50.9	33.0	10.8	2.9	2.4
精神障がい	270	35.9	46.3	10.4	4.1	3.3
難病	424	34.9	42.2	15.3	5.2	2.4
発達障がい	318	60.4	29.2	7.5	0.6	2.2
高次脳機能障がい	92	9.8	41.3	19.6	21.7	7.6

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満、18・19歳、20歳代で「毎日外出する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	毎日外出する	1週間に 数回外出する	めったに 外出しない	全く 外出しない	無回答
全 体	2,030	34.8	42.1	14.1	5.5	3.4
18歳未満	196	76.5	17.3	3.6	—	2.6
18・19歳	13	53.8	38.5	7.7	—	—
20歳代	123	51.2	36.6	9.8	0.8	1.6
30歳代	113	45.1	43.4	7.1	3.5	0.9
40歳代	171	50.9	34.5	8.2	3.5	2.9
50歳代	216	44.0	36.6	13.9	3.7	1.9
60～64歳	140	39.3	43.6	11.4	4.3	1.4
65歳以上	1,011	19.0	49.5	19.1	8.5	4.0

【同居家族別】

同居家族別にみると、父母、祖父母、兄弟姉妹で「毎日外出する」の割合が高くなっています。

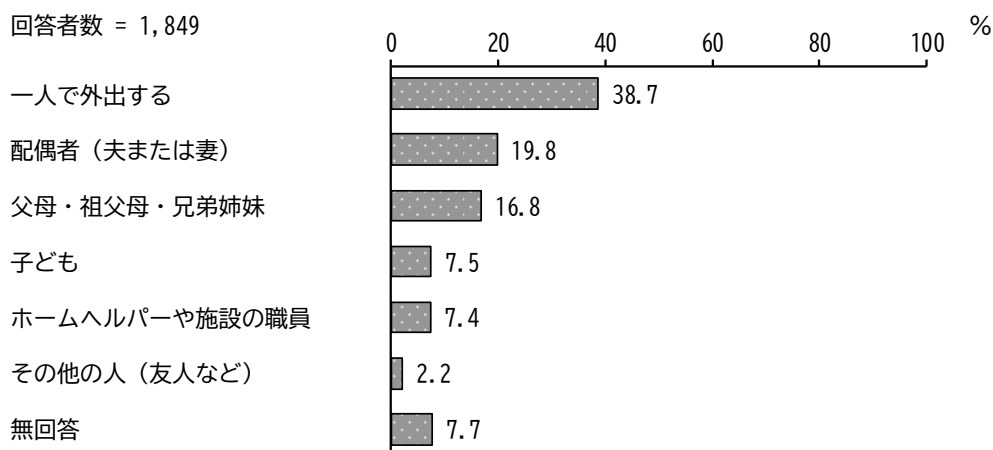
単位：％

区分	回答者数 (件)	毎日外出する	1週間に 数回外出する	めったに 外出しない	全く 外出しない	無回答
全 体	2,030	34.8	42.1	14.1	5.5	3.4
父母	557	55.7	32.3	8.4	1.4	2.2
配偶者（夫または妻）	837	31.7	47.1	12.9	5.1	3.2
祖父母	83	65.1	25.3	7.2	—	2.4
子ども	498	32.3	39.4	19.3	4.8	4.2
兄弟姉妹	300	56.0	29.3	10.0	2.0	2.7
その他	135	33.3	40.0	17.0	5.9	3.7
いない（一人で暮らしている）	389	25.4	46.0	14.7	11.3	2.6

(次の問 23 から問 26 は、問 22 で「毎日外出する」、「1 週間に数回外出する」、「めったに外出しない」を選んだ方にお聞きします。)

問 23 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「一人で外出する」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」の割合が 19.8%、「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が 16.8%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいでは「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が、精神障がいでは「一人で外出する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	父母・祖父母・兄弟姉妹	配偶者(夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人(友人など)	一人で外出する	無回答
全体	1,849	16.8	19.8	7.5	7.4	2.2	38.7	7.7
身体障がい	1,112	7.7	25.1	10.3	8.4	2.4	37.9	8.3
知的障がい	359	52.9	3.1	1.4	11.1	0.8	21.2	9.5
精神障がい	250	19.2	12.4	2.0	4.4	2.0	53.2	6.8
難病	392	9.4	24.2	6.9	7.9	2.3	42.6	6.6
発達障がい	309	60.5	1.9	—	4.5	1.6	24.3	7.1
高次脳機能障がい	65	13.8	27.7	10.8	15.4	4.6	10.8	16.9

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満、18・19歳、20歳代で「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	姉妹 父母・祖父母・兄弟	配偶者 (夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや 施設の職員	その他の人 (友人など)	一人で外出する	無回答
全 体	1,849	16.8	19.8	7.5	7.4	2.2	38.7	7.7
18歳未満	191	81.2	0.5	—	1.0	1.0	12.0	4.2
18・19歳	13	46.2	—	—	7.7	7.7	30.8	7.7
20歳代	120	40.0	2.5	—	7.5	—	39.2	10.8
30歳代	108	33.3	1.9	2.8	6.5	1.9	43.5	10.2
40歳代	160	19.4	9.4	3.8	8.8	0.6	50.6	7.5
50歳代	204	7.4	15.2	2.0	7.4	1.5	59.3	7.4
60～64歳	132	4.5	28.0	2.3	5.3	3.0	49.2	7.6
65歳以上	885	1.4	30.5	13.2	8.8	2.6	35.6	7.9

【同居家族別】

同居家族別にみると、父母、祖父母、兄弟姉妹で「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が高くなっています。

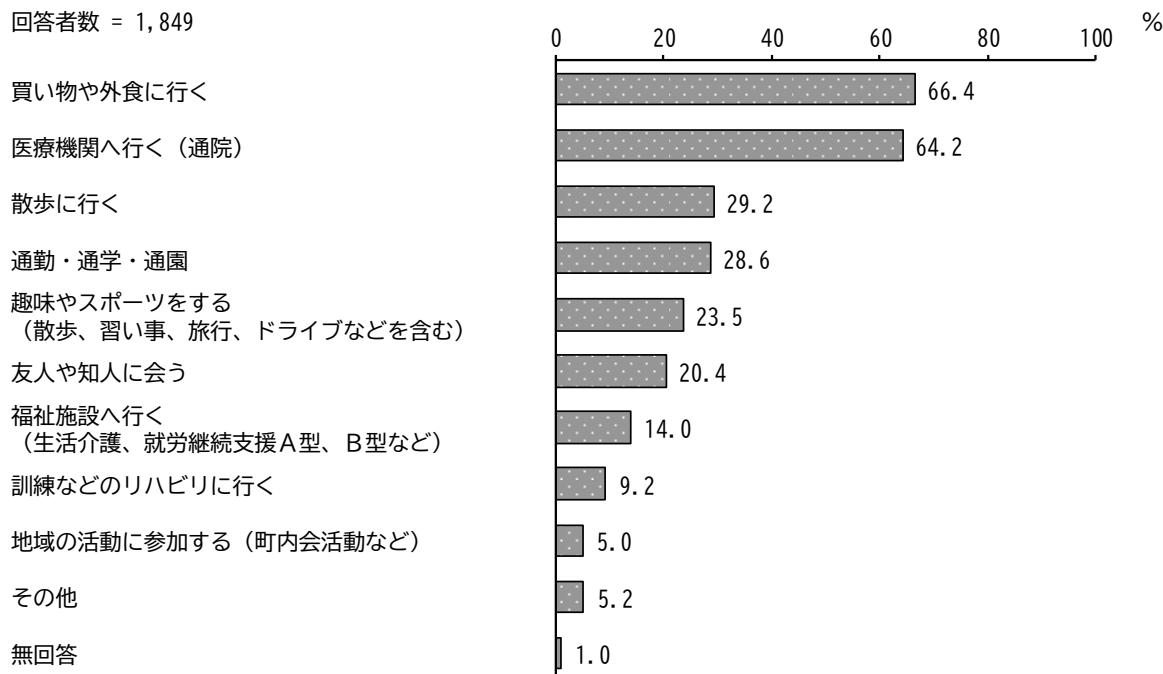
単位：％

区分	回答者数 (件)	姉妹 父母・祖父母・兄弟	配偶者 (夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや 施設の職員	その他の人 (友人など)	一人で外出する	無回答
全 体	1,849	16.8	19.8	7.5	7.4	2.2	38.7	7.7
父母	537	52.0	4.3	1.1	4.1	0.7	30.5	7.3
配偶者(夫または妻)	767	0.7	46.4	4.8	4.2	0.9	33.8	9.3
祖父母	81	55.6	2.5	—	3.7	—	29.6	8.6
子ども	453	1.5	21.9	20.5	6.8	1.3	38.6	9.3
兄弟姉妹	286	60.5	0.7	1.0	4.2	0.7	24.8	8.0
その他	122	13.9	15.6	9.8	7.4	6.6	34.4	12.3
いない(一人で暮らしている)	335	2.7	0.6	6.0	14.9	4.8	66.0	5.1

問 24 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「買い物や外出に行く」の割合が 66.4%と最も高く、次いで「医療機関へ行く（通院）」の割合が 64.2%、「散歩に行く」の割合が 29.2%となっています。

回答者数 = 1,849



【障がい種別】

障がい種別にみると、発達障がいでは「通勤・通学・通園」の割合が、知的障がいでは「福祉施設へ行く（生活介護、就労継続支援A型、B型など）」「通勤・通学・通園」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	通勤・通学・通園	福祉施設へ行く (生活介護、就労継続支援A型、B型など)	医療機関へ行く (通院)	訓練などのリハビリに行く	買い物や外出に行く	友人や知人に会う	趣味やスポーツをする (散歩、習い事、旅行、ドライブなどを含む)	地域の活動に参加する (町内会活動など)	散歩に行く	その他	無回答
全体	1,849	28.6	14.0	64.2	9.2	66.4	20.4	23.5	5.0	29.2	5.2	1.0
身体障がい	1,112	18.9	10.5	68.6	10.8	63.8	21.9	22.5	6.2	28.1	4.9	0.9
知的障がい	359	47.9	33.7	49.3	8.6	65.5	10.9	21.2	1.1	28.1	7.0	0.3
精神障がい	250	28.0	23.6	67.2	4.8	70.0	19.2	22.4	1.2	31.2	4.8	0.8
難病	392	32.4	8.7	74.0	9.2	67.3	23.7	23.7	5.6	24.7	4.6	0.3
発達障がい	309	62.8	25.6	48.9	11.3	61.5	12.3	25.2	1.0	25.9	5.5	—
高次脳機能障がい	65	4.6	27.7	53.8	23.1	33.8	6.2	6.2	4.6	16.9	6.2	4.6

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満、18・19歳で「通勤・通学・通園」の割合が、20歳代で「福祉施設へ行く（生活介護、就労継続支援A型、B型など）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	通勤・通学・通園	福祉施設へ行く(生活介護、就労継続支援A型、B型など)	医療機関へ行く(通院)	訓練などのリハビリに行く	買い物や外食に行く	友人や知人に会う	趣味やスポーツをする(散歩、習い事、旅行、ドライブなどを含む)	地域の活動に参加する(町内会活動など)	散歩に行く	その他	無回答
全体	1,849	28.6	14.0	64.2	9.2	66.4	20.4	23.5	5.0	29.2	5.2	1.0
18歳未満	191	98.4	8.9	47.1	19.4	59.7	14.1	30.9	1.6	23.0	6.3	—
18・19歳	13	69.2	15.4	15.4	—	61.5	—	15.4	—	15.4	—	—
20歳代	120	33.3	43.3	55.8	6.7	70.8	22.5	25.8	—	30.0	3.3	1.7
30歳代	108	38.9	37.0	60.2	2.8	75.0	21.3	29.6	0.9	33.3	5.6	—
40歳代	160	43.8	18.1	59.4	3.1	70.6	23.8	23.8	1.3	26.3	3.8	1.3
50歳代	204	33.8	12.7	66.2	5.9	74.0	21.6	21.1	2.9	27.9	2.5	0.5
60～64歳	132	29.5	9.8	64.4	6.8	74.2	15.9	18.9	4.5	26.5	7.6	1.5
65歳以上	885	7.1	8.5	71.0	10.6	62.7	21.6	22.5	8.2	31.6	5.9	1.4

【同居家族別】

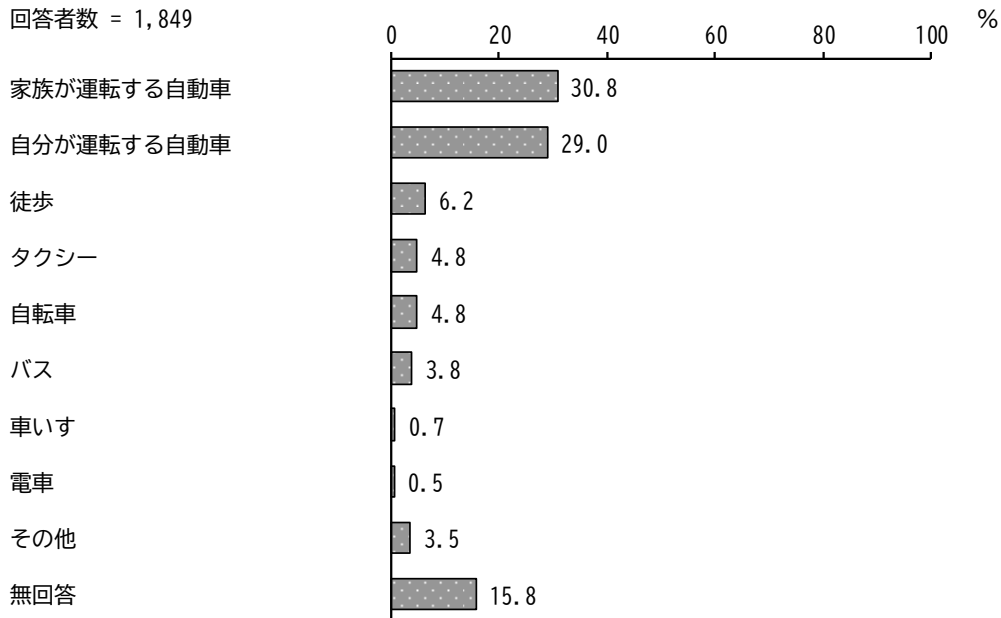
同居家族別にみると、父母、祖父母、兄弟姉妹で「通勤・通学・通園」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	通勤・通学・通園	福祉施設へ行く(生活介護、就労継続支援A型、B型など)	医療機関へ行く(通院)	訓練などのリハビリに行く	買い物や外食に行く	友人や知人に会う	趣味やスポーツをする(散歩、習い事、旅行、ドライブなどを含む)	地域の活動に参加する(町内会活動など)	散歩に行く	その他	無回答
全体	1,849	28.6	14.0	64.2	9.2	66.4	20.4	23.5	5.0	29.2	5.2	1.0
父母	537	54.4	23.6	53.4	9.5	66.1	18.2	27.6	1.9	26.1	4.7	0.6
配偶者(夫または妻)	767	22.8	5.5	68.2	9.0	69.6	24.0	27.1	8.3	30.8	4.7	1.2
祖父母	81	70.4	24.7	45.7	11.1	66.7	19.8	37.0	1.2	32.1	3.7	—
子ども	453	26.7	8.6	67.5	9.3	62.0	21.9	21.0	6.6	26.9	6.4	1.3
兄弟姉妹	286	59.1	21.7	53.5	10.8	63.6	14.7	26.9	1.7	24.8	4.9	0.7
その他	122	28.7	12.3	65.6	9.8	62.3	20.5	24.6	6.6	26.2	12.3	—
いない(一人で暮らしている)	335	13.4	16.7	69.9	8.1	70.7	20.9	16.4	3.6	34.9	4.8	0.9

問 25 あなたが外出する際に最もよく利用する交通手段をお答えください。
 (あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「家族が運転する自動車」の割合が 30.8%と最も高く、次いで「自分が運転する自動車」の割合が 29.0%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいでは「家族が運転する自動車」の割合が、難病で「自分が運転する自動車」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分が運転する自動車	家族が運転する自動車	バス	電車	タクシー	自転車	徒歩	車いす	その他	無回答
全体	1,849	29.0	30.8	3.8	0.5	4.8	4.8	6.2	0.7	3.5	15.8
身体障がい	1,112	33.4	28.6	3.0	0.5	7.1	3.0	3.2	1.1	3.7	16.5
知的障がい	359	4.5	49.3	5.0	—	1.9	5.0	10.9	0.6	6.1	16.7
精神障がい	250	16.0	22.8	10.0	—	1.2	16.0	12.4	—	1.6	20.0
難病	392	42.1	28.1	2.8	0.8	5.4	3.1	2.6	0.3	4.3	10.7
発達障がい	309	5.5	51.1	5.2	0.6	0.3	6.5	14.2	—	2.6	13.9
高次脳機能障がい	65	4.6	40.0	4.6	—	16.9	4.6	3.1	3.1	3.1	20.0

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満で「家族が運転する自動車」の割合が、40歳代、60～64歳で「自分が運転する自動車」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自動車 自分が運転する	自動車 家族が運転する	バス	電車	タクシー	自転車	徒歩	車いす	その他	無回答
全体	1,849	29.0	30.8	3.8	0.5	4.8	4.8	6.2	0.7	3.5	15.8
18歳未満	191	—	67.0	2.6	0.5	—	3.1	13.6	—	0.5	12.6
18・19歳	13	—	38.5	30.8	—	—	7.7	7.7	—	7.7	7.7
20歳代	120	15.0	33.3	7.5	0.8	0.8	8.3	13.3	—	2.5	18.3
30歳代	108	24.1	34.3	3.7	—	—	10.2	8.3	0.9	4.6	13.9
40歳代	160	44.4	20.6	2.5	1.3	1.3	6.9	6.3	—	5.0	11.9
50歳代	204	39.7	17.6	5.9	1.0	2.9	7.8	7.4	2.0	3.4	12.3
60～64歳	132	42.4	19.7	2.3	0.8	1.5	4.5	7.6	1.5	3.0	16.7
65歳以上	885	30.8	28.6	3.1	0.3	8.5	3.1	2.8	0.7	4.1	18.1

【同居家族別】

同居家族別にみると、祖父母、兄弟姉妹で「家族が運転する自動車」の割合が、配偶者（夫または妻）で「自分が運転する自動車」の割合が高くなっています。

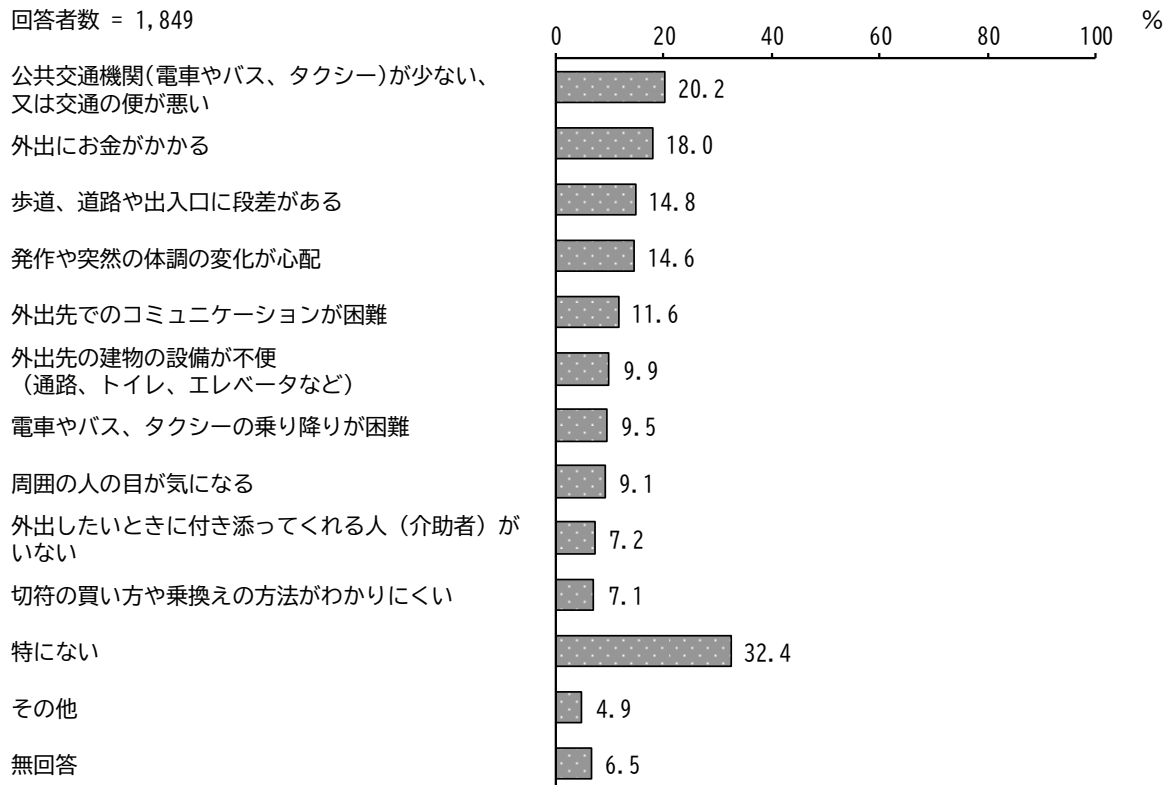
単位：%

区分	回答者数 (件)	自動車 自分が運転する	自動車 家族が運転する	バス	電車	タクシー	自転車	徒歩	車いす	その他	無回答
全体	1,849	29.0	30.8	3.8	0.5	4.8	4.8	6.2	0.7	3.5	15.8
父母	537	18.2	44.9	4.5	0.6	0.7	6.9	9.5	0.2	2.0	12.5
配偶者（夫または妻）	767	45.4	27.2	1.6	0.5	4.0	1.3	2.7	0.5	2.3	14.3
祖父母	81	14.8	49.4	4.9	1.2	—	4.9	7.4	—	2.5	14.8
子ども	453	40.2	30.7	1.3	0.4	4.6	1.8	2.6	0.7	2.9	14.8
兄弟姉妹	286	9.1	50.7	4.5	0.3	1.7	5.9	12.6	—	0.7	14.3
その他	122	28.7	32.8	3.3	1.6	3.3	0.8	4.9	—	5.7	18.9
いない（一人で暮らしている）	335	21.8	9.9	8.7	0.9	9.6	10.4	9.0	2.1	7.2	20.6

問 26 外出する時に困ったり、不便を感じたりすることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「特にない」の割合が 32.4%と最も高く、次いで「公共交通機関(電車やバス、タクシー)が少ない、又は交通の便が悪い」の割合が 20.2%、「外出にお金がかかる」の割合が 18.0%となっています。

回答者数 = 1,849



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい「外出先でのコミュニケーションが困難」の割合が、精神障がい「外出にお金がかかる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	公共交通機関(電車やバス、タクシー)が少ない、又は交通の便が悪い	電車やバス、タクシーの乗り降りが困難	歩道、道路や出入口に段差がある	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	外出したいときに付き添ってくれる人(介助者)がいない	外出にお金がかかる	周囲の人の目が気になる	外出先でのコミュニケーションが困難	発作や突然の体調の変化が心配	特にない	その他	無回答
全体	1,849	20.2	9.5	14.8	7.1	9.9	7.2	18.0	9.1	11.6	14.6	32.4	4.9	6.5
身体障がい	1,112	19.3	12.8	20.4	5.7	12.7	7.3	18.2	7.0	7.6	15.5	30.5	5.2	6.6
知的障がい	359	21.2	9.5	9.7	14.8	12.3	12.5	19.2	17.3	33.1	12.8	23.1	4.7	4.7
精神障がい	250	28.0	5.6	8.0	11.6	4.0	10.0	29.2	20.8	18.4	22.4	25.6	5.6	5.6
難病	392	19.1	11.5	20.2	4.3	14.3	5.1	15.3	6.6	6.4	19.4	34.7	6.6	4.6
発達障がい	309	23.6	7.4	6.8	15.9	8.7	8.7	19.4	18.8	34.3	11.7	25.9	6.5	2.9
高次脳機能障がい	65	10.8	7.7	20.0	10.8	18.5	9.2	20.0	10.8	15.4	12.3	9.2	6.2	29.2

【年齢別】

年齢別にみると、18歳未満、18・19歳、20歳代で「外出先でのコミュニケーションが困難」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	公共交通機関(電車やバス、タクシー)が少ない、又は交通の便が悪い	電車やバス、タクシーの乗り降りが困難	歩道、道路や出入口に段差がある	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	外出したいときに付き添ってくれる人(介助者)がいない	外出にお金がかかる	周囲の人の目が気になる	外出先でのコミュニケーションが困難	発作や突然の体調の変化が心配	特にない	その他	無回答
全体	1,849	20.2	9.5	14.8	7.1	9.9	7.2	18.0	9.1	11.6	14.6	32.4	4.9	6.5
18歳未満	191	18.8	6.3	5.2	14.1	10.5	6.3	15.2	16.8	32.5	11.0	35.6	4.2	2.6
18・19歳	13	23.1	7.7	7.7	7.7	15.4	7.7	—	15.4	23.1	15.4	30.8	—	—
20歳代	120	22.5	7.5	8.3	11.7	10.0	15.0	20.0	18.3	30.8	12.5	22.5	6.7	4.2
30歳代	108	30.6	5.6	10.2	10.2	14.8	8.3	24.1	22.2	18.5	25.0	20.4	7.4	2.8
40歳代	160	24.4	7.5	11.9	11.9	10.6	7.5	20.0	14.4	16.9	18.8	31.9	4.4	3.8
50歳代	204	26.5	9.3	16.7	6.4	13.2	9.8	20.6	12.7	7.8	20.1	33.8	5.4	2.5
60～64歳	132	19.7	12.9	16.7	4.5	9.1	3.8	21.2	6.1	3.8	9.8	32.6	7.6	9.1
65歳以上	885	17.3	10.8	18.1	4.3	8.5	6.3	16.3	3.3	5.0	13.1	34.5	4.4	8.7

【同居家族別】

同居家族別にみると、父母、祖父母、兄弟姉妹で「外出先でのコミュニケーションが困難」の割合が高くなっています。

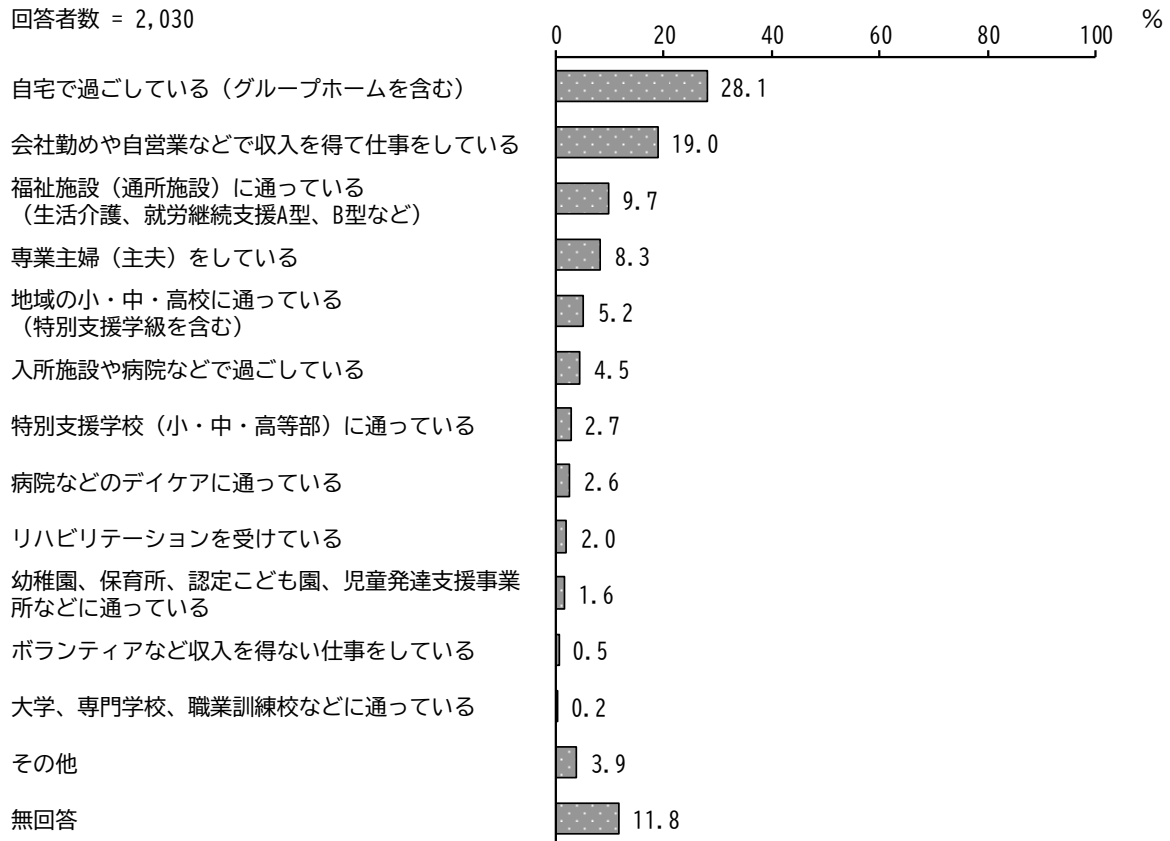
単位：％

区分	回答者数(件)	公共交通機関(電車やバス、タクシー)が少ない、又は交通の便が悪い	電車やバス、タクシーの乗り降りが困難	歩道、道路や出入口に段差がある	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	外出したいときに付き添ってくれる人(介助者)がいない	外出にお金がかかる	周囲の人の目が気になる	外出先でのコミュニケーションが困難	発作や突然の体調の変化が心配	特にない	その他	無回答
全体	1,849	20.2	9.5	14.8	7.1	9.9	7.2	18.0	9.1	11.6	14.6	32.4	4.9	6.5
父母	537	22.9	7.6	8.9	12.1	10.1	7.1	19.2	16.2	25.5	13.2	30.2	4.8	3.7
配偶者(夫または妻)	767	18.1	8.0	17.1	4.3	9.9	3.4	12.3	5.3	4.4	15.0	37.2	5.2	8.0
祖父母	81	22.2	9.9	4.9	11.1	7.4	3.7	21.0	13.6	25.9	14.8	37.0	3.7	—
子ども	453	17.0	10.8	20.3	4.4	11.5	5.3	11.7	5.5	4.6	14.1	36.6	5.5	7.9
兄弟姉妹	286	22.7	10.1	11.2	14.3	11.9	5.6	18.2	15.7	28.0	14.3	29.7	4.9	3.1
その他	122	18.0	12.3	14.8	5.7	11.5	8.2	17.2	6.6	9.0	14.8	36.1	7.4	4.1
いない(一人で暮らしている)	335	21.2	10.7	14.0	6.3	9.0	14.6	26.9	8.4	8.1	17.6	29.6	3.9	6.3

問 27 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。
 (あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「自宅で過ごしている（グループホームを含む）」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」の割合が 19.0%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

障がい種別にみると、難病で「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」の割合が、身体障がい「自宅で過ごしている（グループホームを含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている	ボランティアなど収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援A型、B型など）	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている（グループホームを含む）	入所施設や病院などで過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	特別支援学校（小・中・高等部）に通っている	地域の小・中・高校に通っている（特別支援学級を含む）	幼稚園、保育所、認定こども園、児童発達支援事業所などに通っている	その他	無回答
全体	2,030	19.0	0.5	8.3	9.7	2.6	2.0	28.1	4.5	0.2	2.7	5.2	1.6	3.9	11.8
身体障がい	1,244	18.0	0.8	9.2	6.7	2.9	2.7	34.2	5.3	0.2	1.4	0.7	0.4	4.5	13.0
知的障がい	379	9.0	0.3	0.3	29.3	0.8	0.5	11.9	5.3	0.3	13.7	14.5	5.5	2.6	6.1
精神障がい	270	16.7	0.4	6.3	15.6	7.8	0.7	24.1	3.3	—	—	7.0	—	4.4	13.7
難病	424	30.4	—	12.5	3.3	1.4	1.4	31.6	4.0	0.2	1.4	0.7	0.7	3.8	8.5
発達障がい	318	9.1	—	0.3	21.7	1.3	0.3	9.1	1.9	—	12.3	28.9	6.6	1.9	6.6
高次脳機能障がい	92	3.3	—	4.3	20.7	5.4	5.4	19.6	13.0	—	—	—	—	9.8	18.5

【年齢別】

年齢別にみると、40歳代、50歳代、60～64歳で「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている	ボランティアなど収入を得ない仕事をしている	専業主婦(主夫)をしている	福祉施設(通所施設)に通っている(生活介護、就労継続支援A型、B型など)	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている(グループホームを含む)	入所施設や病院などで過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	特別支援学校(小・中・高等部)に通っている	地域の小・中・高校に通っている(特別支援学級を含む)	幼稚園、保育所、認定こども園、児童発達支援事業所などに通っている	その他	無回答
全体	2,030	19.0	0.5	8.3	9.7	2.6	2.0	28.1	4.5	0.2	2.7	5.2	1.6	3.9	11.8
18歳未満	196	—	—	—	—	—	—	0.5	—	0.5	24.0	52.0	16.8	—	6.1
18・19歳	13	15.4	—	—	23.1	—	—	7.7	—	—	30.8	15.4	—	7.7	—
20歳代	123	26.0	—	—	44.7	2.4	—	14.6	2.4	1.6	—	—	—	3.3	4.9
30歳代	113	31.0	—	0.9	30.1	2.7	—	24.8	1.8	0.9	—	—	—	1.8	6.2
40歳代	171	40.9	—	9.9	15.2	0.6	—	18.1	7.0	—	1.2	—	—	1.8	5.3
50歳代	216	36.6	—	9.7	12.0	2.3	0.9	25.0	4.2	—	—	0.5	—	3.7	5.1
60～64歳	140	33.6	—	10.0	8.6	2.9	2.1	25.7	3.6	—	—	—	—	3.6	10.0
65歳以上	1,011	10.9	1.1	10.7	3.7	3.6	3.5	39.2	5.8	—	—	—	—	5.1	16.5

【同居家族別】

同居家族別にみると、子どもで「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」「自宅で過ごしている（グループホームを含む）」の割合が、配偶者（夫または妻）で「会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている」の割合が高くなっています。

単位：%

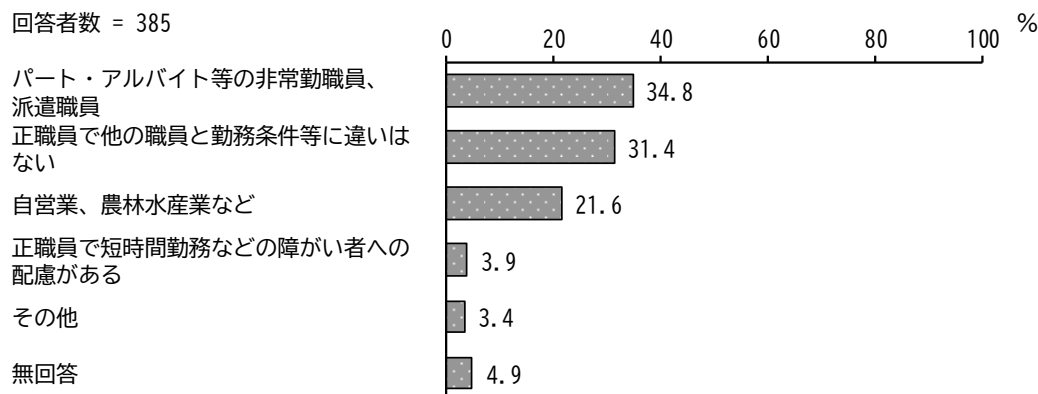
区分	回答者数（件）	会社勤めや自営業などで収入を得て仕事をしている	ボランティアなど収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設（通所施設）に通っている（生活介護、就労継続支援A型、B型など）	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている（グループホームを含む）	入所施設や病院などで過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	特別支援学校（小・中・高等部）に通っている	地域の小・中・高校に通っている（特別支援学級を含む）	幼稚園、保育所、認定こども園、児童発達支援事業所などに通っている	その他	無回答
全 体	2,030	19.0	0.5	8.3	9.7	2.6	2.0	28.1	4.5	0.2	2.7	5.2	1.6	3.9	11.8
父母	557	18.0	—	2.5	19.2	0.9	0.2	17.6	0.9	0.5	9.0	18.0	5.6	2.0	5.7
配偶者（夫または妻）	837	26.0	1.0	15.7	3.0	2.3	3.0	31.4	1.3	0.1	0.2	0.1	0.1	3.6	12.2
祖父母	83	18.1	—	—	22.9	—	—	7.2	—	1.2	12.0	25.3	9.6	—	3.6
子ども	498	27.3	0.6	13.3	4.4	2.2	2.0	33.7	1.2	—	0.6	0.2	0.2	2.8	11.4
兄弟姉妹	300	10.3	—	1.0	19.0	1.0	—	16.0	0.7	0.7	11.7	24.7	6.7	2.0	6.3
その他	135	23.0	0.7	4.4	10.4	3.0	3.0	29.6	2.2	—	—	3.7	0.7	5.2	14.1
いない（一人で暮らしている）	389	13.4	0.5	3.3	9.8	4.6	1.8	27.8	17.5	0.3	0.5	—	—	6.7	13.9

(5) 就労について

(次の問 28 は、現在収入を得て仕事をしている方にお聞きします。)

問 28 どのような勤務形態で働いていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」の割合が 31.4%、「自営業、農林水産業など」の割合が 21.6%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、精神障がい、発達障がいで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」の割合が高くなっています。

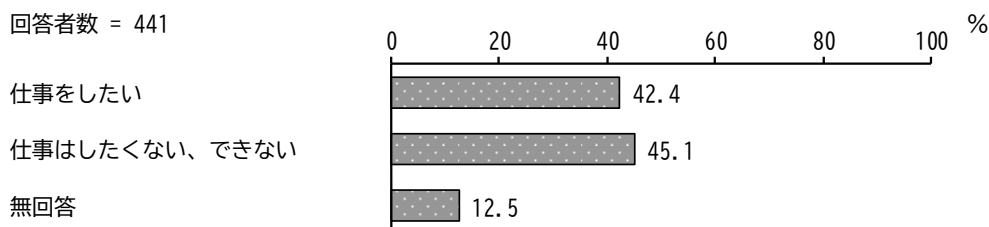
単位：%

区分	回答者数(件)	正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない	正職員で短時間勤務などの障がい者への配慮がある	パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員	自営業、農林水産業など	その他	無回答
全体	385	31.4	3.9	34.8	21.6	3.4	4.9
身体障がい	224	29.9	5.4	28.6	27.2	3.6	5.4
知的障がい	34	8.8	14.7	58.8	2.9	5.9	8.8
精神障がい	45	6.7	6.7	66.7	6.7	4.4	8.9
難病	129	47.3	—	30.2	18.6	1.6	2.3
発達障がい	29	6.9	10.3	69.0	3.4	3.4	6.9
高次脳機能障がい	3	—	66.7	—	33.3	—	—

(次の問29は、現在収入を得る仕事をしていない18歳から64歳の方にお聞きします。)

問 29 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「仕事をしたい」の割合が42.4%、「仕事はしたくない、できない」の割合が45.1%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、高次脳機能障がいでは「仕事はしたくない、できない」の割合が、難病、発達障がいでは「仕事をしたい」の割合が高くなっています。

単位：%

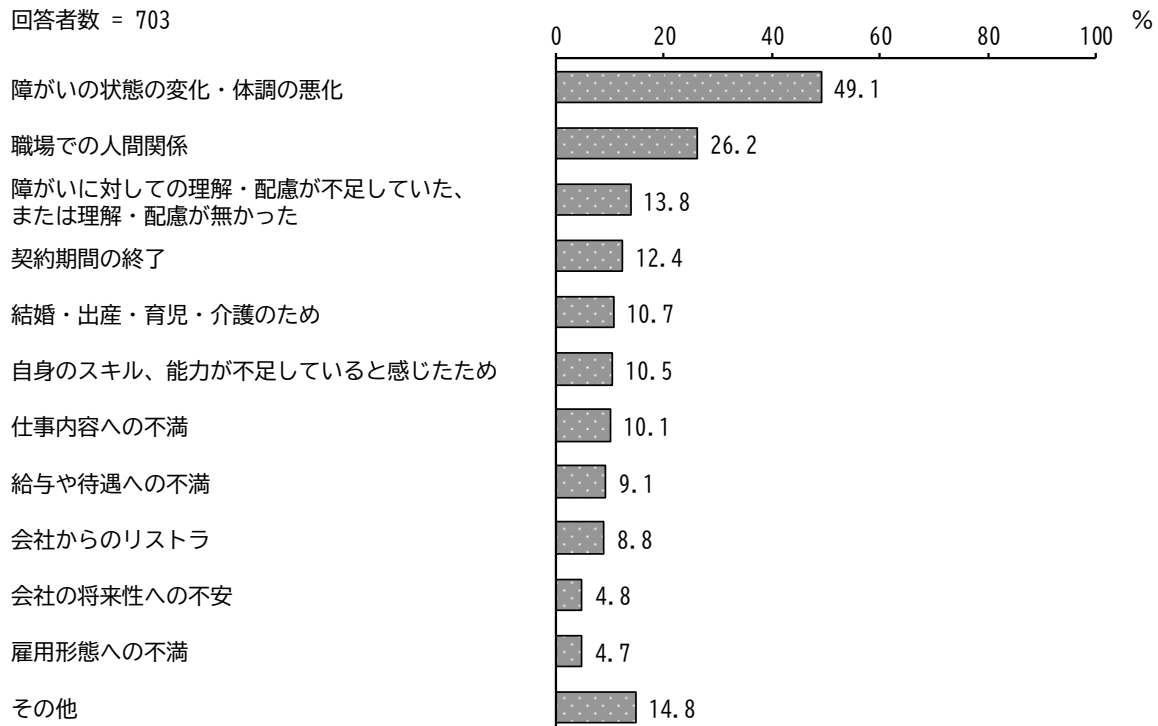
区分	回答者数 (件)	仕事をしたい	仕事はしたくない、 できない	無回答
全 体	441	42.4	45.1	12.5
身体障がい	206	39.8	49.5	10.7
知的障がい	161	36.6	47.8	15.5
精神障がい	121	44.6	39.7	15.7
難病	89	49.4	41.6	9.0
発達障がい	112	48.2	37.5	14.3
高次脳機能障がい	22	22.7	59.1	18.2

(次の問 30 は、過去に仕事をやめたことがある方にお聞きします。)

問 30 仕事をやめた理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「障がいの状態の変化・体調の悪化」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「職場での人間関係」の割合が 26.2%、「障がいに対する理解・配慮が不足していた、または理解・配慮が無かった」の割合が 13.8%となっています。

回答者数 = 703



※無回答を除いて集計しています。

【障がい種別】

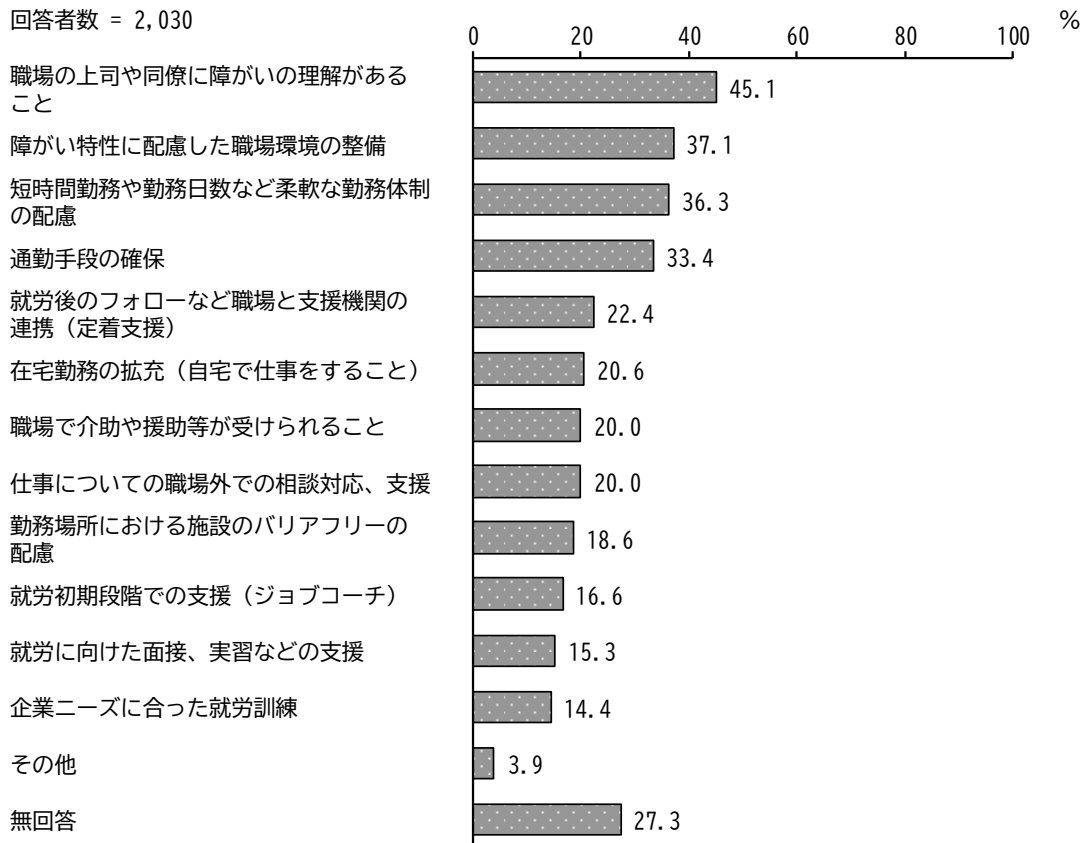
障がい種別にみると、発達障がいでは「障がいに対する理解・配慮が不足していた、または理解・配慮がなかった」「職場での人間関係」の割合が、知的障がいでは「職場での人間関係」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がいの状態の変化・体調の悪化	職場での人間関係	会社からのリストラ	自身のスキル、能力が不足していると感じたため	障がいに対する理解・配慮が不足していた、または理解・配慮がなかった	結婚・出産・育児・介護のため	給与や待遇への不満	仕事内容への不満	契約期間の終了	会社の将来性への不安	雇用形態への不満	その他
全体	703	49.1	26.2	8.8	10.5	13.8	10.7	9.1	10.1	12.4	4.8	4.7	14.8
身体障がい	448	49.8	17.2	7.8	7.6	9.6	10.0	8.3	6.9	12.9	3.8	4.5	17.6
知的障がい	67	38.8	59.7	10.4	22.4	31.3	3.0	4.5	10.4	6.0	3.0	4.5	11.9
精神障がい	150	63.3	50.0	14.0	19.3	28.0	6.7	14.0	15.3	10.0	7.3	7.3	10.0
難病	179	54.2	18.4	5.6	8.4	10.6	16.8	12.3	15.1	10.6	6.1	6.1	10.1
発達障がい	56	39.3	58.9	12.5	28.6	50.0	5.4	8.9	12.5	8.9	8.9	8.9	10.7
高次脳機能障がい	38	60.5	13.2	7.9	7.9	21.1	—	5.3	5.3	2.6	2.6	—	21.1

問 31 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」の割合が 45.1%と最も高く、次いで「障がい特性に配慮した職場環境の整備」の割合が 37.1%、「短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮」の割合が 36.3%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、発達障がいでは「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（定着支援）」
「障がい特性に配慮した職場環境の整備」「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」の割合が高くなっています。

単位：％

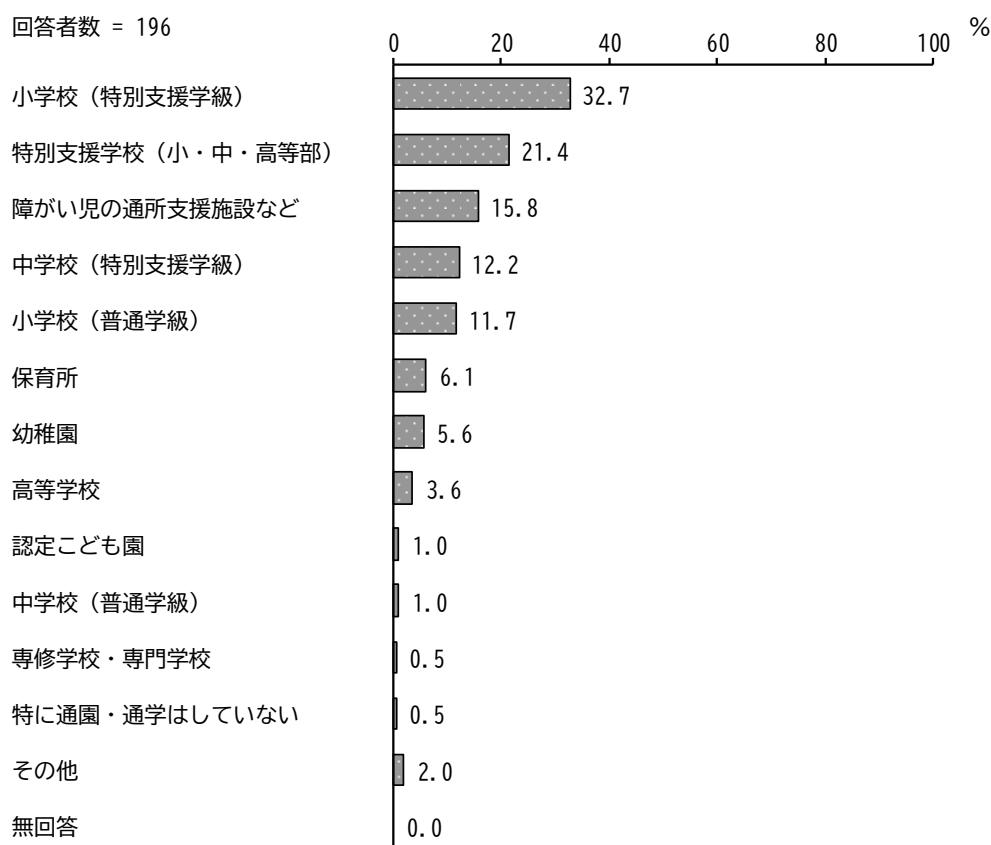
区分	回答者数（件）	通勤手段の確保	勤務場所における施設のバリアフリーの配慮	短時間勤務や勤務日数など柔軟な勤務体制の配慮	在宅勤務の拡充（自宅で仕事をすること）	障がい特性に配慮した職場環境の整備	職場の上司や同僚に障がいの理解があること	職場で介助や援助等が受けられること	就労に向けた面接、実習などの支援	就労初期段階での支援（ジョブコーチ）	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（定着支援）	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談、支援	その他	無回答
全体	2,030	33.4	18.6	36.3	20.6	37.1	45.1	20.0	15.3	16.6	22.4	14.4	20.0	3.9	27.3
身体障がい	1,244	28.9	21.6	30.4	19.6	30.5	37.6	17.1	10.7	10.2	14.6	10.7	14.2	4.7	33.0
知的障がい	379	49.9	17.9	45.1	19.5	59.4	60.7	35.4	26.6	32.7	41.4	22.4	33.2	1.1	14.0
精神障がい	270	41.9	9.3	45.6	24.1	44.8	54.4	19.6	23.3	27.4	31.9	20.4	30.4	4.4	18.5
難病	424	35.4	25.7	44.1	26.9	36.6	51.7	21.9	11.6	15.3	24.1	14.6	19.8	3.8	20.0
発達障がい	318	49.1	11.6	50.9	22.0	66.0	73.6	34.6	35.2	43.1	53.5	29.9	41.2	1.9	8.8
高次脳機能障がい	92	28.3	19.6	27.2	16.3	23.9	32.6	27.2	5.4	6.5	12.0	12.0	8.7	3.3	45.7

(6) 教育について

(次の問 32 は、18 歳未満の方にお聞きします)

問 32 あなたが、現在通園・通学しているところはどこですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「小学校（特別支援学級）」の割合が 32.7%と最も高く、次いで「特別支援学校（小・中・高等部）」の割合が 21.4%、「障がい児の通所支援施設など」の割合が 15.8%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がい「特別支援学校（小・中・高等部）」の割合が、精神障がいで「中学校（特別支援学級）」「小学校（特別支援学級）」の割合が高くなっています。

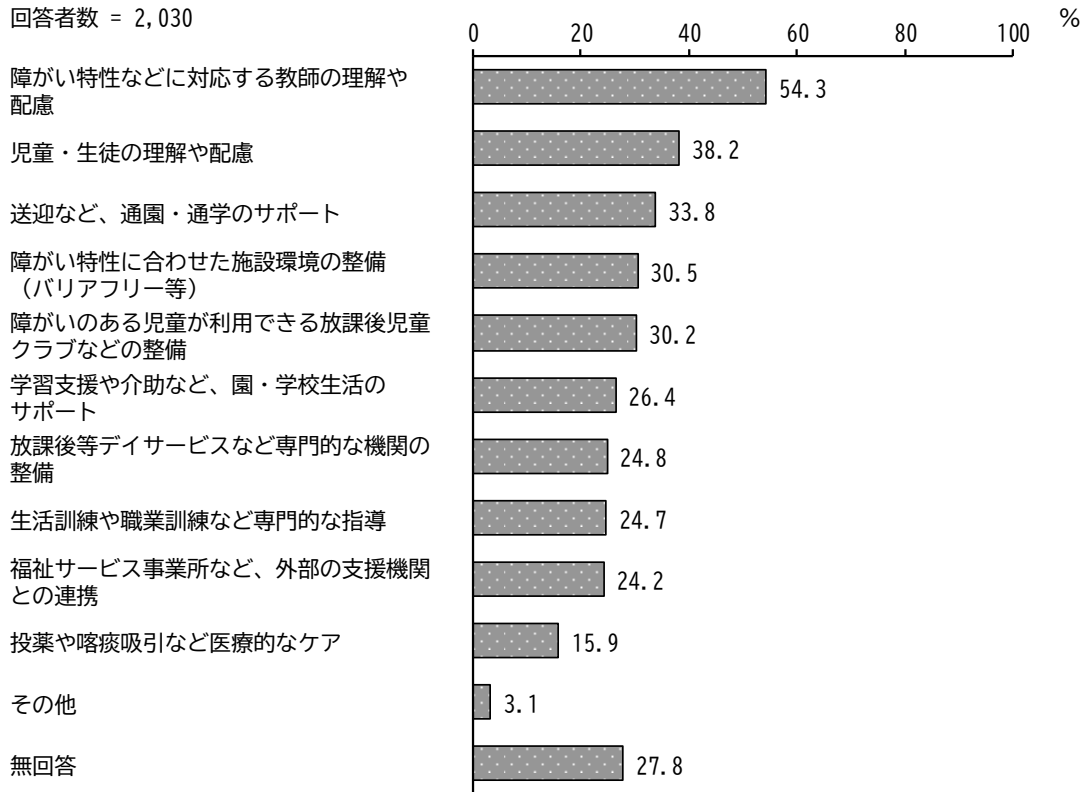
単位：％

区分	回答者数(件)	保育所	幼稚園	認定こども園	障がい児の通所支援施設など	小学校(普通学級)	小学校(特別支援学級)	中学校(普通学級)	中学校(特別支援学級)	高等学校	特別支援学校(小・中・高等部)	専修学校・専門学校	特に通園・通学はしていない	その他	無回答
全体	196	6.1	5.6	1.0	15.8	11.7	32.7	1.0	12.2	3.6	21.4	0.5	0.5	2.0	—
身体障がい	33	—	—	—	18.2	3.0	12.1	3.0	9.1	6.1	48.5	—	—	6.1	—
知的障がい	128	5.5	4.7	1.6	14.8	4.7	31.3	—	14.1	1.6	31.3	0.8	0.8	2.3	—
精神障がい	19	—	—	—	5.3	15.8	47.4	—	31.6	10.5	—	—	—	5.3	—
難病	15	—	—	6.7	20.0	6.7	26.7	—	6.7	6.7	26.7	—	—	6.7	—
発達障がい	154	3.9	5.8	1.3	14.9	12.3	37.7	0.6	14.3	2.6	19.5	—	—	2.6	—
高次脳機能障がい	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 33 あなたは、保育所・幼稚園・学校でどのような支援が必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「障がい特性などに対応する教師の理解や配慮」の割合が 54.3%と最も高く、次いで「児童・生徒の理解や配慮」の割合が 38.2%、「送迎など、通園・通学のサポート」の割合が 33.8%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

障がい種別にみると、発達障がいでは「放課後等デイサービスなど専門的な機関の整備」「障がい特性などに対応する教師の理解や配慮」「学習支援や介助など、園・学校生活のサポート」の割合が高くなっています。

単位：％

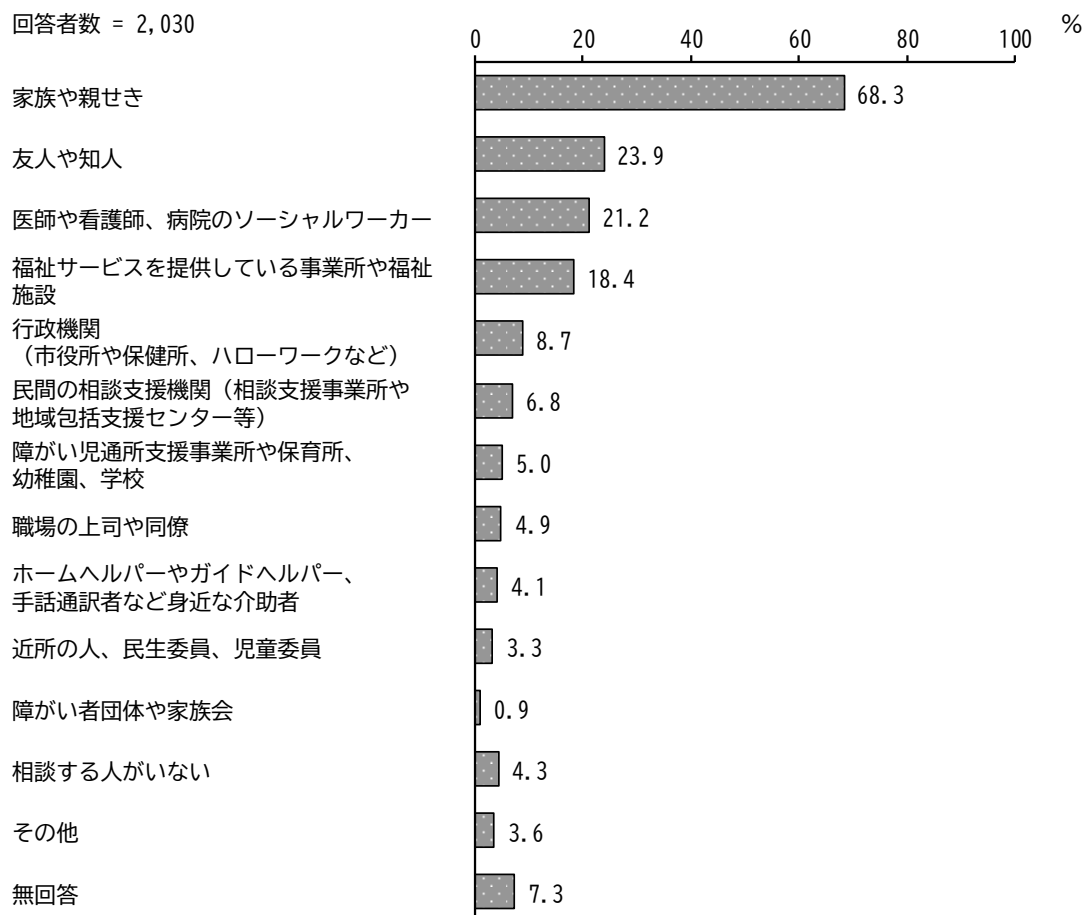
区分	回答者数(件)	障がい特性などに対応する教師の理解や配慮	児童・生徒の理解や配慮	送迎など、通園・通学のサポート	障がいのある児童が利用できる放課後児童クラブなどの整備	放課後等デイサービスなど専門的な機関の整備	学習支援や介助など、園・学校生活のサポート	障がい特性に合わせた施設環境の整備(バリアフリー等)	福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携	生活訓練や職業訓練など専門的な指導	投薬や喀痰吸引など医療的なケア	その他	無回答
全体	2,030	54.3	38.2	33.8	30.2	24.8	26.4	30.5	24.2	24.7	15.9	3.1	27.8
身体障がい	1,244	47.6	32.7	31.8	25.9	18.2	21.2	30.9	19.9	21.1	16.5	2.6	33.4
知的障がい	379	71.8	47.8	44.6	44.3	42.5	39.6	33.5	39.1	37.7	19.3	2.4	12.9
精神障がい	270	56.3	43.0	30.7	29.3	27.4	31.1	29.3	33.7	33.0	15.2	5.6	23.3
難病	424	59.9	41.5	40.1	33.3	24.5	26.2	38.0	22.6	22.9	20.3	3.8	21.0
発達障がい	318	78.6	56.9	41.5	47.5	53.1	47.8	34.3	43.7	41.2	17.0	4.7	7.2
高次脳機能障がい	92	31.5	23.9	20.7	17.4	12.0	14.1	25.0	12.0	12.0	16.3	2.2	56.5

(7) 相談・情報について

問 34 あなたは、普段、悩みや困ったときなど、どこ（誰）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

「家族や親せき」の割合が 68.3%と最も高く、次いで「友人や知人」の割合が 23.9%、「医師や看護師、病院のソーシャルワーカー」の割合が 21.2%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいでは「医師や看護師、病院のソーシャルワーカー」「福祉サービスを提供している事業所や福祉施設」の割合が、知的障がいでは「福祉サービスを提供している事業所や福祉施設」の割合が高くなっています。

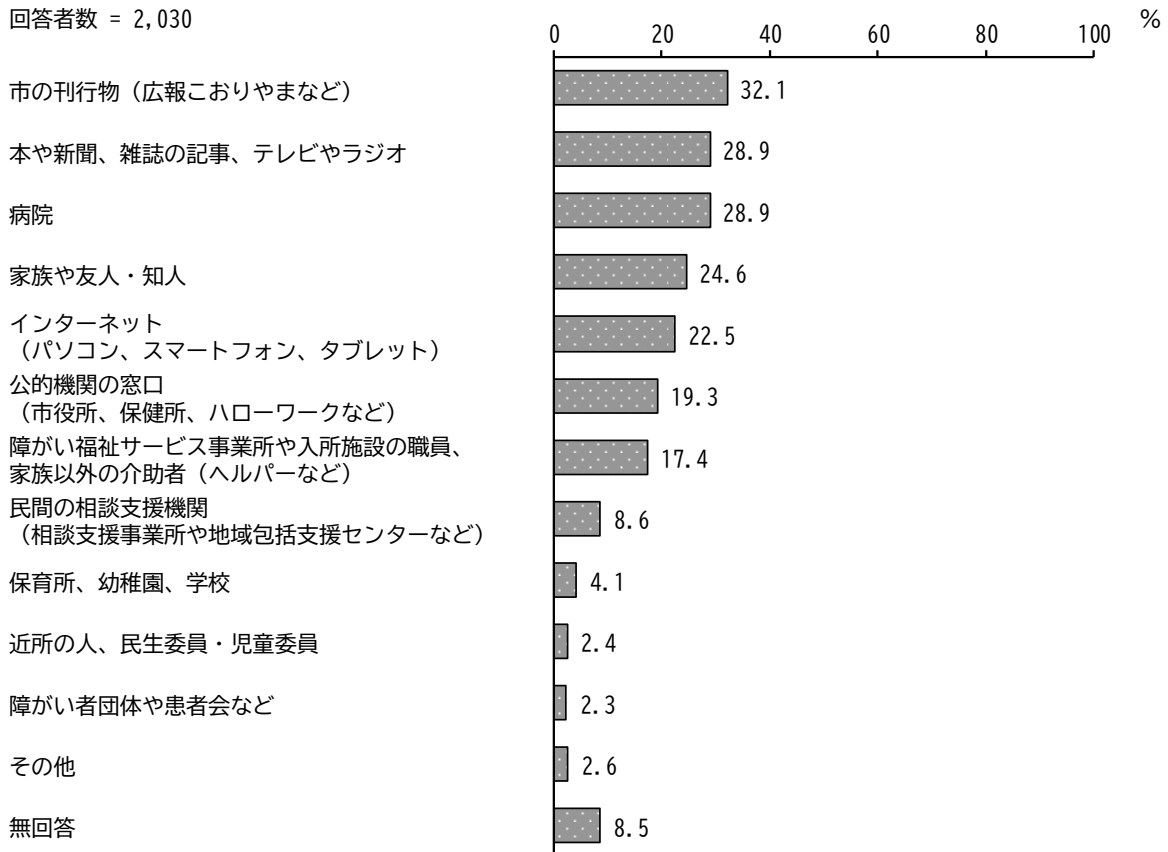
単位：％

区分	回答者数(件)	家族や親せき	友人や知人	近所の人、民生委員、児童委員	職場の上司や同僚	福祉サービスを提供している事業所や福祉施設	ホームヘルパーやガイドヘルパー、手話通訳者など身近な介助者	障がい者団体や家族会	医師や看護師、病院のソーシャルワーカー	障がい児通所支援事業所や保育所、幼稚園、学校	民間の相談支援機関(相談支援事業所や地域包括支援センター等)	行政機関(市役所や保健所、ハローワークなど)	相談する人がいない	その他	無回答
全体	2,030	68.3	23.9	3.3	4.9	18.4	4.1	0.9	21.2	5.0	6.8	8.7	4.3	3.6	7.3
身体障がい	1,244	66.7	24.4	3.9	3.1	15.8	5.4	0.9	20.3	1.4	6.7	9.4	4.7	3.3	8.0
知的障がい	379	67.8	17.4	2.6	7.7	34.0	3.7	1.1	19.3	16.6	11.1	10.0	3.4	5.5	4.0
精神障がい	270	58.1	20.0	3.3	4.1	31.1	4.8	2.2	43.0	4.1	11.1	9.3	4.1	5.9	5.9
難病	424	77.6	34.4	3.8	8.0	12.3	3.5	1.4	23.3	1.7	5.0	9.0	5.2	2.6	3.1
発達障がい	318	76.7	18.9	1.3	6.3	27.4	1.6	1.3	23.3	25.2	9.4	7.2	2.8	4.4	1.9
高次脳機能障がい	92	56.5	8.7	2.2	1.1	28.3	6.5	—	18.5	—	10.9	7.6	—	4.3	19.6

問 35 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「市の刊行物（広報こおりやまなど）」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオ」、「病院」の割合が 28.9%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいでは「病院」の割合が、知的障がいでは「障がい福祉サービス事業所や入所施設の職員、家族以外の介助者（ヘルパーなど）」の割合が、発達障がいでは「家族や友人・知人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオ	市の刊行物（広報こおりやまなど）	公的機関の窓口（市役所、保健所、ハローワークなど）	インターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）	家族や友人・知人	障がい福祉サービス事業所や入所施設の職員、家族以外の介助者（ヘルパーなど）	障がい者団体や患者会など	病院	近所の人、民生委員・児童委員	保育所、幼稚園、学校	民間の相談支援機関（相談支援事業所や地域包括支援センターなど）	その他	無回答
全体	2,030	28.9	32.1	19.3	22.5	24.6	17.4	2.3	28.9	2.4	4.1	8.6	2.6	8.5
身体障がい	1,244	31.4	37.2	19.9	17.2	23.5	16.2	2.3	28.8	2.9	1.1	7.7	2.3	8.8
知的障がい	379	17.7	20.1	20.6	23.0	32.2	32.7	2.4	18.5	1.1	14.2	13.7	4.2	6.1
精神障がい	270	21.9	19.3	18.1	27.8	25.9	21.1	3.0	44.4	2.2	3.7	11.1	4.4	6.3
難病	424	33.3	36.3	21.7	34.2	25.0	12.5	2.4	38.0	2.1	1.2	5.0	2.4	3.8
発達障がい	318	14.2	16.4	17.9	32.4	37.4	27.4	2.8	27.7	0.9	20.1	14.2	3.1	5.0
高次脳機能障がい	92	20.7	19.6	16.3	9.8	22.8	25.0	1.1	17.4	1.1	—	12.0	6.5	17.4

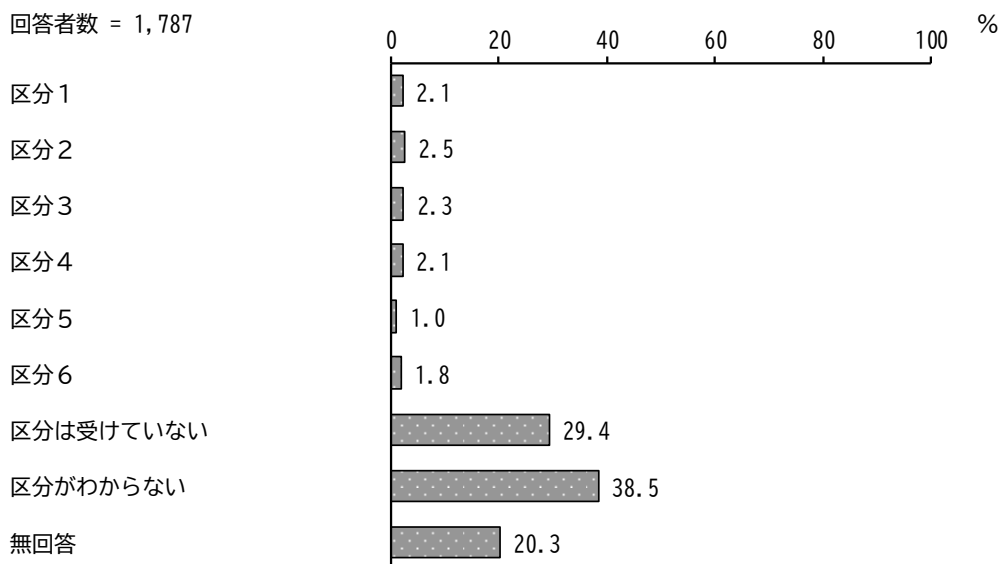
(8) 障がい福祉サービス等の利用について

(次の問 36 は、18 歳以上の方にお聞きします。)

問 36 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「区分がわからない」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「区分は受けていない」の割合が 29.4%となっています。

回答者数 = 1,787



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がい、難病、発達障がいで「区分は受けていない」の割合が高くなっています。

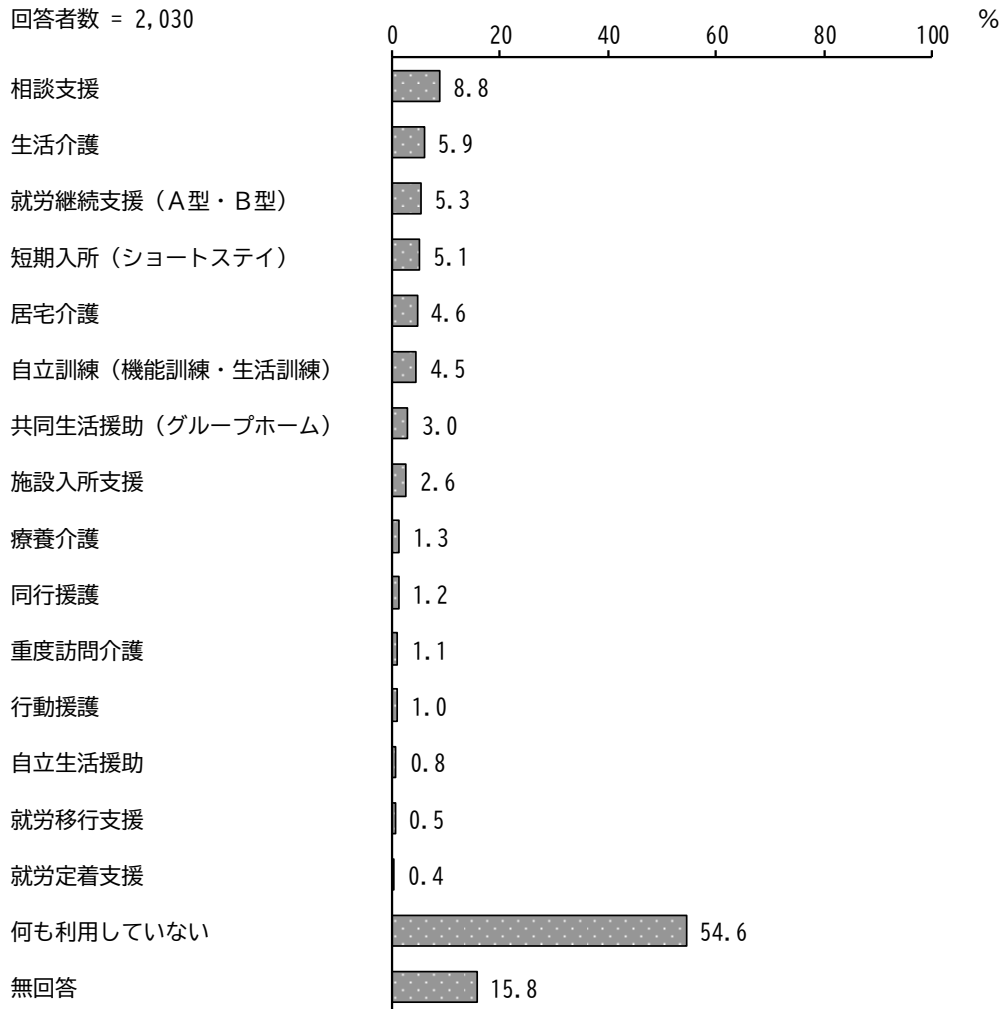
単位：%

区分	回答者数 (件)	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	区分は受けて いない	区分がわから ない	無回 答
全 体	1,787	2.1	2.5	2.3	2.1	1.0	1.8	29.4	38.5	20.3
身体障がい	1,185	2.4	1.4	1.5	1.8	0.7	1.7	25.9	42.7	21.9
知的障がい	246	2.4	9.3	6.1	6.9	4.9	9.3	12.2	34.6	14.2
精神障がい	245	3.3	6.5	5.7	2.4	0.4	1.2	21.6	46.1	12.7
難病	400	2.8	1.5	1.5	0.8	0.5	1.3	45.5	32.3	14.0
発達障がい	162	2.5	6.2	3.7	2.5	4.9	3.1	17.3	48.8	11.1
高次脳機能障がい	88	4.5	—	1.1	1.1	2.3	—	12.5	43.2	35.2

問 37 あなたは、次の障害福祉サービスを利用していますか。また、今後どのようなサービスを利用したいですか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

現在利用しているサービス

「何も利用していない」の割合が 54.6%と最も高くなっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、難病で「何も利用していない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	生活介護	自立訓練(機能 訓練・生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援 (A型・B型)
全 体	2,030	4.6	1.1	1.2	1.0	5.9	4.5	0.5	5.3
身体障がい	1,244	6.1	1.5	1.4	1.0	5.8	5.9	0.5	2.3
知的障がい	379	4.0	1.1	1.3	2.4	14.2	4.5	0.8	18.2
精神障がい	270	3.7	0.7	1.5	1.5	4.4	1.9	1.1	13.7
難病	424	5.7	1.4	1.7	0.9	5.0	5.2	—	1.2
発達障がい	318	1.9	0.6	0.9	2.2	7.5	4.7	1.6	14.2
高次脳機能障がい	92	8.7	3.3	—	1.1	15.2	7.6	1.1	6.5

区分	就労定着支援	自立生活援助	療養介護	短期入所 (ショートステイ)	共同生活援助 (グループホーム)	施設入所支援	相談支援	何も利用していな	無回答
全 体	0.4	0.8	1.3	5.1	3.0	2.6	8.8	54.6	15.8
身体障がい	0.2	0.6	1.7	5.5	2.4	2.9	5.8	55.9	17.0
知的障がい	1.1	0.5	1.8	9.5	5.3	4.5	23.2	34.0	10.8
精神障がい	2.2	3.0	1.1	4.8	8.5	2.2	15.6	42.6	15.2
難病	—	0.2	2.4	5.9	2.1	1.4	5.2	63.4	13.0
発達障がい	2.2	0.3	0.3	6.0	1.3	1.6	24.2	41.2	11.0
高次脳機能障がい	1.1	—	3.3	9.8	2.2	8.7	5.4	26.1	25.0

【居住地域別】

居住地域別にみると、熱海町、逢瀬町、西田町で「何も利用していない」の割合が高くなっています。

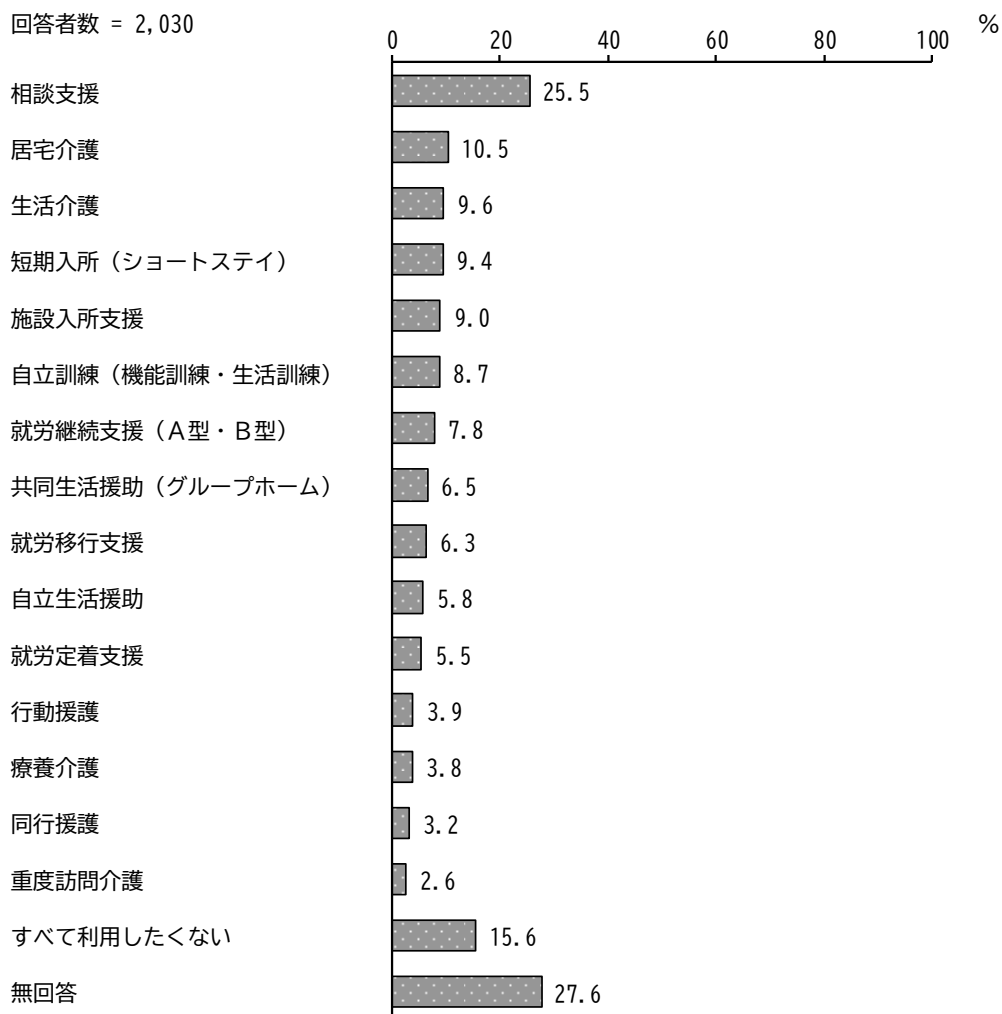
単位：％

区分	回答者数(件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	生活介護	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援(A型・B型)
全体	2,030	4.6	1.1	1.2	1.0	5.9	4.5	0.5	5.3
旧市内(下記以外の地域)	739	5.7	1.5	1.2	1.8	4.7	3.4	0.1	4.9
安積町	215	3.7	0.5	1.9	0.5	7.9	5.1	0.5	7.9
熱海町	53	1.9	—	—	—	7.5	3.8	—	1.9
逢瀬町	28	3.6	—	—	—	7.1	—	—	—
大槻町	224	4.0	0.9	1.3	1.8	7.1	7.6	1.3	7.1
片平町	45	6.7	2.2	—	2.2	8.9	—	—	2.2
喜久田町	63	4.8	3.2	—	—	6.3	1.6	—	6.3
湖南町	32	6.3	—	3.1	—	—	9.4	—	—
田村町	102	2.9	2.0	1.0	—	6.9	1.0	—	5.9
富田町	134	5.2	1.5	1.5	1.5	9.0	8.2	0.7	7.5
中田町	26	—	—	—	—	3.8	—	—	3.8
西田町	24	4.2	4.2	—	—	4.2	8.3	—	4.2
日和田町	72	5.6	—	—	—	9.7	—	—	—
富久山町	188	3.7	—	2.1	—	4.8	7.4	2.1	6.4
三穂田町	31	3.2	3.2	—	—	—	12.9	—	3.2

区分	就労定着支援	自立生活援助	療養介護	短期入所(シヨートステイ)	共同生活援助(グループホーム)	施設入所支援	相談支援	何も利用していない	無回答
全体	0.4	0.8	1.3	5.1	3.0	2.6	8.8	54.6	15.8
旧市内(下記以外の地域)	0.7	1.6	1.2	4.9	2.8	2.2	10.0	56.3	14.7
安積町	0.9	—	1.4	7.0	2.8	1.4	10.2	51.6	14.4
熱海町	—	1.9	1.9	—	—	1.9	3.8	64.2	17.0
逢瀬町	—	—	—	3.6	—	3.6	3.6	64.3	14.3
大槻町	0.4	0.4	0.9	5.4	3.1	2.2	9.8	52.7	17.9
片平町	—	4.4	2.2	4.4	—	—	4.4	55.6	22.2
喜久田町	—	1.6	—	3.2	1.6	3.2	9.5	60.3	12.7
湖南町	—	—	—	3.1	3.1	3.1	—	53.1	31.3
田村町	—	—	2.0	3.9	3.9	2.9	5.9	56.9	15.7
富田町	—	—	2.2	9.0	6.7	3.0	11.2	50.7	7.5
中田町	—	—	3.8	3.8	—	—	7.7	57.7	23.1
西田町	—	—	—	4.2	—	—	8.3	66.7	4.2
日和田町	—	—	—	8.3	1.4	18.1	6.9	50.0	15.3
富久山町	0.5	—	1.6	5.9	4.8	2.1	9.0	52.7	14.4
三穂田町	—	—	—	—	3.2	—	6.5	51.6	16.1

今後利用したいサービス

「相談支援」の割合が25.5%と最も高く、次いで「すべて利用したくない」の割合が15.6%、「居宅介護」の割合が10.5%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、「相談支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	生活介護	自立訓練(機能 訓練・生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援 (A型・B型)
全 体	2,030	10.5	2.6	3.2	3.9	9.6	8.7	6.3	7.8
身体障がい	1,244	13.3	3.5	3.1	3.4	10.6	7.7	3.6	3.6
知的障がい	379	7.7	4.2	5.8	9.5	17.4	15.6	14.2	25.9
精神障がい	270	5.9	0.7	4.4	3.7	5.9	8.1	12.6	18.1
難病	424	10.6	3.1	3.8	4.2	8.3	8.0	5.0	3.3
発達障がい	318	3.5	1.9	5.3	9.4	9.7	18.2	18.6	24.8
高次脳機能障がい	92	12.0	3.3	2.2	3.3	14.1	8.7	2.2	6.5

区分	就労定着支援	自立生活援助	療養介護	短期入所 (ショートステイ)	共同生活援助 (グループホーム)	施設入所支援	相談支援	すべて利用したく ない	無回答
全 体	5.5	5.8	3.8	9.4	6.5	9.0	25.5	15.6	27.6
身体障がい	2.3	4.5	5.0	9.0	3.7	9.2	21.9	14.8	30.5
知的障がい	14.2	11.9	4.2	22.2	19.8	16.4	34.8	8.4	15.0
精神障がい	13.7	9.3	2.6	6.7	12.6	6.7	29.3	12.6	21.9
難病	2.6	4.0	5.4	7.5	3.5	7.5	26.4	19.6	28.1
発達障がい	20.1	12.3	1.6	17.0	14.5	11.0	41.8	9.7	13.2
高次脳機能障がい	—	2.2	6.5	15.2	2.2	16.3	17.4	4.3	41.3

【居住地域別】

居住地域別にみると、湖南町、西田町で「居宅介護」の割合が、片平町で「すべて利用したくない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	生活介護	自立訓練(機能 訓練・生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援 (A型・B型)
全体	2,030	10.5	2.6	3.2	3.9	9.6	8.7	6.3	7.8
旧市内(下記以外の地域)	739	9.6	2.6	3.7	4.3	9.3	9.6	6.5	8.7
安積町	215	11.6	1.4	1.4	3.3	12.1	9.8	9.8	12.1
熱海町	53	15.1	1.9	3.8	5.7	17.0	15.1	5.7	5.7
逢瀬町	28	10.7	—	—	—	10.7	3.6	—	—
大槻町	224	9.4	3.1	4.0	6.3	11.2	8.0	8.5	9.4
片平町	45	13.3	2.2	4.4	6.7	11.1	2.2	—	2.2
喜久田町	63	7.9	4.8	1.6	6.3	1.6	4.8	7.9	6.3
湖南町	32	25.0	3.1	3.1	3.1	—	6.3	6.3	3.1
田村町	102	14.7	3.9	3.9	2.9	7.8	6.9	3.9	2.9
富田町	134	11.2	3.7	3.7	3.7	13.4	10.4	6.7	11.2
中田町	26	15.4	—	—	—	11.5	3.8	3.8	3.8
西田町	24	20.8	8.3	—	—	8.3	8.3	4.2	4.2
日和田町	72	9.7	4.2	2.8	—	15.3	1.4	1.4	1.4
富久山町	188	6.9	2.1	4.3	2.7	6.4	10.1	4.3	8.5
三穂田町	31	16.1	—	3.2	3.2	6.5	19.4	6.5	3.2

区分	就労定着支援	自立生活援助	療養介護	短期入所 (ショートステイ)	共同生活援助 (グループホーム)	施設入所支援	相談支援	すべて利用したくない	無回答
全体	5.5	5.8	3.8	9.4	6.5	9.0	25.5	15.6	27.6
旧市内(下記以外の地域)	6.6	6.0	3.5	9.7	7.7	8.1	28.6	16.2	26.1
安積町	6.5	7.4	4.2	10.7	7.0	9.8	30.7	16.3	21.9
熱海町	5.7	3.8	3.8	5.7	3.8	7.5	17.0	18.9	28.3
逢瀬町	—	3.6	3.6	3.6	7.1	10.7	21.4	7.1	39.3
大槻町	6.7	5.8	4.9	9.4	4.0	8.0	21.4	17.9	31.7
片平町	2.2	8.9	2.2	8.9	2.2	13.3	24.4	24.4	22.2
喜久田町	6.3	4.8	1.6	9.5	—	4.8	28.6	14.3	23.8
湖南町	—	—	6.3	9.4	—	9.4	6.3	12.5	37.5
田村町	2.0	2.0	2.9	8.8	6.9	11.8	21.6	9.8	33.3
富田町	6.0	9.0	3.0	11.9	11.9	9.0	26.9	14.2	23.9
中田町	—	3.8	7.7	11.5	—	7.7	23.1	11.5	38.5
西田町	4.2	4.2	—	—	4.2	4.2	29.2	8.3	25.0
日和田町	—	2.8	5.6	11.1	4.2	20.8	18.1	22.2	20.8
富久山町	5.9	5.9	3.7	7.4	8.5	9.6	26.6	14.9	27.1
三穂田町	3.2	6.5	6.5	12.9	6.5	6.5	16.1	16.1	29.0

【障がい福祉サービス利用別】

障がい福祉サービス利用別にみると、居宅介護で「居宅介護」の割合が、行動援護、相談支援で「相談支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	今後利用したいサービス								
		居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	生活介護	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援(A型・B型)	
全体	2,030	10.5	2.6	3.2	3.9	9.6	8.7	6.3	7.8	
現在利用しているサービス	居宅介護	94	54.3	14.9	7.4	8.5	30.9	14.9	4.3	3.2
	重度訪問介護	23	39.1	65.2	8.7	8.7	21.7	13.0	4.3	4.3
	同行援護	24	25.0	12.5	70.8	25.0	29.2	20.8	4.2	4.2
	行動援護	21	23.8	14.3	38.1	52.4	52.4	19.0	23.8	14.3
	生活介護	120	21.7	10.8	10.0	12.5	55.0	15.8	3.3	6.7
	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	91	17.6	5.5	6.6	8.8	16.5	47.3	8.8	5.5
	就労移行支援	11	9.1	9.1	9.1	18.2	27.3	9.1	36.4	27.3
	就労継続支援(A型・B型)	107	3.7	2.8	3.7	4.7	8.4	6.5	15.0	63.6
	就労定着支援	9	—	—	11.1	22.2	11.1	22.2	22.2	22.2
	自立生活援助	17	17.6	11.8	11.8	17.6	47.1	17.6	11.8	11.8
	療養介護	26	7.7	3.8	7.7	7.7	15.4	23.1	7.7	3.8
	短期入所(ショートステイ)	104	18.3	11.5	8.7	11.5	30.8	14.4	3.8	10.6
	共同生活援助(グループホーム)	60	6.7	3.3	3.3	3.3	6.7	10.0	6.7	26.7
	施設入所支援	53	11.3	5.7	5.7	1.9	24.5	3.8	3.8	—
相談支援	179	14.0	7.8	11.7	15.6	22.3	21.8	15.6	22.9	
何も利用していない	1,108	9.0	0.5	1.4	2.3	5.7	6.0	5.9	4.5	

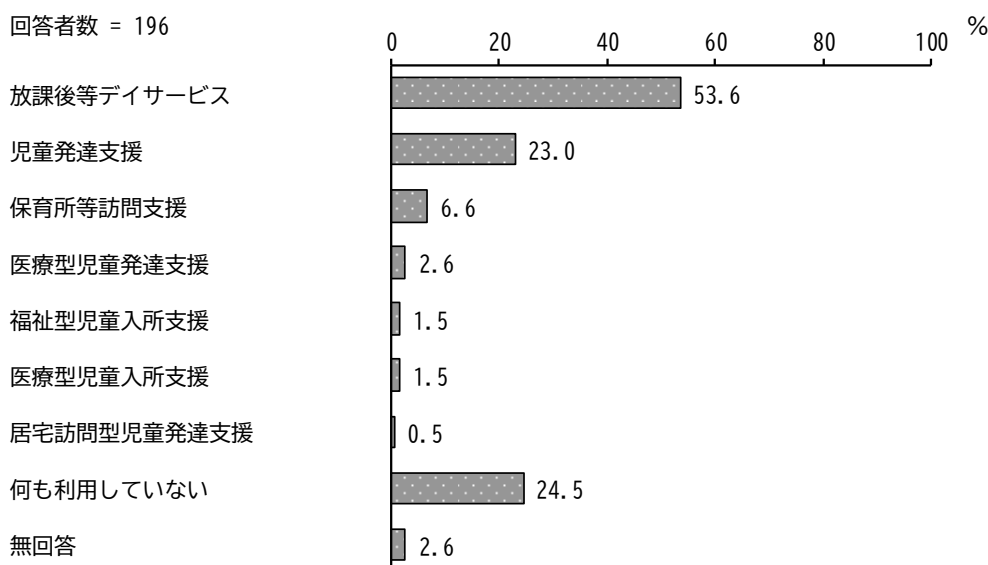
区分	回答者数(件)	今後利用したいサービス								
		就労定着支援	自立生活援助	療養介護	短期入所(ショートステイ)	共同生活援助(グループホーム)	施設入所支援	相談支援	すべて利用したくない	無回答
全体	2,030	5.5	5.8	3.8	9.4	6.5	9.0	25.5	15.6	27.6
現在利用しているサービス	居宅介護	3.2	8.5	10.6	24.5	5.3	13.8	25.5	—	19.1
	重度訪問介護	—	21.7	8.7	43.5	8.7	13.0	26.1	—	17.4
	同行援護	4.2	20.8	8.3	33.3	16.7	25.0	50.0	—	4.2
	行動援護	14.3	28.6	14.3	38.1	28.6	38.1	66.7	—	4.8
	生活介護	2.5	6.7	9.2	33.3	15.0	29.2	32.5	—	15.0
	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	3.3	17.6	8.8	18.7	6.6	12.1	23.1	1.1	16.5
	就労移行支援	54.5	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	27.3	—	18.2
	就労継続支援(A型・B型)	13.1	10.3	2.8	21.5	34.6	8.4	24.3	0.9	8.4
	就労定着支援	77.8	44.4	11.1	11.1	44.4	—	33.3	—	—
	自立生活援助	17.6	64.7	11.8	5.9	17.6	17.6	41.2	5.9	—
	療養介護	7.7	15.4	34.6	15.4	11.5	11.5	15.4	—	38.5
	短期入所(ショートステイ)	3.8	6.7	10.6	56.7	19.2	34.6	27.9	—	13.5
	共同生活援助(グループホーム)	3.3	3.3	5.0	11.7	61.7	13.3	18.3	3.3	20.0
	施設入所支援	—	1.9	7.5	3.8	1.9	60.4	15.1	—	22.6
相談支援	16.2	14.0	3.9	28.5	21.2	19.0	64.8	0.6	11.2	
何も利用していない	4.6	3.6	2.8	3.9	2.3	5.1	28.7	27.7	21.9	

(18歳未満の方にお聞きします)

問 38 あなたは、次の障がい児支援サービスを利用していますか。また、今後どのようなサービスを利用したいですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

現在利用しているサービス

「放課後等デイサービス」の割合が53.6%と最も高く、次いで「何も利用していない」の割合が24.5%、「児童発達支援」の割合が23.0%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいで「何も利用していない」の割合が、難病で「児童発達支援」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	何も利用していない	無回答
全体	196	23.0	2.6	53.6	0.5	6.6	1.5	1.5	24.5	2.6
身体障がい	33	21.2	12.1	57.6	—	—	3.0	9.1	12.1	6.1
知的障がい	128	22.7	1.6	53.1	—	4.7	1.6	2.3	27.3	1.6
精神障がい	19	5.3	5.3	52.6	—	10.5	—	—	42.1	5.3
難病	15	33.3	6.7	46.7	—	6.7	—	6.7	26.7	6.7
発達障がい	154	20.8	1.3	55.8	0.6	8.4	1.3	—	26.0	1.9
高次脳機能障がい	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【居住地域別】

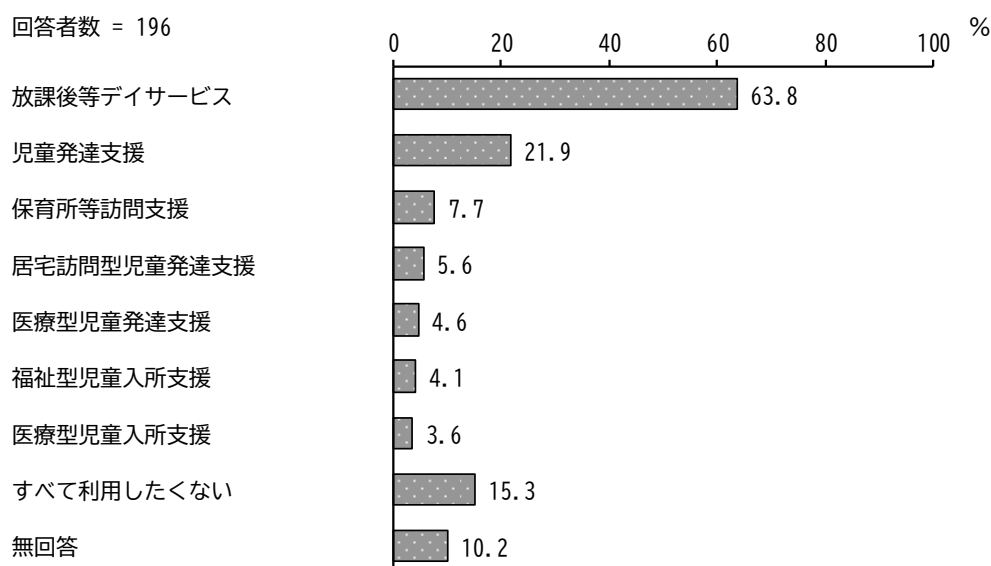
居住地域別にみると、大槻町、富田町で「放課後等デイサービス」の割合が、喜久田町で「何も利用していない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	何も利用していない	無回答
全 体	196	23.0	2.6	53.6	0.5	6.6	1.5	1.5	24.5	2.6
旧市内（下記以外の地域）	86	25.6	2.3	55.8	－	7.0	2.3	1.2	19.8	4.7
安積町	27	25.9	3.7	48.1	－	7.4	－	3.7	25.9	－
熱海町	5	20.0	－	40.0	－	20.0	－	－	20.0	20.0
逢瀬町	2	－	－	100.0	－	50.0	－	－	－	－
大槻町	16	25.0	－	62.5	－	6.3	－	－	18.8	－
片平町	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
喜久田町	13	7.7	－	46.2	－	－	－	－	53.8	－
湖南町	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
田村町	5	40.0	－	60.0	－	20.0	－	－	20.0	－
富田町	10	10.0	－	100.0	10.0	－	－	－	－	－
中田町	2	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
西田町	4	－	25.0	25.0	－	－	－	25.0	50.0	－
日和田町	4	25.0	－	75.0	－	－	－	－	－	－
富久山町	18	22.2	－	38.9	－	－	5.6	－	33.3	－
三穂田町	2	100.0	50.0	－	－	50.0	－	－	－	－

今後利用したいサービス

「放課後等デイサービス」の割合が63.8%と最も高く、次いで「児童発達支援」の割合が21.9%、「すべて利用したくない」の割合が15.3%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいでは「すべて利用したくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	すべて利用したくない	無回答
全体	196	21.9	4.6	63.8	5.6	7.7	4.1	3.6	15.3	10.2
身体障がい	33	18.2	9.1	63.6	6.1	3.0	6.1	12.1	12.1	15.2
知的障がい	128	22.7	5.5	62.5	6.3	7.0	6.3	5.5	12.5	11.7
精神障がい	19	10.5	5.3	52.6	15.8	10.5	—	—	31.6	10.5
難病	15	20.0	—	66.7	—	—	—	20.0	6.7	13.3
発達障がい	154	20.1	3.2	63.0	7.1	9.7	3.2	1.9	15.6	9.7
高次脳機能障がい	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【居住地域別】

居住地域別にみると、安積町、富田町で「放課後等デイサービス」の割合が、喜久田町で「すべて利用したくない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	すべて利用したくない	無回答
全 体	196	21.9	4.6	63.8	5.6	7.7	4.1	3.6	15.3	10.2
旧市内（下記以外の地域）	86	22.1	2.3	60.5	5.8	9.3	4.7	3.5	14.0	10.5
安積町	27	29.6	7.4	77.8	3.7	7.4	3.7	3.7	3.7	7.4
熱海町	5	40.0	40.0	80.0	－	20.0	－	－	20.0	－
逢瀬町	2	50.0	－	100.0	－	50.0	－	－	－	－
大槻町	16	18.8	6.3	62.5	6.3	－	－	－	12.5	12.5
片平町	1	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
喜久田町	13	7.7	7.7	46.2	7.7	7.7	－	－	38.5	7.7
湖南町	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
田村町	5	20.0	－	60.0	－	20.0	－	－	20.0	20.0
富田町	10	20.0	－	80.0	20.0	－	20.0	10.0	－	10.0
中田町	2	－	－	－	－	－	－	－	50.0	50.0
西田町	4	25.0	25.0	25.0	－	－	25.0	25.0	50.0	25.0
日和田町	4	25.0	－	75.0	25.0	－	－	－	25.0	－
富久山町	18	22.2	－	72.2	－	5.6	－	－	16.7	5.6
三穂田町	2	－	－	100.0	－	－	－	50.0	－	－

【障がい児支援サービス利用別】

障がい児支援サービス利用別にみると、何も利用していないで「すべて利用したくない」の割合が、児童発達支援で「児童発達支援」の割合が、放課後等デイサービスで「放課後等デイサービス」の割合が高くなっています。

単位：％

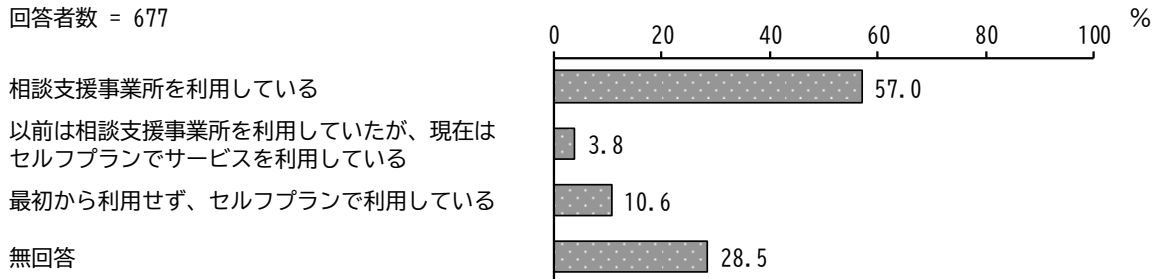
区分	回答者数(件)	今後利用したいサービス									
		児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	すべて利用したくない	無回答	
全 体	196	21.9	4.6	63.8	5.6	7.7	4.1	3.6	15.3	10.2	
現在利用しているサービス	児童発達支援	45	55.6	6.7	75.6	6.7	17.8	11.1	8.9	2.2	4.4
	医療型児童発達支援	5	40.0	60.0	80.0	—	20.0	20.0	40.0	20.0	—
	放課後等デイサービス	105	14.3	1.9	81.9	6.7	7.6	2.9	2.9	3.8	8.6
	居宅訪問型児童発達支援	1	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—
	保育所等訪問支援	13	38.5	7.7	76.9	—	76.9	—	7.7	—	—
	福祉型児童入所支援	3	—	—	—	—	—	33.3	—	33.3	33.3
	医療型児童入所支援	3	66.7	33.3	66.7	—	—	33.3	100.0	—	—
	何も利用していない	48	16.7	4.2	22.9	6.3	2.1	—	—	50.0	12.5

(次の問 39 は、問 37・38 で、障がい福祉サービスをひとつでも利用していると答えた方にお聞きします。)

問 39 あなたは、サービスの利用計画作成にあたって、相談支援事業所を利用していますか。(あてはまるものひとつに○をつけてください)

「相談支援事業所を利用している」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「最初から利用せず、セルフプランで利用している」の割合が 10.6%となっています。

回答者数 = 677



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、発達障がいでは「最初から利用せず、セルフプランで利用している」の割合が高くなっています。また、知的障がい、精神障がいでは「相談支援事業所を利用している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	相談支援事業所を利用している	以前は相談支援事業所を利用していたが、現在はセルフプランでサービスを利用している	最初から利用せず、セルフプランで利用している	無回答
全 体	677	57.0	3.8	10.6	28.5
身体障がい	348	54.3	2.6	6.9	36.2
知的障がい	255	65.5	5.5	11.4	17.6
精神障がい	118	65.3	4.2	6.8	23.7
難病	104	55.8	2.9	6.7	34.6
発達障がい	214	62.6	3.7	19.6	14.0
高次脳機能障がい	45	55.6	2.2	2.2	40.0

【居住地域別】

居住地域別にみると、他に比べ、片平町、喜久田町で「最初から利用せず、セルフプランで利用している」の割合が高くなっています。また、大槻町で「相談支援事業所を利用している」の割合が高くなっています。

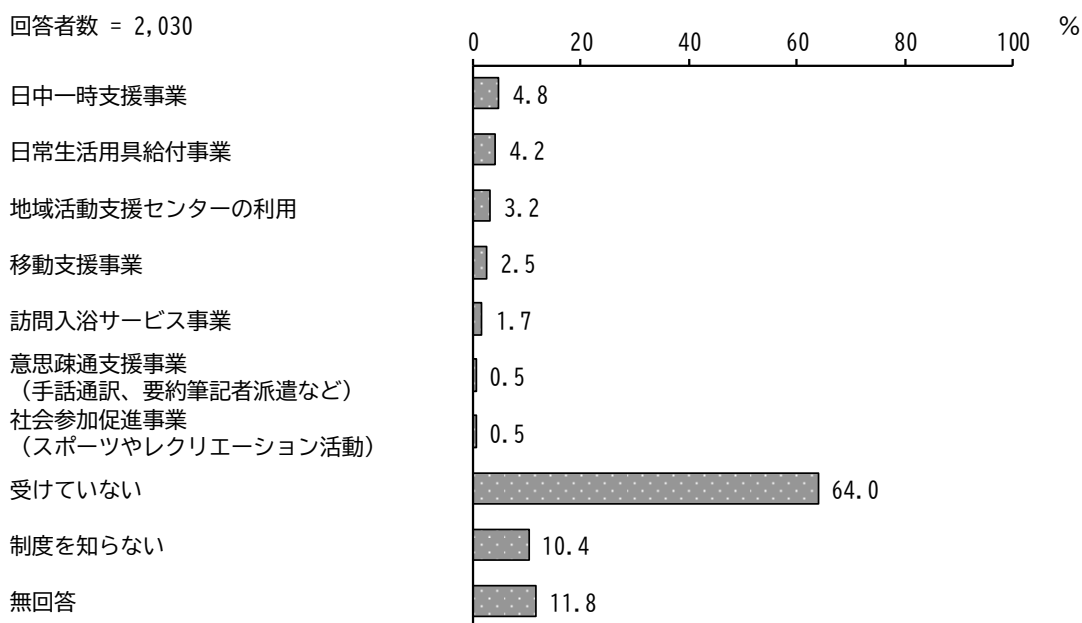
単位：％

区分	回答者数(件)	相談支援事業所を利用している	以前は相談支援事業所を利用していたが、現在はセルフプランでサービスを利用している	最初から利用せず、セルフプランで利用している	無回答
全 体	677	57.0	3.8	10.6	28.5
旧市内（下記以外の地域）	252	55.2	4.4	11.1	29.4
安積町	84	59.5	3.6	9.5	27.4
熱海町	12	58.3	—	16.7	25.0
逢瀬町	7	42.9	—	14.3	42.9
大槻町	74	67.6	2.7	5.4	24.3
片平町	10	50.0	10.0	20.0	20.0
喜久田町	20	60.0	—	25.0	15.0
湖南町	5	60.0	20.0	—	20.0
田村町	29	55.2	3.4	6.9	34.5
富田町	61	63.9	—	4.9	31.1
中田町	5	40.0	20.0	—	40.0
西田町	7	57.1	—	14.3	28.6
日和田町	26	46.2	7.7	7.7	38.5
富久山町	68	52.9	5.9	19.1	22.1
三穂田町	10	60.0	—	10.0	30.0

(9) 地域生活支援事業について

問 40 現在、地域生活支援事業のサービスを受けていますか。現在利用している事業すべてに○をつけてください。

「受けていない」の割合が64.0%と最も高く、次いで「制度を知らない」の割合が10.4%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、難病で「受けていない」の割合が、発達障がいでは「制度を知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	移動支援事業	日中一時支援事業	地域活動支援センターの利用	訪問入浴サービス事業	意思疎通支援事業 (手話通訳、要約筆記者派遣など)	社会参加促進事業 (スポーツやレクリエーション活動)	日常生活用具給付事業	受けていない	制度を知らない	無回答
全体	2,030	2.5	4.8	3.2	1.7	0.5	0.5	4.2	64.0	10.4	11.8
身体障がい	1,244	2.5	3.6	3.9	2.1	0.8	0.6	6.2	62.5	9.2	13.0
知的障がい	379	6.3	16.4	2.4	1.6	—	0.5	2.4	54.9	12.9	9.5
精神障がい	270	2.2	3.0	4.4	1.1	0.4	0.7	0.4	65.2	15.2	10.0
難病	424	2.8	2.4	3.1	1.9	0.2	0.2	4.7	69.8	9.7	9.0
発達障がい	318	4.4	12.3	3.5	—	—	0.3	0.9	60.4	15.4	6.0
高次脳機能障がい	92	2.2	3.3	9.8	3.3	3.3	1.1	12.0	33.7	7.6	31.5

【居住地域別】

居住地域別にみると、中田町、西田町、日和田町で「受けていない」の割合が高くなっています。

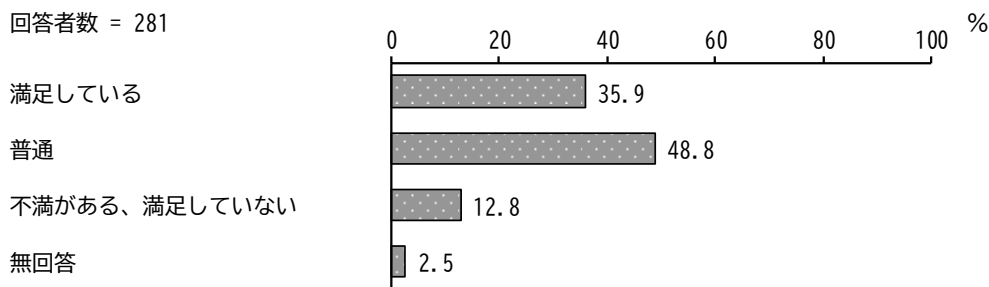
単位：％

区分	回答者数(件)	移動支援事業	日中一時支援事業	地域活動支援センターの利用	訪問入浴サービス事業	意思疎通支援事業(手話通訳、要約筆記者派遣など)	社会参加促進事業(スポーツやレクリエーション活動)	日常生活用具給付事業	受けていない	制度を知らない	無回答
全 体	2,030	2.5	4.8	3.2	1.7	0.5	0.5	4.2	64.0	10.4	11.8
旧市内(下記以外の地域)	739	2.4	5.0	3.4	1.6	0.3	0.4	4.1	64.4	11.1	10.6
安積町	215	3.7	4.7	1.9	1.9	—	0.5	5.1	62.3	14.0	10.2
熱海町	53	—	1.9	7.5	1.9	—	—	3.8	71.7	7.5	9.4
逢瀬町	28	—	3.6	—	—	—	—	3.6	67.9	—	25.0
大槻町	224	4.5	7.6	4.9	1.8	1.8	0.4	5.4	59.4	9.8	11.6
片平町	45	6.7	4.4	2.2	2.2	—	2.2	4.4	57.8	11.1	13.3
喜久田町	63	1.6	6.3	1.6	3.2	—	—	1.6	66.7	9.5	11.1
湖南町	32	6.3	3.1	—	3.1	—	—	9.4	59.4	9.4	15.6
田村町	102	1.0	4.9	1.0	2.0	—	1.0	2.9	62.7	6.9	19.6
富田町	134	0.7	4.5	3.0	0.7	0.7	1.5	3.0	67.2	12.7	9.0
中田町	26	—	7.7	—	—	—	—	—	73.1	3.8	15.4
西田町	24	—	8.3	—	—	—	—	4.2	83.3	4.2	—
日和田町	72	1.4	2.8	1.4	4.2	—	—	2.8	72.2	6.9	9.7
富久山町	188	2.7	2.7	4.8	1.1	1.6	0.5	6.4	63.8	11.2	8.5
三穂田町	31	—	6.5	3.2	—	—	—	3.2	67.7	9.7	16.1

(次の問 41 は、問 40 で「移動支援事業」～「日常生活用具給付事業」を選んだ方にお聞きします。)

問 41 利用しているサービスの内容に満足していますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「普通」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「満足している」の割合が 35.9%、「不満がある、満足していない」の割合が 12.8%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、高次脳機能障がい、難病で「普通」の割合が、精神障がいで「満足している」の割合が高くなっています。

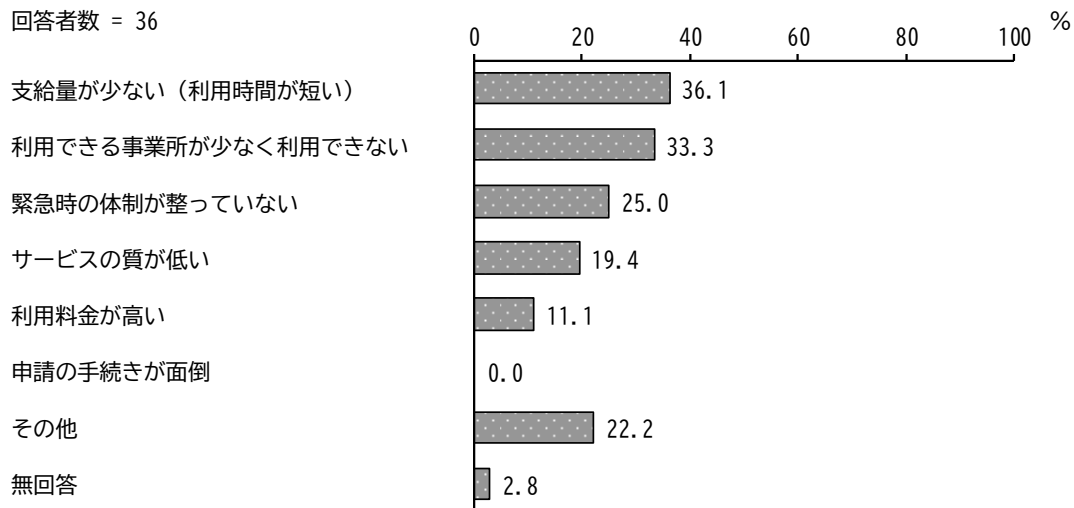
単位：%

区分	回答者数 (件)	満足している	普通	不満がある、満足していない	無回答
全 体	281	35.9	48.8	12.8	2.5
身体障がい	189	33.9	51.3	12.7	2.1
知的障がい	86	31.4	51.2	17.4	—
精神障がい	26	46.2	30.8	23.1	—
難病	49	26.5	61.2	10.2	2.0
発達障がい	58	32.8	50.0	17.2	—
高次脳機能障がい	25	32.0	60.0	—	8.0

(問 41 で「不満がある」を選んだ方にお聞きします。)

問 42 満足していない理由は何ですか。(あてはまるもの2つまで○をつけてください。)

「支給量が少ない(利用時間が短い)」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「利用できる事業所が少なく利用できない」の割合が 33.3%、「緊急時の体制が整っていない」の割合が 25.0%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がいでは「緊急時の体制が整っていない」「利用できる事業所が少なく利用できない」の割合が、発達障がいでは「利用できる事業所が少なく利用できない」の割合が高くなっています。

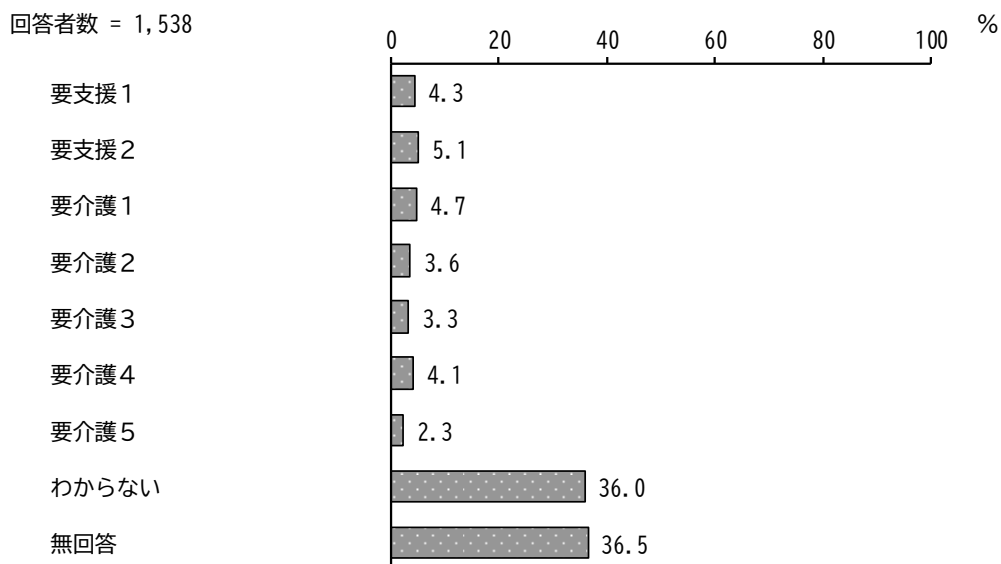
単位：%

区分	回答者数(件)	支給量が少ない(利用時間が短い)	サービスの質が低い	緊急時の体制が整っていない	利用料金が高い	利用できる事業所が少なく利用できない	申請の手続きが面倒	その他	無回答
全体	36	36.1	19.4	25.0	11.1	33.3	—	22.2	2.8
身体障がい	24	41.7	16.7	20.8	12.5	20.8	—	29.2	4.2
知的障がい	15	20.0	13.3	46.7	—	53.3	—	26.7	—
精神障がい	6	33.3	33.3	—	33.3	50.0	—	—	—
難病	5	20.0	20.0	40.0	—	—	—	60.0	—
発達障がい	10	10.0	10.0	40.0	—	50.0	—	20.0	10.0
高次脳機能障がい	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(次の問 43 は、40 歳以上の方にお聞きします。)

問 43 あなたは、要介護・要支援認定を受けていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「わからない」の割合が 36.0%と最も高くなっています。



【障がい種別】

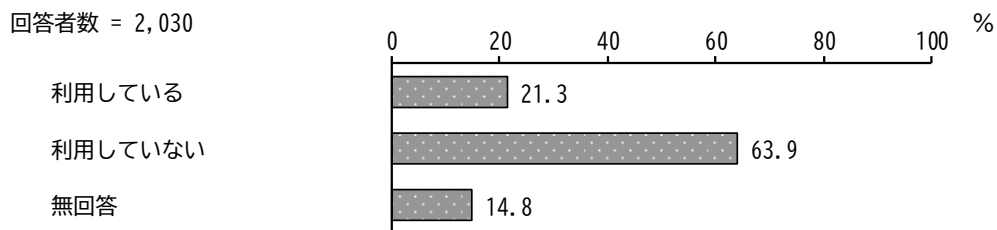
障がい種別にみると、精神障がい、発達障がいでは「わからない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	わからない	無回答
全 体	1,538	4.3	5.1	4.7	3.6	3.3	4.1	2.3	36.0	36.5
身体障がい	1,114	5.4	5.8	5.4	4.2	4.1	4.8	2.8	34.1	33.4
知的障がい	114	4.4	—	4.4	4.4	—	2.6	—	35.1	49.1
精神障がい	174	1.7	5.2	2.3	1.7	1.1	0.6	0.6	57.5	29.3
難病	354	3.7	5.6	3.7	3.1	3.1	4.8	2.8	36.2	37.0
発達障がい	50	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	2.0	—	44.0	40.0
高次脳機能障がい	83	6.0	4.8	7.2	7.2	12.0	16.9	9.6	6.0	30.1

問 44 あなたは、介護保険によるサービスを利用していますか。
 (あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「利用している」の割合が 21.3%、「利用していない」の割合が 63.9%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がい、難病で「利用していない」の割合が、高次脳機能障がいで「利用している」の割合が高くなっています。

単位：%

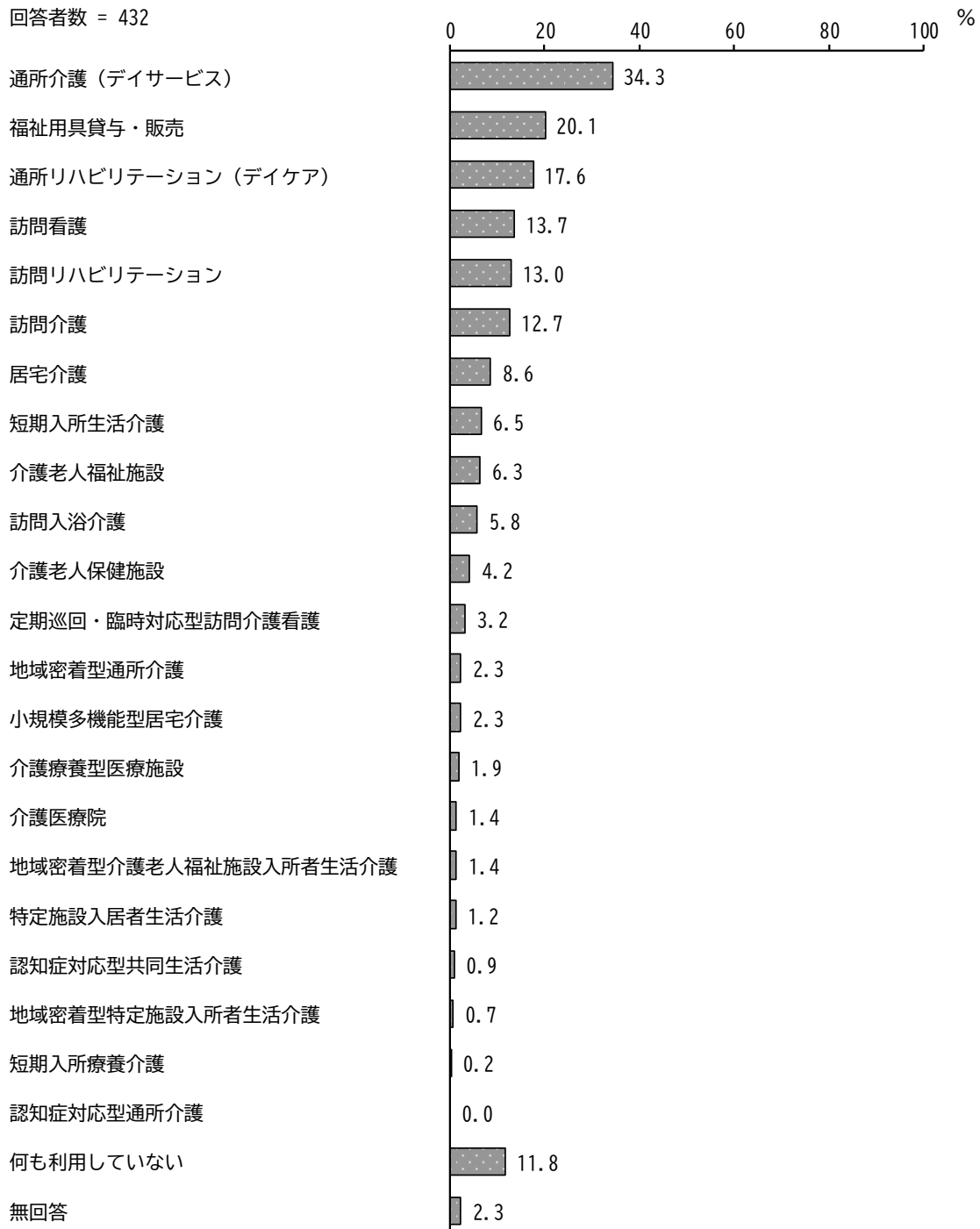
区分	回答者数 (件)	利用 している	利用 していない	無 回答
全 体	2,030	21.3	63.9	14.8
身体障がい	1,244	28.1	61.3	10.6
知的障がい	379	11.1	60.7	28.2
精神障がい	270	12.6	71.9	15.6
難病	424	20.0	70.8	9.2
発達障がい	318	6.0	63.8	30.2
高次脳機能障がい	92	58.7	26.1	15.2

(問 44 で「利用している」を選んだ方にお聞きします。)

問 45 利用している介護サービスはどれですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「通所介護 (デイサービス)」の割合が 34.3%と最も高く、次いで「福祉用具貸与・販売」の割合が 20.1%、「通所リハビリテーション (デイケア)」の割合が 17.6%となっています。

回答者数 = 432



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、精神障がい、発達障がいで「何も利用していない」の割合が高くなっています。

単位：％

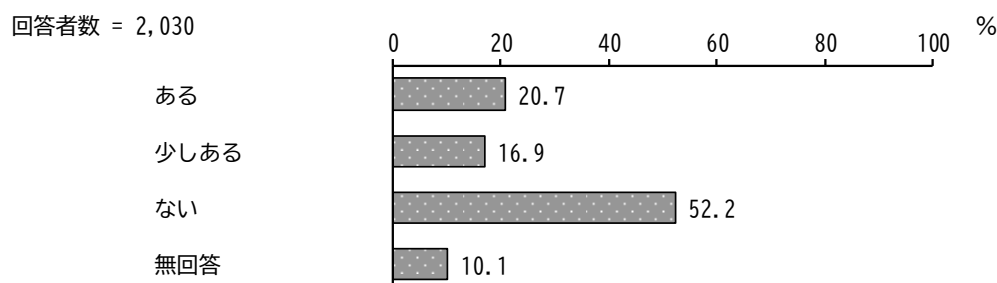
区分	回答者数(件)	居宅介護	訪問介護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	訪問看護	通所介護(デイサービス)	通所リハビリテーション(デイケア)	短期入所生活介護	短期入所療養介護	福祉用具貸与・販売	特定施設入居者生活介護	介護老人福祉施設
全体	432	8.6	12.7	5.8	13.0	13.7	34.3	17.6	6.5	0.2	20.1	1.2	6.3
身体障がい	350	8.9	12.3	6.0	13.7	14.6	36.6	18.3	6.3	0.3	21.1	1.1	6.3
知的障がい	42	4.8	11.9	4.8	4.8	4.8	26.2	2.4	9.5	—	11.9	—	—
精神障がい	34	14.7	14.7	8.8	5.9	14.7	35.3	5.9	—	—	11.8	—	2.9
難病	85	11.8	15.3	8.2	20.0	20.0	35.3	20.0	8.2	—	28.2	1.2	5.9
発達障がい	19	15.8	15.8	—	10.5	15.8	15.8	10.5	5.3	—	10.5	—	—
高次脳機能障がい	54	7.4	16.7	5.6	14.8	16.7	29.6	20.4	9.3	1.9	22.2	5.6	5.6

区分	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	介護医療院	定期巡回・臨時対応型訪問介護看護	地域密着型通所介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	施設入所者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	地域密着型特定施設入所者生活介護	何も利用していない	無回答
全体	4.2	1.9	1.4	3.2	2.3	—	2.3	0.9	1.4	0.7	11.8	2.3	
身体障がい	4.6	1.7	1.7	4.0	2.9	—	2.3	0.9	1.4	—	9.1	2.6	
知的障がい	2.4	4.8	—	2.4	—	—	—	—	—	2.4	33.3	4.8	
精神障がい	2.9	—	2.9	8.8	5.9	—	2.9	—	—	2.9	23.5	—	
難病	3.5	3.5	2.4	3.5	3.5	—	1.2	1.2	—	1.2	5.9	—	
発達障がい	—	5.3	—	5.3	—	—	5.3	—	—	—	42.1	—	
高次脳機能障がい	11.1	1.9	3.7	3.7	1.9	—	3.7	1.9	5.6	—	5.6	3.7	

(10) 権利擁護について

問 46 あなたは、いままで障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

「ない」の割合が52.2%と最も高く、次いで「ある」の割合が20.7%、「少しある」の割合が16.9%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、精神障がい、発達障がいで「ある」の割合が高くなっています。

単位：%

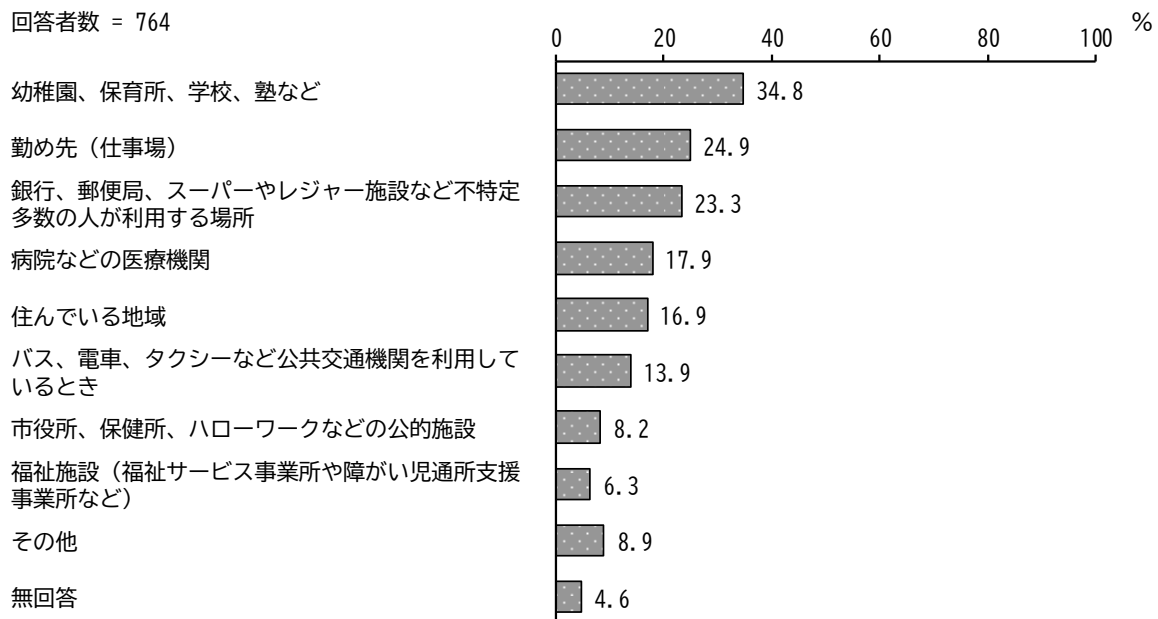
区分	回答者数 (件)	ある	少しある	ない	無回答
全 体	2,030	20.7	16.9	52.2	10.1
身体障がい	1,244	16.2	15.8	57.9	10.1
知的障がい	379	36.7	26.6	29.0	7.7
精神障がい	270	39.3	20.4	30.7	9.6
難病	424	12.3	18.4	62.7	6.6
発達障がい	318	43.1	25.8	25.5	5.7
高次脳機能障がい	92	15.2	19.6	42.4	22.8

(次の問47から問48は、問46で「ある」又は「少しある」を選んだ方にお聞きします。)

問 47 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「幼稚園、保育所、学校、塾など」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「勤め先（仕事場）」の割合が 24.9%、「銀行、郵便局、スーパーやレジャー施設など不特定多数の人が利用する場所」の割合が 23.3%となっています。

回答者数 = 764



【障がい種別】

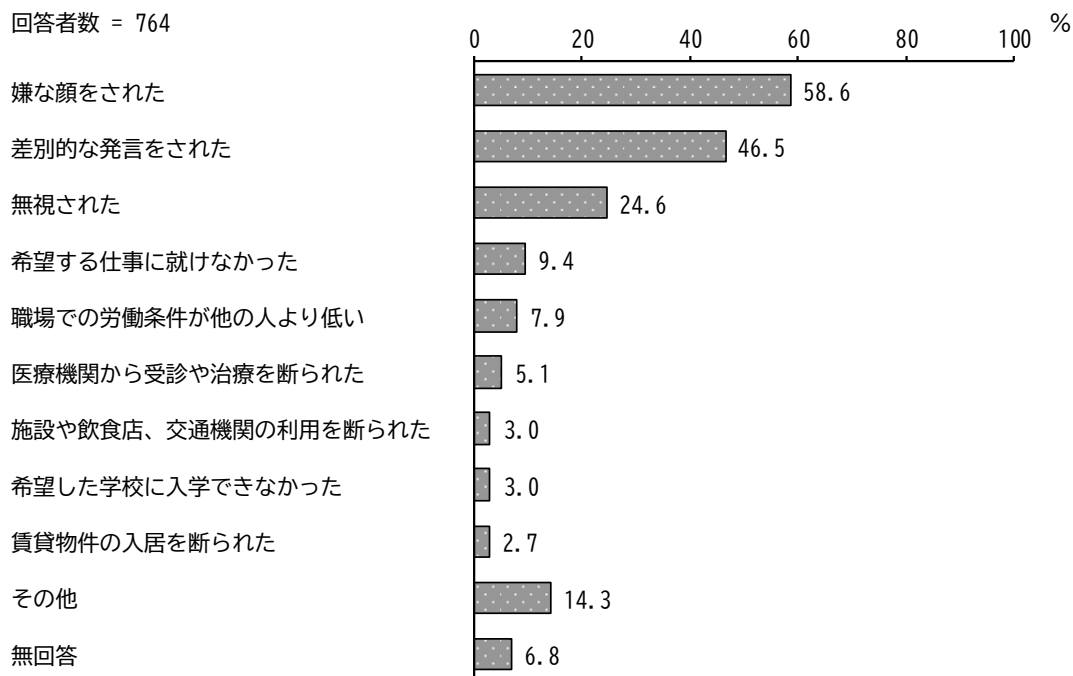
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がい、「幼稚園、保育所、学校、塾など」の割合が、精神障がい「勤め先（仕事場）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	幼稚園、保育所、学校、塾など	勤め先(仕事場)	病院などの医療機関	住んでいる地域	公的施設	市役所、保健所、ハローワークなどの	福祉施設(福祉サービス事業所や障がい児通所支援事業所など)	銀行、郵便局、スーパーやレジャー施設など不特定多数の人が利用する場所	バス、電車、タクシーなど公共交通機関を利用しているとき	その他	無回答
全 体	764	34.8	24.9	17.9	16.9	8.2	6.3	23.3	13.9	8.9	4.6	
身体障がい	398	19.1	25.9	19.3	18.8	8.3	6.0	24.4	16.8	11.1	6.0	
知的障がい	240	56.7	15.4	20.4	19.6	5.4	8.3	31.7	12.9	4.6	2.5	
精神障がい	161	38.5	38.5	21.1	16.8	13.7	9.3	13.7	12.4	9.3	3.1	
難病	130	16.9	30.8	13.8	15.4	13.1	4.6	27.7	13.8	9.2	2.3	
発達障がい	219	68.5	13.7	17.4	15.1	5.5	7.3	26.0	11.4	4.6	3.7	
高次脳機能障がい	32	9.4	18.8	21.9	25.0	3.1	3.1	28.1	25.0	12.5	9.4	

問 48 どのようなことで嫌な思いをしましたか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「嫌な顔をされた」の割合が 58.6%と最も高く、次いで「差別的な発言をされた」の割合が 46.5%、「無視された」の割合が 24.6%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいでは「差別的な発言をされた」の割合が、発達障がいでは「嫌な顔をされた」「差別的な発言をされた」の割合が高くなっています。

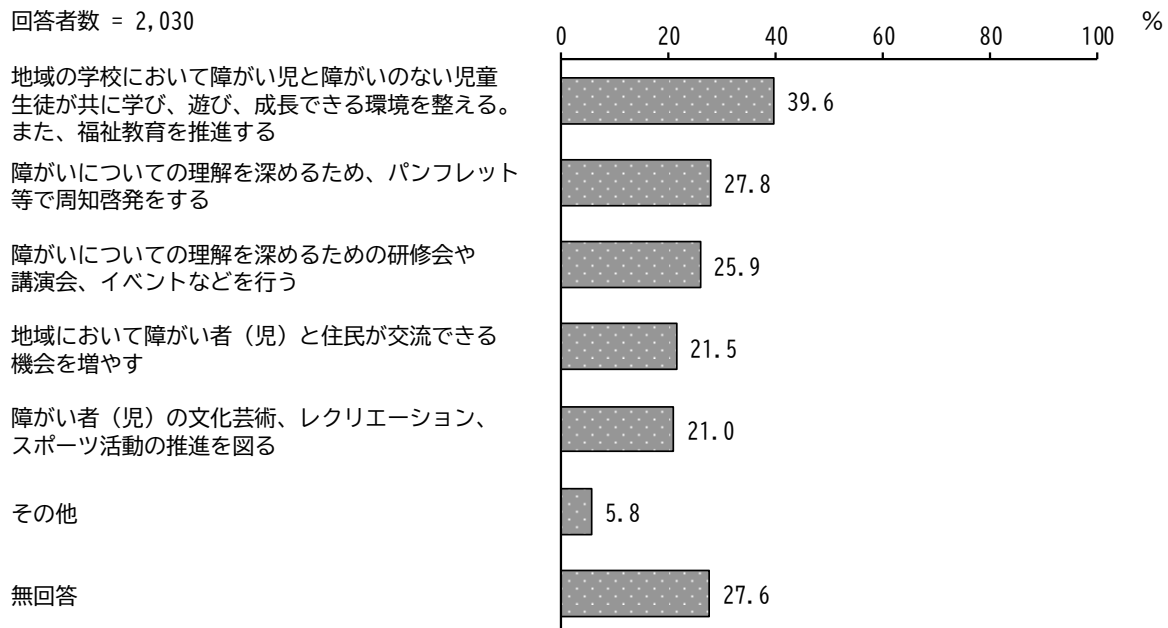
単位：%

区分	回答者数(件)	差別的な発言をされた	嫌な顔をされた	無視された	希望する仕事に就けなかった	職場での労働条件が他の人より低い	施設や飲食店、交通機関の利用を断られた	医療機関から受診や治療を断られた	希望した学校に入学できなかった	賃貸物件の入居を断られた	その他	無回答
全体	764	46.5	58.6	24.6	9.4	7.9	3.0	5.1	3.0	2.7	14.3	6.8
身体障がい	398	40.7	52.5	21.4	10.8	8.8	3.5	3.8	3.3	3.3	14.1	9.3
知的障がい	240	51.7	68.8	25.8	4.6	5.4	5.4	10.0	5.0	1.3	10.0	3.3
精神障がい	161	59.6	62.1	33.5	18.6	11.8	3.1	7.5	2.5	5.6	16.1	4.3
難病	130	44.6	55.4	15.4	8.5	7.7	3.1	5.4	2.3	2.3	19.2	4.6
発達障がい	219	57.1	69.9	29.2	5.9	4.6	4.1	7.8	4.6	—	14.6	4.1
高次脳機能障がい	32	34.4	59.4	18.8	6.3	6.3	—	3.1	—	—	3.1	28.1

問 49 障がいのある方への偏見や差別を解消するため、取り組んでほしいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「地域の学校において障がい児と障がいのない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」の割合が 39.6%と最も高く、次いで「障がいについての理解を深めるため、パンフレット等で周知啓発をする」の割合が 27.8%、「障がいについての理解を深めるための研修会や講演会、イベントなどを行う」の割合が 25.9%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

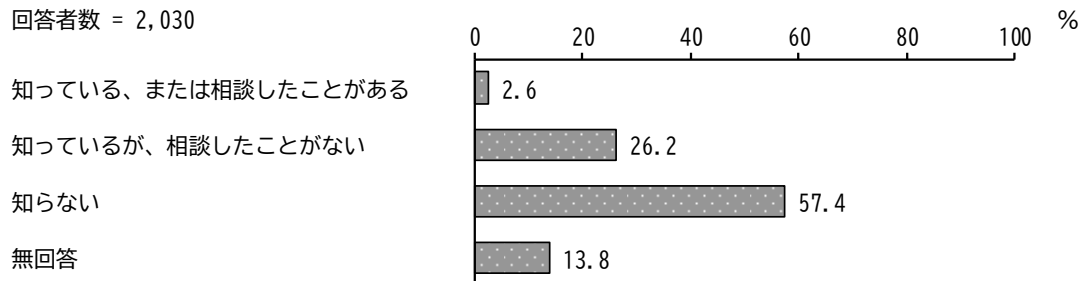
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいで「地域の学校において障がい児と障がいのない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」の割合が、精神障がいで「障がいについての理解を深めるための研修会や講演会、イベントなどを行う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がいについての理解を深めるため、パンフレット等で周知啓発をする	障がいについての理解を深めるための研修会や講演会、イベントなどを行う	地域の学校において障がい児と障がいのない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する	地域において障がい者(児)と住民が交流できる機会を増やす	障がい者(児)の文化芸術、レクリエーション、スポーツ活動の推進を図る	その他	無回答
全体	2,030	27.8	25.9	39.6	21.5	21.0	5.8	27.6
身体障がい	1,244	28.2	22.9	32.8	19.2	18.4	5.5	31.9
知的障がい	379	27.7	30.6	60.4	29.3	27.2	5.0	14.8
精神障がい	270	32.2	38.5	40.0	22.6	30.0	12.2	19.3
難病	424	30.7	28.1	40.6	25.2	20.5	5.2	22.9
発達障がい	318	27.7	34.3	71.4	24.5	31.8	8.2	9.7
高次脳機能障がい	92	21.7	15.2	27.2	15.2	18.5	3.3	48.9

問 50 あなたは、家族や介助者（福祉サービス事業所の職員を含む）、職場での上司や同僚から虐待（暴力や介護の放棄）を受けたときに、相談する機関があるのを知っていますか。（あてはまるものひとつに○をつけてください。）

「知らない」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「知っているが、相談したことがない」の割合が 26.2%となっています。



【障がい種別】

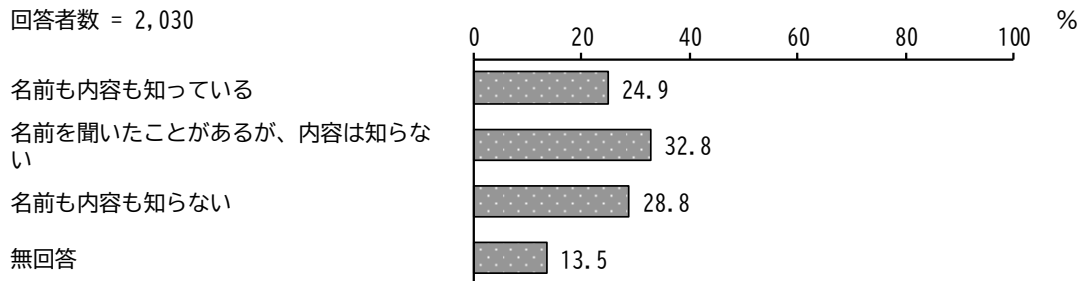
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいでは「知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている、または相談したことがある	知っているが、相談したことがない	知らない	無回答
全 体	2,030	2.6	26.2	57.4	13.8
身体障がい	1,244	2.7	25.0	57.0	15.4
知的障がい	379	4.0	24.8	63.3	7.9
精神障がい	270	4.8	27.0	57.0	11.1
難病	424	2.4	29.0	58.0	10.6
発達障がい	318	3.1	25.8	65.7	5.3
高次脳機能障がい	92	3.3	25.0	39.1	32.6

問 51 認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見人制度」を知っていますか。
 (あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「名前も内容も知らない」の割合が 28.8%、「名前も内容も知っている」の割合が 24.9%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいで「名前も内容も知らない」の割合が、発達障がいで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が、難病で「名前も内容も知っている」の割合が高くなっています。

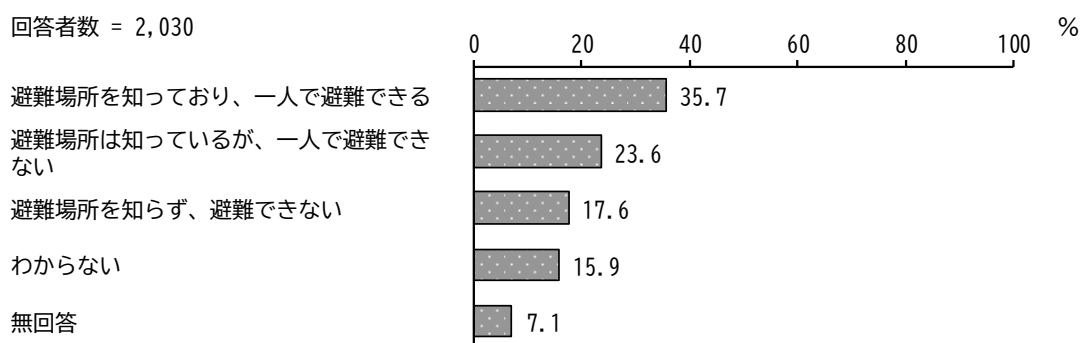
単位：%

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
全 体	2,030	24.9	32.8	28.8	13.5
身体障がい	1,244	26.4	30.5	27.5	15.7
知的障がい	379	25.1	35.6	34.0	5.3
精神障がい	270	18.1	32.2	38.9	10.7
難病	424	30.9	36.6	23.1	9.4
発達障がい	318	21.4	40.3	34.3	4.1
高次脳機能障がい	92	20.7	29.3	19.6	30.4

(11) 緊急時等について

問 52 あなたは、火事や水害、地震等の災害時に一人で避難できますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「避難場所を知っており、一人で避難できる」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「避難場所は知っているが、一人で避難できない」の割合が 23.6%、「避難場所を知らず、避難できない」の割合が 17.6%となっています。



【障がい種別】

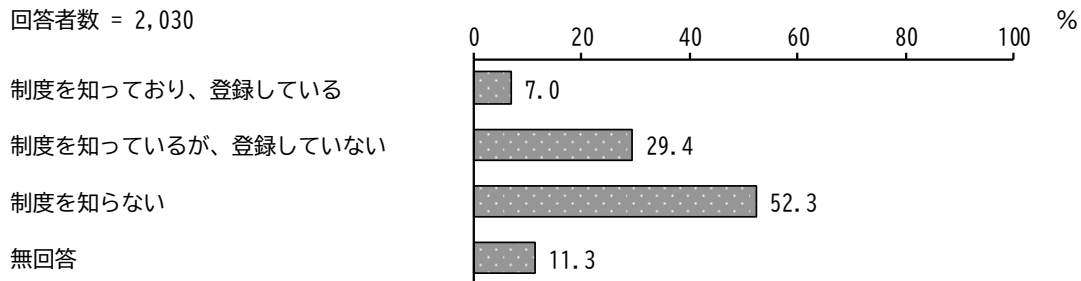
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいで「避難場所を知らず、避難できない」の割合が、高次脳機能障がいで「避難場所は知っているが、一人で避難できない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	避難場所を知っており、一人で避難できる	避難場所は知っているが、一人で避難できない	避難場所を知らず、避難できない	わからない	無回答
全 体	2,030	35.7	23.6	17.6	15.9	7.1
身体障がい	1,244	35.8	27.7	14.2	15.1	7.2
知的障がい	379	16.1	23.7	38.8	16.6	4.7
精神障がい	270	37.0	19.3	18.1	18.9	6.7
難病	424	43.2	25.9	11.1	14.6	5.2
発達障がい	318	18.2	22.3	35.8	18.9	4.7
高次脳機能障がい	92	10.9	32.6	26.1	9.8	20.7

問 53 災害時に自力での避難が困難な方のうち、希望する場合は、事前に関係者へ情報共有を行う制度「避難行動要支援者避難支援制度」があるのを知っていますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「制度を知らない」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「制度を知っているが、登録していない」の割合が 29.4%となっています。



【障がい種別】

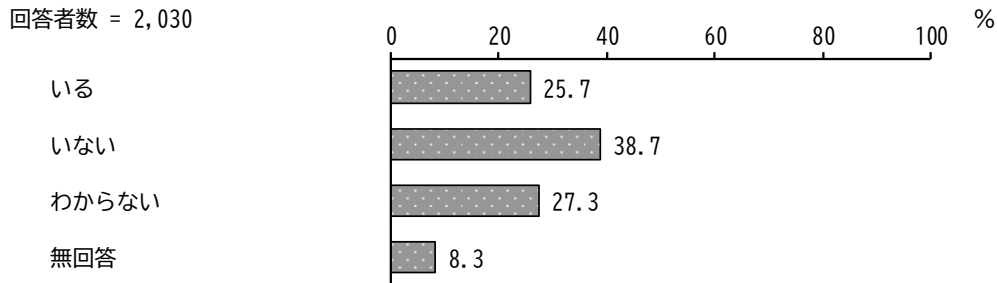
障がい種別にみると、知的障がい、発達障がいでは「制度を知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	制度を知っており、登録している	制度を知っているが、登録していない	制度を知らない	無回答
全 体	2,030	7.0	29.4	52.3	11.3
身体障がい	1,244	8.7	32.6	46.1	12.6
知的障がい	379	8.2	23.2	60.2	8.4
精神障がい	270	3.0	33.3	53.3	10.4
難病	424	8.5	32.3	50.9	8.3
発達障がい	318	4.1	25.5	66.4	4.1
高次脳機能障がい	92	10.9	29.3	35.9	23.9

問 54 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「いない」の割合が38.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が27.3%、「いる」の割合が25.7%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい、精神障がい、発達障がいで「いない」の割合が高くなっています。

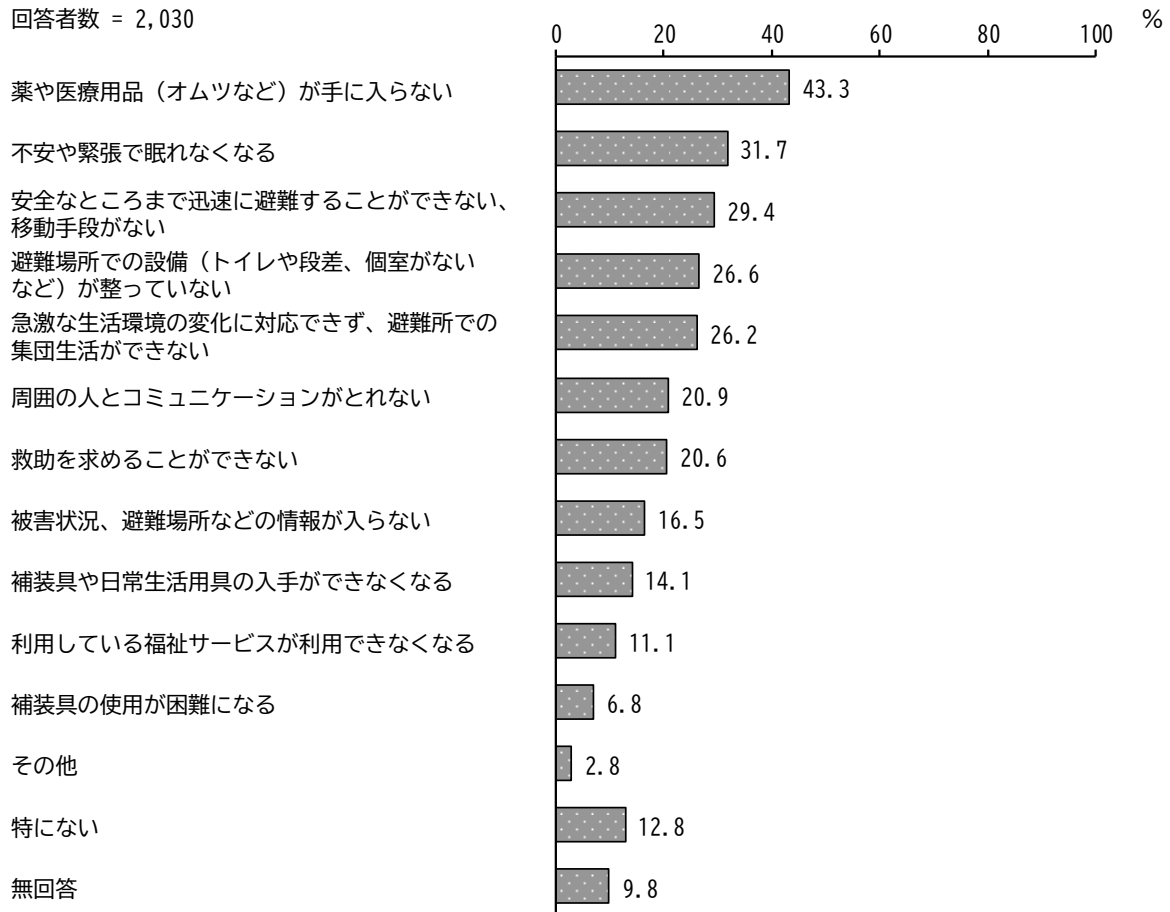
単位：%

区分	回答者数(件)	いる	いない	わからない	無回答
全 体	2,030	25.7	38.7	27.3	8.3
身体障がい	1,244	28.2	35.9	27.3	8.6
知的障がい	379	20.3	49.6	23.5	6.6
精神障がい	270	22.6	48.1	19.3	10.0
難病	424	25.2	40.1	28.5	6.1
発達障がい	318	15.7	54.7	26.4	3.1
高次脳機能障がい	92	23.9	33.7	21.7	20.7

問 55 災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「薬や医療用品（オムツなど）が手に入らない」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「不安や緊張で眠れなくなる」の割合が 31.7%、「安全なところまで迅速に避難することができない、移動手段がない」の割合が 29.4%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

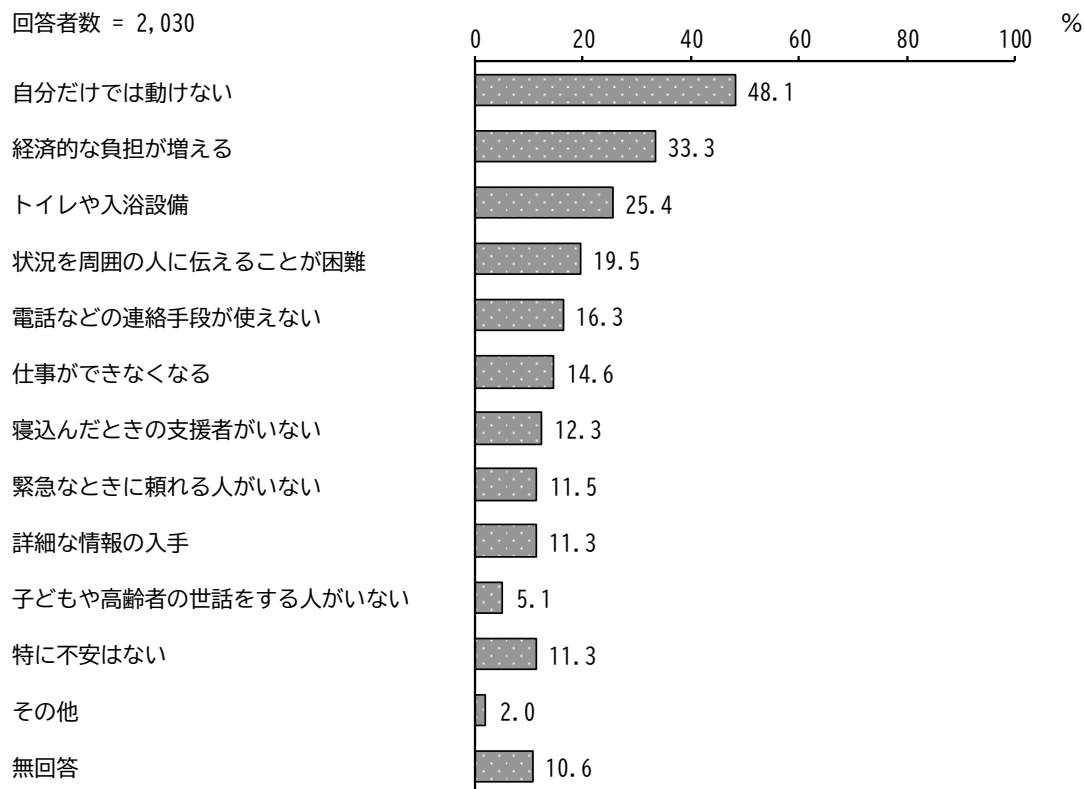
障がい種別にみると、発達障がいでは「急激な生活環境の変化に対応できず、避難所での集団生活ができない」「周囲の人とコミュニケーションがとれない」の割合が、知的障がいでは「周囲の人とコミュニケーションがとれない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	薬や医療用品(オムツなど)が手に入らない	補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	補装具の使用が困難になる	救助を求めることができない	安全なところまで迅速に避難することができない、移動手段がない	被害状況、避難場所などの情報が入らない	周囲の人とコミュニケーションがとれない	避難場所での設備(トイレや段差、個室がないなど)が整っていない	急激な生活環境の変化に対応できず、避難所での集団生活ができない	利用している福祉サービスが利用できなくなる	不安や緊張で眠れなくなる	その他	特になし	無回答
全体	2,030	43.3	14.1	6.8	20.6	29.4	16.5	20.9	26.6	26.2	11.1	31.7	2.8	12.8	9.8
身体障がい	1,244	43.9	16.7	9.2	18.5	31.8	15.2	15.6	29.3	21.1	11.3	27.7	3.0	13.5	10.5
知的障がい	379	39.3	11.1	4.2	43.8	36.9	26.6	49.9	28.2	45.6	17.4	36.4	2.1	7.1	6.1
精神障がい	270	46.7	11.1	3.3	23.0	27.8	17.0	30.0	22.6	37.4	13.7	53.0	3.7	7.0	11.1
難病	424	58.3	15.8	8.7	16.5	28.3	14.2	13.7	30.7	23.1	8.7	31.8	3.5	12.7	6.1
発達障がい	318	39.0	10.7	3.1	40.6	34.0	24.5	50.0	25.8	58.2	16.4	46.2	3.1	6.9	4.1
高次脳機能障がい	92	46.7	16.3	14.1	28.3	46.7	15.2	27.2	39.1	32.6	21.7	27.2	3.3	5.4	22.8

問 56 もし、あなたが急な体調悪化などの緊急な病状になったと考えた時、不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「自分だけでは動けない」の割合が 48.1%と最も高く、次いで「経済的な負担が増える」の割合が 33.3%、「トイレや入浴設備」の割合が 25.4%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がいでは「状況を周囲の人に伝えることが困難」「電話などの連絡手段が使えない」の割合が、発達障がいでは「状況を周囲の人に伝えることが困難」の割合が高くなっています。

単位：％

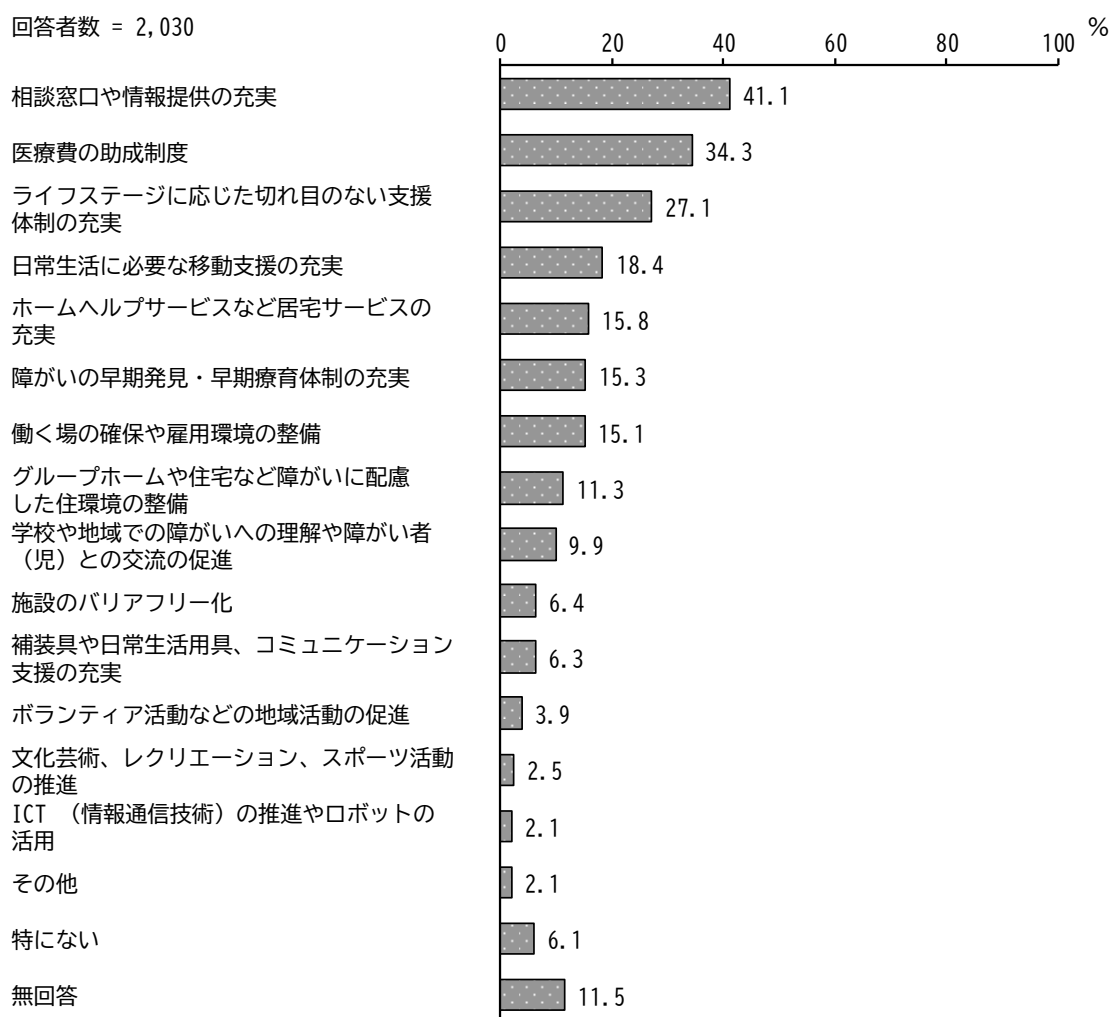
区分	回答者数(件)	自分だけでは動けない	トイレや入浴設備	経済的な負担が増える	状況を周囲の人に伝えることが困難	電話などの連絡手段が使えない	詳細な情報の入手	寝込んだときの支援者がいない	緊急なときに頼れる人がいない	仕事ができなくなる	子どもや高齢者の世話をする人がいない	特に不安はない	その他	無回答
全体	2,030	48.1	25.4	33.3	19.5	16.3	11.3	12.3	11.5	14.6	5.1	11.3	2.0	10.6
身体障がい	1,244	51.0	28.9	32.9	16.3	15.3	11.6	13.6	11.0	12.9	4.4	10.3	1.9	12.0
知的障がい	379	57.0	19.8	24.8	44.3	33.8	13.5	10.8	15.6	9.8	4.2	11.9	2.1	6.9
精神障がい	270	42.2	19.6	44.8	23.0	12.6	12.6	16.7	18.1	20.0	5.6	8.5	4.1	10.4
難病	424	51.2	30.7	43.4	13.2	10.4	8.7	11.1	9.7	24.1	8.0	8.7	1.7	5.4
発達障がい	318	51.6	17.3	28.6	41.8	27.0	14.2	10.7	15.1	10.7	5.3	14.8	3.1	4.7
高次脳機能障がい	92	59.8	39.1	27.2	32.6	28.3	12.0	12.0	12.0	6.5	4.3	4.3	4.3	19.6

(12) 障がい福祉施策について

問 57 あなたが必要だと思う障がい福祉の取り組みは何ですか。
(主なもの3つまで○をつけてください。)

「相談窓口や情報提供の充実」の割合が41.1%と最も高く、次いで「医療費の助成制度」の割合が34.3%、「ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実」の割合が27.1%となっています。

回答者数 = 2,030



【障がい種別】

障がい種別にみると、発達障がいでは「ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実」「障がいの早期発見・早期療育体制の充実」の割合が、知的障がいでは「ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	相談窓口や情報提供の充実	障がいの早期発見・早期療育体制の充実	ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実	学校や地域での障がいへの理解や障がい者(児)との交流の促進	ホームヘルプサービスなど居宅サービスの充実	日常生活に必要な移動支援の充実	グループホームや住宅など障がいに配慮した住環境の整備	働く場の確保や雇用環境の整備
全体	2,030	41.1	15.3	27.1	9.9	15.8	18.4	11.3	15.1
身体障がい	1,244	39.8	11.9	22.7	6.3	19.1	21.1	9.3	11.3
知的障がい	379	40.9	19.8	47.2	20.3	10.0	17.4	22.2	19.3
精神障がい	270	44.8	18.5	27.8	10.0	9.6	13.7	15.6	25.9
難病	424	45.3	16.3	27.1	7.5	19.1	18.6	9.0	17.7
発達障がい	318	43.4	30.8	49.4	26.4	5.3	13.5	15.4	26.7
高次脳機能障がい	92	27.2	10.9	28.3	2.2	19.6	17.4	15.2	6.5

区分	施設のバリアフリー化	補装具や日常生活用具、コミュニケーション支援の充実	ICT(情報通信技術)の推進やロボットの活用	ボランティア活動などの地域活動の促進	文化芸術、レクリエーション、スポーツ活動の推進	医療費の助成制度	その他	特になし	無回答
全体	6.4	6.3	2.1	3.9	2.5	34.3	2.1	6.1	11.5
身体障がい	7.7	8.3	1.9	4.6	1.9	33.9	1.6	7.4	12.9
知的障がい	5.8	4.5	2.1	2.1	2.6	24.5	3.4	3.4	6.6
精神障がい	3.7	3.3	1.5	1.9	4.4	31.9	2.6	5.9	11.1
難病	9.2	5.4	2.4	4.0	1.4	45.5	1.7	3.3	7.8
発達障がい	2.2	3.1	2.5	0.3	2.5	28.3	4.7	2.2	4.4
高次脳機能障がい	7.6	12.0	1.1	3.3	—	28.3	4.3	4.3	21.7

自由回答

分類回答	件数
1 療育・教育	0
（1）障がい児の療育・保育	19
（2）障がい児教育	10
（3）生涯学習、文化・スポーツ・レクリエーション活動	1
2 雇用・就業	2
（1）一般企業での就業	25
（2）福祉的就労	11
3 保健・医療	0
（1）健康づくりと病気・障がいの早期発見・早期対応	8
（2）医療	18
4 福祉サービス	0
（1）障がい福祉サービス	89
（2）その他在宅福祉サービス	9
5 相談・情報提供	0
（1）相談	6
（2）情報	12
6 地域福祉	0
（1）障がい理解・福祉教育	40
（2）住民同士の支え合い	13
7 生活環境	0
（1）バリアフリー・ユニバーサルデザイン	15
（2）防犯・防災対策	2
（3）外出・コミュニケーション支援	22
8 障害者施策推進体制	0
（1）障がい者の権利擁護	2
（2）障害者施策推進体制の整備	17
9 その他	97
（1）窓口・手続き関係	20
10 特にない（※感謝の言葉など含める）	77

【分類別の主な意見】

1 療育・教育

(1) 障がい児の療育・保育

- ・放課後デイサービスを利用出来るまでに数年かかった。k障がいの程度が重くないということで、優先されないということはあるが、利用回数が多ければ早く改善したと思う。小学校で通級指導は受けられたが、中学校にはないということで打ち切り。少子化でも手厚い切れ目ない指導があれば…と思います。
- ・療育を受けている日に保育所の欠食を出している関係で、保育所の行事があり、療育を欠席して保育所に通わせた場合、その日の給食は自宅からの弁当になってしまいます。給食が部外委託になった契約上（減免）というのは理解はしていますが、行事の際、1人だけ違うメニューを食べさせるのがとても心苦しいです。1、2食くらいの単位で柔軟な対応がとれば、子どもの行事参加などもしやすかったのかと思います。1～2食単位を実費でお支払いしても、同じ食事をとらせてあげたかったです。弁当を用意するのはやぶさかではありませんでしたが。
- ・発達障がいが増えている、放デイを利用したくても利用できないが増えている。重度の人を優先するのも分かるけれど、それでは親の精神的負担は増える一方。かと言って、放デイのスタッフの知識が悪すぎても困る。この子なら大丈夫だろうと勝手な思いこみで決められたりもしてきました。もっと知識のある人材がほしいです。報告もできない、連絡もしない、相談もしない人達が多すぎです。それに振り回されるのは、親でもあり、子でもあります。アンケートを取るだけ取って、はい終わりにしないで下さい。
- ・福島県郡山市は発達障がい児（情緒、知的障がいなし）への理解が非常に乏しく、サービス等もない。知的障がい児と同等にされ、学習や生活面での支援がとても低いレベルである。「合理的配慮」も実際に対応してもらえず、進学への不安が大きい。放デイを利用しているが、次年度はやめるつもりだ。職員も放デイの質も良くない。ただの児童クラブ（親の都合で預ける場）のような放デイばかりで、がっかりする。市役所窓口の職員も、知識が少なすぎる。発達障がい児の相談に伺ったことがあるが「お母さん大変ですよ」と心に寄りそっているつもりかもしれないが、全く必要な情報は得られなかった。
- ・お世話さまです。まだまだ知らないことだらけです。療育手帳を持って通所している子供の将来がどうなるか心配。今は薬等を飲んだりしています。
- ・保育園で発達の疑いがあるとのことで、保育園を通じて3回相談希望したが、いずれも定員オーバーにより受けられなかった。同じ保育園内で同じく発達の疑いがあった子は相談を受けられ相談員も付き早い段階で児童発達支援を受けていた。上の子も発達に関して1才半検診で指摘され、3才に連絡すると言われたが何もなかった。郡山市の障がい福祉は何の役にも立たないとあきらめています。
- ・放デイの内容を充実していただきたい。（訓練や支援等）預かり保育のような事業所が多いように思います。
- ・障がい児が安心して通える幼稚園が必要だと思う。

- ・自閉症スペクトラム症の小学生ですが、中学校に入るにあたり療育が終了する所がほとんどです。中学、高校までみてくれる放課後デイサービスや、それに変わる支援を受けられるようにしてほしい。おちついているため、ほとんど病院受診をしていないため、情報も入ってこない。
- ・放課後等デイサービスの施設の利用がなかなかできずに困っている人が結構いるので、施設を増やしてほしいと思います。

(2) 障がい児教育

- ・支援級、普通級と区別するのではなく、子どもに合わせた学習の在り方に対応できると有難い。障がいのある人（児）も利用できる、しやすい習い事等も充実してくれると良いと思います。
- ・障がい者の雇用が今よりもっと一般的になり、理解される職場が増えてほしい。軽度知的障がい者の受け入れをしている高校がもっと増えてほしい。普通高校 or 支援学校どちらも当てはまらない。
- ・教師の特性に対する理解度が全然低いと思う。特支級でも低い。そういうのもあり、不登校になってしまった場合の対応も何もない。教委と連携してほしい。ふれあい学校へ相談に行くも対応も悪く、そこへ行き1人で勝手に勉強してくれという感じだった。それが出来る子は良いが、出来ない子へのフォローアップが少ない。放課後デイも小さい子向けのものがほとんどで、大きくなるとそういう場がない。色んな情報も自分で調べないとほとんど耳に入っていない。
- ・学校の支援員さんの不足。担任の負担が大きい。一人一人に目が届かなくなってしまう。学校の希望する支援員の人数確保して下さい。
- ・発達障がい児、学習障がい、コミュニケーションに困り感のある子を受け入れてくれる県立高校を増やしてほしい。郡山市は障がいのある人に対しての対策が他の自治体より全然整っていない。障がい児にとってはとても住みにくい市です。
- ・療育手帳がないグレーゾーンの子供たちのフォローを手厚くサポートしてくれる高校ができたらいいなと思います。できれば公立で。
- ・グレーゾーンの発達障がいなので中学卒業後の進路が心配。
- ・学校と福祉がもっと連携し、発達障がいの子供達が学校に行きやすくなったり、楽しい学校生活を送れるように支援できるようになってくれれば良いと思う。学校の先生が発達障がいに関して無関心であったり、理解しようとしなかったり無知であることが多い為、学校の先生（小・中・高）方への障がいをもっと深く理解していただきたいし、先生方の困った子に対する相談機関、教育委員会とは別に専門的な窓口を設けてあげてあげると良いのかなと思います。
- ・発達障がいがあり、知的障がい（IQ）がグレーな為支援が受けにくい。支援が必要（手帳も含め）なのに普通の学校(中高)に進学しなければならないが、どう頑張っても健常児のようにはいかない。上記も記入したように、グレーな子にも充実した支援が本人や家族が選択でき、本人や家族がもっと生活しやすい環境に1日でも早くなってほしい！！

- ・親が元気な内は良いが、将来を考えると親として心配になる。支援学校も市内にもっと増やすなど特別支援教育を充実させてほしい。(大槻方面や片平方面にもほしいです) 重度に限らず生活はおくれるが、コミュニケーションや学習面での支援が必要な子もいるため、受け入れ範囲を広げてほしい。送迎も高等部まで受け入れてもらいたい。親は子を支えるためにも仕事をしなければいけない為、共働き家族でも負担なく生活できるようにしてほしい。人手が必要なことも大変なことも良く理解しています。でも、実際我が子のためを考えると今のままではやりくりが大変で進学のたびに頭を悩ませてしまいます。どうか今後もよろしくお願いします。

(3) 生涯学習、文化・スポーツ・レクリエーション活動

- ・自然の家の障がい児の開放デーのように、周りの人をあまり気にせず遊べる機会がいろいろあればいいなと思います。中高3年間は短いので、その後も学校のように過ごせる場があるといいのになと思います。

2 雇用・就業

- ・AI を使って自分の特性に合った仕事を見つけたい。
- ・頑張って働くようにする。

(1) 一般企業での就業

- ・今はほとんど困る事はなく勤務先にも告知して、普通に勤務して、周りの人にも嫌な思いも受ける事もなく、ありがたいなと感じています。
- ・有期雇用で働いているが、無期雇用で働いている方々と同様な給与にして頂きたい。障がい者の方は、時給で働いている方が多いと思う。私もその中の1人です。月給制で働きたいです。安定した収入を得て生活がしたいです。
- ・気軽に仕事が出来ないし、今の福祉ではもう少し何かが足りない。
- ・就活の時、精神障がいというだけで断られる。
- ・一般企業で働ける様になりたいです。親亡き後住む場所をどうしたらいいか不安です。
- ・障がいを持っている家庭に福祉サービスの案内が欲しい。(制度も変化する事もあるので利用できる内容や制度、利用するにあたって必要となるもの) 一般就労を目指しているが、受け入れてくれる企業が少ない。
- ・病気の事はあまり人に話したくない。仕事はしたいが病気でフルタイム働く事は難しい。仕事を探すのも難しい。

- ・私の仲間はマッサージ業を生業にされている方が多いのですが、このところ健常者の資格保有者が増え、病院などでは健常者のマッサージ師を採用するケースが増え、必然的に働く場所が少なくなったとの声を聞きます。雇う側のリスク回避も理解出来るのですが、生業としての職業も限られる仲間にとっては死活問題といえます。共存共栄は出来ないものなのでしょうか？この問題解決には、行政の果たす役割も大きいと思っています。期待しています。
- ・同じ障がいの人の集いがあると良い。心臓が悪いので自宅で出来る仕事があればありがたいです。
- ・通院している病院で希望に合う就職先が見つからない。ハローワークで紹介されるものはフルタイム勤務が多く、週3～4日の短時間勤務を探しているがどこに聞いたらいいかわからないと話したところ医療相談員の方から「福島障害者職業センター」で適性などの相談をすることを勧められました。しかし発作の心配もあり、郡山市から福島市への移動が困難なため諦めました。このような施設は郡山にはないのでしょうか。県内の他の市町村の方はどうしているのか疑問に思いました。

(2) 福祉的就労

- ・障がい者雇用の給料が安すぎる。
- ・子供（本人）が幼稚園や小学校（特別支援学級）で、受けた心の傷は治りませんが、今の障がい福祉は昔より色々良くなってきていると思います。本人は一般企業への就労を希望していますが、現実としてはB型の事業所に就労できるかな？どうかな？というところでもあります。それからA型・B型事業所ともに郡山市南部（安積町、田村町など）にはほとんどないので、場所が偏らないといいのにも思います。富久山の方は多いですね。
- ・知的障がい者の職業訓練や就職に支援すべきと思う。就職しても自宅から職場が遠く、親が送迎している家族の負担大。働いている障がい者に対しても実態を調査し、支援等を考えてほしい。
- ・障がいを持っている人の仕事、職場を増やしてほしい。
- ・就労継続支援（B型）に通所しています。職員さんが優しくて、これからも頑張って通っていきたくて思っています。（本人談）家族が元気な内は皆で支えて行きたいと思っています。本人が困らないよう、準備しておこうと思っています。作業所の職員さん、郡山市の支援にも感謝しています。（母）
- ・現在、私は月に1回定期的に通院をして主治医の診察と投薬を受けています。自立支援医療の制度があるおかげで経済的な負担をあまり気にすることもなく、安心して医療を受ける事ができます。今後もこの制度を維持し継続していただきたいと思っています。再就職先を就労継続支援A型事業所で探していますが、ハローワークへ職業相談に行っても求人は数件しかありません。行政と福祉施設がタッグを組んで障がいのある人が安心して働くことのできる施設を増やして欲しいと思っています。自立支援医療制度と、障がい者手帳について有効期限が近付いたら案内があると助かります。
- ・息子も障がいを持っているので安心して外出できる居場所で仕事ができるようになってほしい。

3 保健・医療

(1) 健康づくりと病気・障がいの早期発見・早期対応

- ・私はパーキンソン病です。寒くなり体を動かすのがつらいです。今後、体力が衰え寝たきりになってしまう事が心配です。対応として自分の体の状態を診てもらい、どのような運動等をしていけば良いか指導してもらいたいと思います。
- ・現在、障がい者枠で仕事をさせていただき、社会保険にも加入出来たのですが（協会健保東京支部に加入、パート労働、非課税対象）、医療費の払い戻しの件で困っている。まず協会健保から①高額療養費支給申請書の書類を頂き、必要事項を記入し協会へ郵送。後月に②決定通知書のハガキが届く。③決定通知のハガキと一緒に郡山行政センターの窓口で重度心身障害者医療費助成申請書・ピンクの用紙）を提出する形になっている。毎月戻るお金があれば次回の診察と薬剤の支払いに使用出来るが決定通知書が遅れて届く時がある（コロナ患者さんの手続きが優先になっているのか知りませんが）そうなるか払戻しのお金が無いので、次回の診察と薬剤の支払いに自分のお財布から捻出するようになってしまう（自払）使用している薬剤を切らすわけにはいかないし、毎回 28000 円はかかっているから自分から出すのは大変です。（プツツと途切れた時が恐ろしい）どうか、この2度手間になっているようなやり方、違う制度に変えられないか、もっとスムーズな手続きにならないものか、切に願っている。なんとかありませんか！！もう1つ、健常者の中には心を病んでしまった人、たくさんいると思います。この方達にも助けの手を差し伸べて欲しい。
- ・医療費の補助は大変助かっていますが、郡山はバスの本数が少なく、病院に行くのに時間が掛かり、費用も掛かります。タクシー券もいただいています、とても足りません。年金がもう少しもらえればいいのですが。
- ・障がい児の場合は、障がい軽度だと早期発見することが難しかった。乳幼児健診などでもっと相談できたりチェックをしてくれると良いと思う。障がいが発見されても、保護者がどうすれば良いのかがわからなかった。自分で情報収集をし、学校や相談支援事業所に相談をした。もっと啓発活動をし、障がい児やその保護者への支援があればいいと思う。家族だけではなく、外部の方の支援がもっと必要だ。
- ・いろいろな面で不自由なことがあっても健康状態が現状維持できるように努めたいと思います。
- ・少しでも他の人の迷惑にならないよう、自立して長く生活できる様健康寿命を延ばしていきたい。衣食住バランスの良い生活を整えて元気で生活していきたい。現在、治療している病気が再発すると迷惑がかかるので、薬を確実に飲み元気でいられる期間を少しでも長くしたい。現在、わずかな額の支援金を受け取っているが、（それだけでも大変ありがたいが）生活の足しにはならない。自分以上に苦しんでいる障がい者が多くいる。具体的な手厚い福祉行政をぜひお願いしたい。アンケートの項目の中には経済的な自立や支援などの項目がなかったように思えるが、福祉行政面での期待は大きいと思っている。行政全般からすれば健常者の観点からの行政への期待が大きく、福祉行政は目立たないかもしれないが、障がい者が安定して暮らせるような実感をもてる社会の実現こそ住みよい町づくりといえるし、誇りのもてる町になると思う。誰もが年をとり、誰もが障がいを持つように必ずなってくるはずだ。安心して年をとれる社会の実現をぜひ望む。

- ・年を重ねてくると、介護をする側の体力、気力、健康が維持できるのかも不安になってくる。これからもお互いに元気に過ごしていきたい。
- ・年齢に応じた健康診断で早期発見早期治療を行うことだと思います。

(2) 医療

- ・全ての障がい者の医療費が無料になりませんか。
- ・病院側医師等の患者に対しての心理的配慮が希薄だ。左右の股関節痛みひどく、歩行に支障をきたしている。真剣に対応してくれる医師がいない。日常的な相談の配慮があれば助かる。そちらの方から。再度、病院、医師の患者に対する配慮が乏しい。くだけた。このアンケートを十二分に活かしてください。後が恐しいのだが。焼石に水にしないで下さい。情報の集約だけでなく現実を見ることが大切でしょう。毎年体は変化します。
- ・国の制度として、入院期間が3ヶ月と限定される事については、家族にとって大変な負担となり、患者にとっては十分な完治もしていない所で、別の施設とか病院に移動するのは酷であると思いました。(患者の家族より)
- ・難聴があり以前補聴器を医療機関を通し購入した際、助成金、医療費の控除の対象になりませんでした。再度、日常生活に不便を感じ購入を考えていますが、かなり高額になりそうで思案してるところです。目に見えない部分ではありますが、多少なりとも助成してもらえればと思っております。
- ・脳障がいの場合、医学的に現在何も手がつけられない状態。原因が分からない為、家族としてもどうにもならない。退院しても、周りに迷惑かけてしまうので、手の打ちようがありません。
- ・先日、病院に娘と2人で行って薬をもらう時お金が足りなくて娘の分支払えませんでした。その薬局は、お金を払わないと薬がもらえないと言われました。おかしくありませんか？重度心身の手帳を持っているのに、払わないともらえないとは？あきれました。なぜ、以前の子供医療の時の様に用紙に書いてもらって提出してとめんどくさい医療費の請求をしなくてはいけいのでしょうか。※※薬局はそういう人の集まりなのだから、もっと簡単に手帳があればただでいいと思います。お金がなくて、病院に行けない事を何度も味わってきました。母子手帳の厳しさです。郡山は、他人に優しくないので障がい者にも優しくできません。自分が良ければ良い人が多いです。生きづらい郡山です。生活しにくい郡山です。年金で生活している親子はいつどうなるか分からない人生です。夢のない将来です。夢のない郡山です。
- ・医療費、薬代の無償化を希望します。
- ・家族と同居しているが自営業で収入が合算でみられるので薬の支援代が切られた。自分の収入で自立を続けたいと思っている。己々の難病について学習会が定期的にあって紹介してほしい。難病と付き合い、支障ない程度に生活を続けたいと思います。

- ・医療費の助成制度には大変助けられています。年金暮らしには安心して病院に行けるので感謝しております。ただし情報提供が少なすぎるように思います。特に、災害時の避難場所や支援の事が心配です。市の広報は見ていますが、毎月限られた紙面で伝える事は多いと思いますが、ぜひ障がい者のための災害に遭った時や気軽に日常生活にもっと利用できる情報があればと思いました！市の係の方は相談すると、とても親切に対応して下さるのでありがたく思っています！
- ・高齢のためか持病を多く抱えています。通院、医療費などままならない状況ですので、経済的な支援が充実すればと思っています。

4 福祉サービス

(1) 障がい福祉サービス

- ・将来親が急に病気になったとき、亡くなった時、急に1人になってしまったときなどどうしたらよいか相談する所、すぐ入れる施設など具体的に分かればとても助かります。
- ・福祉サービスが何種類もあるときに分かりませんでした。これからは相談支援等を利用したいと思います。
- ・介護が必要になったとき、相談する所が分からない。障がい福祉の人が訪ねて来たことはない？
- ・医ケア対応の事業所が本当に少ない。あるところも定員がいっぱいなどで利用できなかったりする。今現在利用している方と新規の方と日程など調整しながら利用できず在宅で過ごす方など出ないようにしてほしい。医ケアの緊急な場合の入所施設がない。(18歳以上)あるのかもしれないが、我が家では情報を持ち合わせていない。私は子供を介助する親の立場ですが、もし私に何かあって介助することができなくなった場合、この子はどうしたらいいの？不安です。情報もなければ、いざその時になって考えては遅いと思うので、情報提供を積極的にしていただきたいです。そして施設の拡充にも力をそそいでいただきたいです。障がいをもった子の親は皆さん自分がいなくなった後の不安を持っていると思います。安心して子供を委ねることができるそんな世の中になっていただけると素敵だと感じます。そのためには今できる事、行政などに協力できることは積極的に参加しますので、どうかどんどん前進させてください。お願いいたします。
- ・生活支援員の人の女性の方が強いことを言っているのを見ると、もっと人間性があるといいのになあとと思っています。自分の夢は車を運転できるように復帰できるようになり、作業所に行けるようになりたいと思います。
- ・いろいろな制度があるのですが、具体的にどのように利用したらいいのかわかりづらいです。家族(親も)高齢化し、不安です。意見考え方など実際に説明、意見交換してお互いの気持ち、コミュニケーションを取ったらいいのではと思っています。
- ・実家の母が要支援2で娘の私は透析15年。ヘルパーとデイを利用していますが、私が具合が悪くなったら施設に入れないので心配です。
- ・私達障がいの親が年老いた時にスムーズに障がい者を受け入れる施設やグループホームが少ないです。

- ・生活用具給付券の給付額が 30 年以上同額であるが、用具等の商品がだいぶ値上がっており、給付額の見直しをしてほしい。(給付額の増額)
- ・親が亡くなってからの経済的及び日常生活における種々の相談、支援する人が身近にいないことが最も悩みです。

(2) その他在宅福祉サービス

- ・介護保険料を払っても何も受けていない。介護保険料が高い。健康保険料より介護保険料のほうが高く負担が多い。温泉券があれば良いな。
- ・昨年 11 月より猪苗代町にある障がい児入所施設に入所しました。郡山市内での入所施設を探して頂きましたが、①施設の数が少ない(1 事業所だけ、常に入所待ちの方がいる) ②定員数も限られている。理由より自宅から距離のある施設への入所となりました。(転校もせざるを得ませんでした)。高齢者だけでなく障がい児についても同じ地域で生活できる施設の充実を希望します。学校行事や施設面談、訪問も経済的にも時間的にも負担があり、未成年時の入所後もある程度のお金(むしろ同等のお金)がかかると実感している。
- ・生活保護や障害年金額を上げて欲しい。一般の人達は、障がいを理解していない為、関わらない方がいいと思う。
- ・月に 1～2 回介護している人にも、自由の時間を(ストレス解消)の時見回りをして頂けると嬉しいです。介護している人も倒れることのない様に…楽しく過ごさせてやりたい願望です。老々介護は、する方も大変です。
- ・内部障がいのため、一生免疫抑制剤を服用しなければいけません。それに伴い、コロナや水疱瘡など多くの感染症に注意するため、よくタクシーを使います。定期的な通院で県外の大きな病院へ行く時は新幹線の駅と病院の往復に一万円以上もかかります。(割引されたとしても)タクシーや交通機関の割引をさらに増やしてほしいです。切実な願いです。多くの方々が困っています。
- ・訪問リハビリを受けており、運動と介護者のお話を良く聞いて下さり、家族も有難く思っております。
- ・両親が高齢になってきたので、もう少し歳をとったら、障害保険を使い、両親に助けてもらっている部分を補いたい。しかし、両親の介護保険と私の障害保険を連携し、家の家事をお願いできたらいいなと思う。又、田舎だと車がないと生活が困難で、車を気軽に出して頂けるサービスがあったらなとよく思うことがある。また、姉弟がいるが老後めんどうをみて貰うことは難しいと感じている為、重度でなくても、障がい者が入れる施設があればと常々思っている。
- ・月、水、金の透析をしているが、もっと年を取った時に、家の中(掃除、料理等)をしてくれる人が欲しい。子供二人と夫と四人で暮しているが、子供二人とも障がい児なので…それが心配です。
- ・在宅介護に移行している現状の中で、老老介護、老老支援など今後増えていく団塊世代への対策をしっかりしてほしい。限界があり、共倒れもある。「一人も取り残さない」夏の取り組みを願う。

5 相談・情報提供

(1) 相談

- ・セルフプランにしたくないが、相談員さんがいっぱい使えない。もっと気軽に相談できるようにしてほしい。
- ・働けない状態なのに年金が通らず、生活保護の相談に行ける家族もない(平日仕事だから)生活保護の相談などは毎日やってほしいです。物価も高くなり、経済的な支援も自宅の支援も受けられず、生きていける自信が無いので生きるのをやめたいと毎日思っています。アンケートの前にそっちを色々考えてほしいです。
- ・親の立場から障がいのある生活が初めてで知らない事、どうしたらいいかわからないことだらけで自分らが積極的に情報を探しに行かずとも周知される社会を望みます。幼稚園、小中高と連携してもらい早めにどのような道筋で学校仕事等進んでいけばいいか助言サポートがほしいです。(例えば専属の相談人をつけるとか)障がい(グレーな子)県立の卒業認定の出る高校をいくつかあるといいと思います。親なき後の心配を障がい児をもつ親は皆あると思います。そこを明確に出来ればと思います。
- ・相談支援事業所の拡充を図ってほしい。
- ・本人の成長過程において、1年1年課題となることが異なってきます。成長していく本人もそして支援する家族も各々に相談できる場所が多くあるといいと思います。また、今はコロナ禍もあり開催しにくい所でもあります。以前のように市で開催された様々な講習会があると直接かわりがある人もまた知りたいと思う住民の方々も学びの場となり、障がいについて考える機会となるので、ぜひ開催してほしいと思います。同じ悩みを持っている人たちも孤立感が軽減することもあると思います。
- ・家族にも相談できないとき1人で苦しんでいる。

(2) 情報

- ・各種、サービスや制度について、あまりにも知らなすぎた！！もっと広報活動を充実してほしい。
- ・障がい者団体、患者会、家族会がどこにあるのか(分からない)知りたい。※できればあまり大きくない、少人数での交流を希望。
- ・情報を提供してくれるところがどこだか最初はわからず困ったため、ひとつの窓口でいろいろ知りたい。放課後デイサービスを増やしてほしい。長期休みに朝から預けられるところがないため困っている為そのような施設がほしい。
- ・全ての障がい者に、福祉サービスとか福祉行政に関する情報がいきわたる様に、どのような情報の伝達ができるか方法を考えてほしい。場合によっては、担当者が障がい者及びその家族に対して直接説明に向くことも考えてほしい。
- ・“こおりやま”広報に福祉事業を掲載したり、地域の民生委員に指導が入れば気軽に話せるし、組織の仕組みも分かり障がい者には助かる。民生員も人数を増やして皆さんとのコミュニケーションを図ることができると思います。日頃のお付き合いが大事です。

- ・障がいがある未就学児の親に「この小学校は支援学級があるよ」「入学前にこういうことをしてね」「支援学校はここだよ」という色々わかるパンフレットの的なものがあると助かります。どう進めて行ったらいいのかわからないので教えてほしいです。もしそういう事ができないのであれば、相談が出来る場所を教えてください。
- ・同じ障がいの仲間の集まりから、いろいろな情報を得ています。自分で申請しなければいろいろな支援を受けられないのは当然でしょうか。そもそもどんな支援を受けられるかが分からない。そのような時に仲間の方からの情報が役に立ちます。お忙しいと思いますが、精神手帳や身体障害手帳を交付する際等（パンフレットに書いてあっても）窓口での説明ももう少しあるとありがたいです。また障がいのある人もできることがもっとやりやすく社会に関わるようになるとよいなと思います。
- ・一人で移動が困難。書類の申請、郵送等ができない。そんな人たちのために何か簡単にできる方法を考えてほしい。
- ・困った時どこに TEL をしたら良いかわからなく、前もって TEL 番号とかあれば良いかな。
- ・こういう問題に触れると障がいに関わらず、その機関に行くか当事者にならないと知らないことに気づかされます。もっとこの問題に限らず、目に触れる、耳に入るような社会というか環境になることが最善だと感じます。たぶんどこかで知る機会を逃した人は知らないままのはず。直面した時知らな過ぎてどうしていいか、何をすればどこに行けば誰に聞けばなどと慌てる人がほとんどでしょう。少しずつでも知ってもらう場面、場所づくりが必要です。 ※生意気いってすみません。

6 地域福祉

(1) 障がい理解・福祉教育

- ・自分の力で生活が出来るようになりたい。目に見えない障がいなので、周りの人に理解されにくい。日々不安の中で生活しており安心して生活したい。
- ・障がいを理解、支援している人達にはすごく助かっています。我が子はその中でもなかなか障がいなので、そんな中で理解を得られない、理解する前に不安を述べられる、断られる事があります。そんな時いつも同じ「障がい児」なのにどうして、こんなに差がでてしまうのかと悲しくもなり、この子の将来に親として不安になり申し訳ない気持ちになります。重複障がいなのですが、チームとして皆さまで支援して頂けるとありがたいです。
- ・ペースメーカーを使用しているが、普段は健常者と変わらないので心配していない。
- ・若い人は障がい者や老人をあまり目にとめてくれない。もっと気にしてくれたらいいと思う。老々介護は大変です。88才妻
- ・難病のみなので悪化した時に医療、福祉の方々に大変お世話になり、良くして頂きとても感謝しております。安定していれば一般の方と何も変わらず生活できているので、何も不便等感じずに過ごさせて頂いているので、障がいやもっと重い病気の方々の支援が、地域の優しい目が増えて行って欲しいなと思います。
- ・障がい者に対しての偏見がすごいと感じます。健常者の方ができる事をできないと決めつけられることはストレスになります。小さい頃からやっていることを障がいを持つからできないと思われて出来たらすごいなんて複雑です。

- ・本人が望んだ働き方や望んだ職業を選択できる社会。障がい者が近くにいるにも働いても嫌がられない社会。
- ・障がいを持っていることが特別ではないことをより多くの人々に理解して欲しい。セーフコミュニティ郡山市にふさわしい人がますます増えるよう希望します。
- ・差別なく、皆と同じように生活を送れるようになればいいと思います。

(2) 住民同士の支え合い

- ・障がい者と障がいがない人と楽しめるような音楽イベントを作り、東北6県を盛り上げていけるようなイベントを作ってほしいです。
- ・障がい者に優しくしてほしい。みんな優しいから嬉しい。みんなで運動したい。
- ・福祉サービスはかなり整ってきているとは思いますが、一般の方々との接点が少なく、精神的に孤立しがちなところがあります。もっと、交流を深められる体制作りをして頂けると幸いです。
- ・うちでは小さい時から買物などは、本人が買って来ました。店の人も良く接してくれます。家の中から出ないと、本人も周りの人も接し方がわからないと思います。障がい者は周りの人と接してこそ、人と人との付き合いが出来ると思います。
- ・(障がい福祉とは別！！→子どもへの虐待に心痛めています。もっともっと積極的に踏み込んで救ってあげてほしいです。) 健常者と障がい者の交流が少ないです。一部の学生(単位を取る為の人がいてちょっと不快) 一部のボランティアだけでなく、多くの人たちと普通に関われるようにと願っています。スポーツができる環境を整えてほしいです。ボランティアで障がい者スポーツに関わっています。事業としても行ってほしいです。よろしく願います。
- ・いつもありがとうございます。頑張って生活しております。私は公的な事より、普通の暮らしの中で困った人を見たら優しく声をかけ合える市民が多くなれば、と思っています。(郡山の人は思いやりが足りない、と)
- ・子どもが大きくなるにつれて、周りの目が気になる事が増えた。自分がいなくなった後に、子供は一人で生活していけるのか？ただそれだけが不安。
- ・障がい福祉における地域の民生委員等の訪問等がなくて地域の見守る方々(民生委員等)が誰だか分からない状態である。将来の夢として福島県ペースメーカー友の会の立ち上げが必要であります。仲間同士としての集まりがほしいです。
- ・親が亡くなったあとの事心配。障がい福祉に関心を持って下さる方がもっと増えてほしい。お世話して下さいる人達への待遇(国、地域)よくしていただきたい。お世話して下さいる皆様に感謝です。
- ・私は障がい3級主人は2級です。やはり近所の方とのコミュニケーションは大事だと思います。コロナの中、そういうものがなくなりました。町内会の活性化、今までやってる人が長くなり老人ばかりなので若い方に移行してもらえば良いのかな？考え方が固定しては良くないと思います。

7 生活環境

(1) バリアフリー・ユニバーサルデザイン

- ・障がいのない状態で生活（一人暮らし）していたが持病が再発して障がいを持つ身になってしまった。退院を促されても家は段差だらけで、一人で住むのは無理だった。近所に頼れる人もいなかった。自ら役所（郡山ではありません）に問い合わせても良い返事はもらえず、相談支援事業所さんの紹介でグループホームに入ることができ、次に再発したら…という心配事はなくなりました。コロナの流行もあり、自由に外出はできなくなったのはつらいところもあるが、集団生活ゆえ仕方がないと思っています。それでも何かあったとき近くに頼れる人がいるのは心強いです。
- ・市役所の2F 西庁舎のイスは、健常者の方にはクッションせいがあり座りやすいのですが、身体下肢の悪い者にとって座る、立つのに杖がおけなかつたり、立つときに何かにつかまれなかつたり不便です。市民部のマイナンバーやってるところのひじかけ？しっかりしたイスを2Fにもおいてほしい。市庁舎の障がい福祉課の方、気を利かせて、手帳を入れるプラスチックを交換してくださったけど、壊れてもおりませんし、手帳の有効期限もないのに、意味不明なことを言うのは、やめていただきたい。あと、障害者手帳をもっていると精神とか、知的とか会話が普通にできるんですね？とお話をされていた方がいたので、貴様の方が問題があるのでは？と思いましたが。市役所での障がいを持っている方々の差別、障がいがある事があるから、手帳があるのであって、甘えている訳ではありませんよ。
- ・施設等の障がい者用駐車場の整備を希望します。（健常者目線での駐車場整備が多い）面積等の制約があるので、出来るだけ障がい者の目線を入れてほしい。
- ・郡山の道路は段差が多く、側溝も閉じておらず、車が来た時によけた時に側溝に落ちることがある。（特に夜や雪の日が危ないです）外灯も少なく薄暗い場所が多い。歩道があっても、中に電柱があつたり、急に狭くなつたりしている。その中を自転車が通るので危ない。道路環境を良くして、安心して歩けるようにしてください。
- ・将来は家族を持ち、平和に暮らしたい。僕は、五体満足で体を動かすことは普通にできるけど、家族が車いすなのでどこか出かけるのも、バリアがあると行きたいところに一緒に行けないのでいつかそんな事を気にせず、（行く場所にバリアがないか）出かけられるようになったらと思います。郡山は温泉もたくさんあるけど、介護ベッドがあるところがほとんどないし、車いすで行けるところも少ない。みんなが利用しやすい環境になったら良いなと思います。
- ・歩道が広く、座る所、つかまる所の整備が豊かである場所をとてもうらやましく感じます。100mおきにでも座って少し休めればもっと外出しやすいのにと、個人的には思っています。
- ・オストメイト対応のトイレを増やしてほしい。
- ・障害者パーキングがゲートのある駐車場内に設置されているナンセンスさは時々感じる。また、健常者が使用しない様に三角コーンを置くのもナンセンス。

- ・いろいろな活動に参加したいのですが、現場までの道のりを考えると、前向きになれない過去がありました。今は身体の筋肉とかついたりして努力して普通までとはいきませんが、行動できるようになり、傾聴ボランティア、公民館活動とか少しできるようになり楽しく過ごしていますが、まず駐車場から現場までの距離とか階段とか改善されればなあと思います。
- ・古い建物になるとまだバリアフリー化されていないので、上の階に上るのが難しい。経済的に大変なのは分かりますが、施設整備をしてほしい。ニセ NPO に個人情報盗られたことがある。名簿だけ書いたら何の支援もなく、NPO 自体がウソでした。個人情報が悪用されるかもしれないので不安です。

(2) 防犯・防災対策

- ・緊急時になったときに何の連絡もないのは？近くに地域包括センターがあるのに何の役にも立たない。
- ・災害時避難場所に椅子やベッドがないので避難できず自宅で過ごすしかありません。

(3) 外出・コミュニケーション支援

- ・自立できるか不安、お金やゴミの分別がわからない。休みの日に楽しめる場所を増やしてほしい。(ゲームやスポーツ)
- ・今は車で病院、買い物、遊び行ったり、出来なくなったら困る。
- ・バスよりも細かく走るルートタクシー。安価で。障がい者に対してのタクシー券などがあると良い。送迎などがあるのは少々知っているが、もっとカンタンに気軽に乗れるようなものがほしい。せめて郡山市内。バスだと郡山駅で乗りかえになるので不便。(たとえば富久山町→安積町。バスでも電車でも乗りかえ。富久山町→並木。1度駅に行って遠まわりなど)
- ・高齢者による難聴にて言葉が聞き取りにくいので、特に電話が苦手で困っております。相手の言葉が文字になる携帯電話のような物があればありがたい。
- ・障害者用駐車場が少ない。表示のない車が止めてあり止められない。段差や階段が多く買い物しにくい。送迎サービスがないと出かけられない。
- ・障がい者が買い物をしたり、習い事をしたりスポーツなどの楽しみをもっと沢山ある社会になってほしいです。今は小さな社会の中にいると思います。
- ・現在はコロナ禍により、外泊、外出等は困難な状況にありますが、外泊、外出等が定期的に行っていた頃に思った事は、外泊して自宅で介助するときに、入浴介助や移動支援等が利用できるサービスがあれば、もう少し家族負担が軽減でき、自宅に帰れる回数も増やせるのにと考えていました。娘は全介助ですが、できるだけ福祉サービスを利用しながら外泊させて家族交流を図っていきたいので、一時的な外泊時等に利用できるサービスの情報を知りたいです。(重度訪問介護を公費の福祉サービスを利用しているが、情報が少ない)
- ・自宅まで来てくれるバスなどあればいい。予算は安く。バリアフリーでないと乗れない。パニマル新築したのはいいが、目の見えない人は動けない。点字ブロック？がないのである。教育も分けないで出来ないのか？(健常者と)
- ・手話通訳者必要。

- ・現在、特別支援学校に通っています。中学校まではスクールバスがあり、それを利用していただいておりますが、高等部からはスクールバスがなくなり、自力通学か自送迎になることに不安を感じています。立地的に家からも遠く、冬場に雪など降れば更に時間が掛かる道程です。朝早くから仕事をしていたり、障がいを持つ子供の他に下に小さい弟妹がいるお家で自力通学が出来ない子たちはどのようにして学校に行けと言うのでしょうか？自力通学が出来ない子達の為に、スクールバスの運行や移動支援の充実を図っていただきたいと思っております。

8 障害者施策推進体制

(1) 障がい者の権利擁護

- ・地域（町の）民生委員の訪問を受けたことは一度もない。高齢者の訪問などを定期的にして実態を把握することが民生委員の務めではないか？
- ・障がい者への差別をなくしてほしい。働く職場への配慮。経済的支援（精神障がい者も）

(2) 障害者施策推進体制の整備

- ・相談員の紹介。自営業（フリーランス）しか、仕事ができない。支援金。国のバックアップ、市の困りごと相談では解決しない。マイナスな結果。
- ・何十年も苦しんでいても、何も解決できない今日です。軽度から重度まで障がいの生活をもっと真剣に考えてくださいますか。このアンケートで何がわかりますか？用紙とか？パンフレットにお金をかけないで、もっと困っている人がいることは、どこまで分かっていますか。お役人の仕事ですよね。
- ・子供に頼れなくなった時代、将来障がいを持って、年老いていくことはとても不安に感じます。安い金額で施設に個人を尊重して頂ける場所があることを望みます。
- ・経済的な不安がない生活を送りたい。
- ・介護をする家族のことも考えてほしいです。相談できるところとか？例えば自分で介護してOKでも生活のため仕事を自分はバリバリしたくても、会社でいやがられてやめてしまい、困ってしまったり。やっていない（介護）を人には分かりません。社員ばかり休みを取れたりパートでももっと何かあればいいと思います。
- ・自分の人生に障がいは関係ないと思っていましたが、息子ふたりと夫が自閉症スペクトラム障がいです。毎日いっぱい입니다。6才の息子はこだわりが強く対応が難しいです。夫は物事を幅広く考える事が苦手で、夫と夫の母の間ではやりとりが上手にできません。夫の母も発達障がいがあると思います。私自身、余裕がないとイライラしてまいります。上の息子の日中一時支援やショートステイを利用したいのですが、施設から連絡がない状態です。受け入れが難しいようです。障がい児、障がい者、その家族が少しでも安心、安定して過ごせる障がい福祉である事を希望します。

- ・17才の娘（知的障がい）を持つ親だが、来年の就労に向けて、学校、入所施設と連携しているが、市からは全く何もない。こちらからアポイントしないと何もしないのが行政なのか。そうならそうと通知でもしてほしい。色々やっているようだが、何も知らない。無駄な税金だと思う。民間的な周知の仕方を学ぶべきかと思う。ただやっているだけと見えてしまう。
- ・親亡き後も、安心して、障がいのある人が生活していける様、経済面や住宅が整っていたらいいと思います。日々考える事は、子供が生活していけるかだけです。
- ・障がい者の教育、就労機会の充実と条件の向上により、自立した生活が成立することを希望します。
- ・本人と介護者二人だけの生活の為、本人は家から出る事は1人では出る事もできず、電話、メールなど何もできなくなっている為、介護者が倒れたりした時連絡も取れず、食事も何もできなくなるので本人よりも介護していて不安になります。寒くてもエアコンもストーブもつける事もできません。

9 その他

- ・私は特に今の所、不便に思う事がない状態ではありますが、年齢を増していくうちに、（重い障がいが残る）再発する可能性が高くなるようで、不安ではあります。重い障がいを抱えている方々が、少しでも生きやすい世の中、お世話する方も、なるべく負担のない世の中を願います。
- ・私は難病認定を受けていましたが、21年前位に障がい福祉課の受付で切られました。対応をした男性今でもはっきりと覚えています。
- ・この調査票によって様々な障がい、福祉サービス、支援制度があることが分かりました。ありがとうございます。
- ・障がいの程度によっても個人の考えは変わりますが、辛いこと苦しいことは必ず持っているもので、それをどうか拾ってほしいと思います。また社会復帰が出来そうなので、頑張るつもりでいるところです。
- ・身のまわりの事ができても一人では買い物も出かける事もできません。療育手帳はBです。不満です。
- ・コロナ等ですぐに治療出来るのか分からない。現在は家族だけで生活が出来ている。
- ・86才になったらぐっと体力がなくなりまして、これからどうなるのか本当に心配です。今、この頃は子供は絶対に親の面倒を見ない時代になって今まで自分の子供の事で苦労して来たのは何だったのでしょうかね。この思いの親は世の中にいっぱいいるとの事、どうしたらよいのでしょうか。すぐに老人ホームに入れとは、まったく悲しいかぎりですネ！！この先孤独死しかないと夜もねむれませんネ！！
- ・父母の高齢化と自立。

- ・私は63才です。今年の3月で退職をしました。25年間務めてきました。私にも悪いところがあったんだろうなとは思いますが、自分は分かりません。息子が亡くなってから、本当に最初だけでした。一番仲の良い人に聞きたいです。私が何をしたのか、私は知りたいです。傷つけてしまったのなら、謝りたいです。ごめんなさい。体調が悪くなると沢山のの人に迷惑をかけてしまった事が心残りです。仕事を辞めて、私のために車イスとかにも乗せて頂きありがとうございました。書ききれないので、とにかく、今まで、仕事仲間の皆さん、迷惑かけて、仕事も忙しいのに本当にありがとうございました。
- ・私は障がい者でも軽い方なので、今の所特に困った事は無いが、家族の者が元気で無くなった時にどうなるのか？先の事はわからない。

(1) 窓口・手続き関係

- ・手続き等の簡略化を進めて欲しい。(思う様に自分で動く事もできない方も多く、家族に負担をかけてしまう為)
- ・いろいろな届出、申請をする際①素人には分かりにくい専門用語が多い②届出、申請は本人の自筆のみを必須とし、その他は代筆を可能としてもらいたい③殆どの場合、結果が出る迄に日数がかかり過ぎる。一般民間並みのスピーディーさを要望する。
- ・介護する人も高齢となる為、色々な手続きを簡素化と分かりやすい説明をしてほしいと思います。添付する書類が多すぎると思います。
- ・受給者証を受ける為、年に一度更新手続きをしますが、いろいろな書類を用意しなくてはならず、毎年負担を感じています。仕方ないと思うのですが、何とか簡素化できないものでしょうか。マイナンバー制度も導入されたのだし、高齢者はずい分助かると思います。
- ・「特別児童扶養手当」等の更新のお知らせが2ヶ月前にしかこないですが、療育センターでの診察の予約がいつもいっぱいになかなか取れず、申請期間に間に合わせるのが大変です。働いているとなかなか希望通りにいきません。もっと余裕をもって申請できるよう、半年ぐらい前からお知らせいただけるといいなと思います。
- ・コロナ禍で施設での面会もなかなかできず、身体的にも認知症の面でも申請をすれば等級が上がると思うが、手続きもめんどろで何を申請すれば本人(障がい者)に良いのかも良くわからない。別々ではなく(身体、知的、介護)一括で相談にのってくれる窓口があれば良いと思います。
- ・災害になった際、避難場所の行き先がスムーズに分かるツールが欲しいです。特児などの書類提出が必要な時、医療診療申請がある時、予約の関係お医者さんの診断書記載が最低でも2週間かかりますので、いつも提出期限がギリギリになるので、せめてあと1ヶ月長くなるとありがたいです。診療予約がなかなか取れにくいです。
- ・特定疾患の更新の書類がこないで、更新していませんが、どうしたらいいのでしょうか？
- ・障害者年金継続の簡素化。市の窓口に行くことが出来ず郵送での手続きが出来ればと思っています。障害者年金を受け取ることはできないのでしょうか。
- ・毎年福祉サービスの申請書の書類が多く、見本があるものの統一されていない為困惑する。兄妹で利用している為、量が多い。(ネット等でお願したい)

10 特にない（※感謝の言葉など含める）

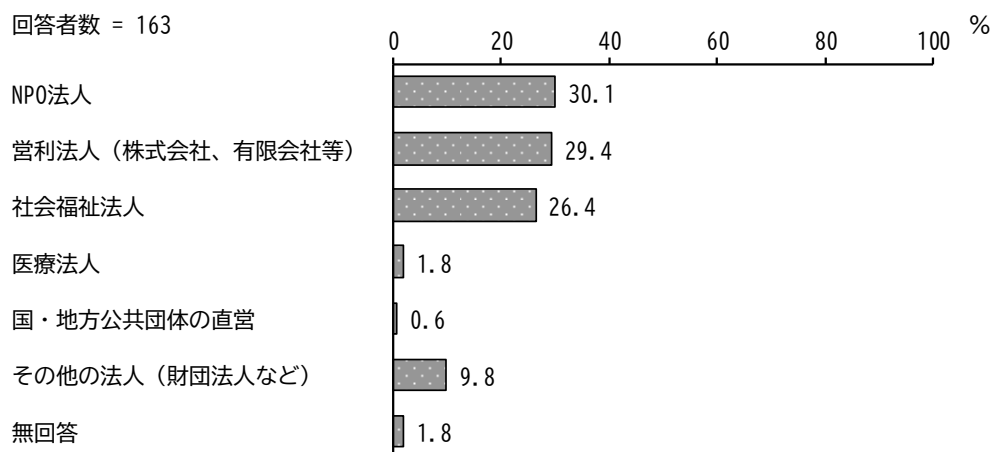
- ・ 特にありません。
- ・ 現在のままで良いと思います。
- ・ 特に今はございません。身体が悪化したりした時はどうするか、認知機能などを考えますと不安で一杯です。いろいろとありがとうございます。よろしくお願い致します。
- ・ 日頃から福祉業務に努力されている方に心から感謝です。
- ・ 宜しくお願いします。
- ・ 現在の所は幸せです。
- ・ 郡山市保健福祉部障がい福祉課の皆様、日々の業務おつかれさまです。皆様の尽力に感謝しております。
- ・ ご担当の方々におかれましては種々ご苦労があるかとは存じますが、今後とも宜しくお願い致します。
- ・ 常日頃から、障がい福祉課の皆さんには大変お世話になっております。郡山氏は大好きな町です。少しでも郡山に貢献できるよう過ごしていきたいと思ひます。
- ・ 常日頃、障がい者に対する福祉行政サービスをを厚く行なって下さり感謝申し上げます。今後共キメ細やかな行政サービスの充実にご協力下さいますようお願い申し上げます。

2 事業所調査

(1) 事業所の運営状況について

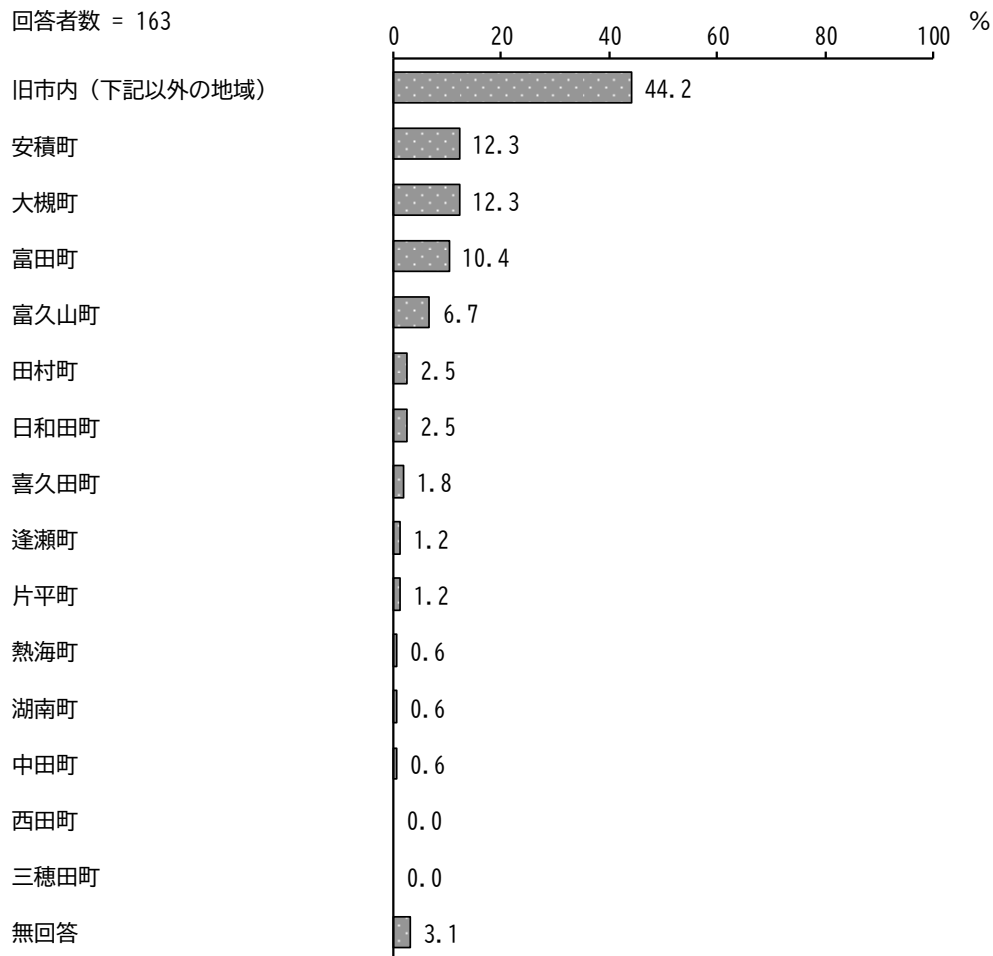
問1 貴事業所の運営主体は、次のうちどれですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「NPO法人」の割合が30.1%と最も高く、次いで「営利法人（株式会社、有限会社等）」の割合が29.4%、「社会福祉法人」の割合が26.4%となっています。



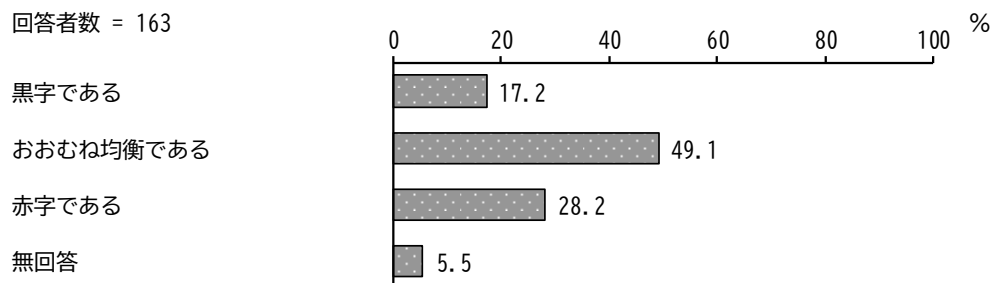
問2 貴事業所の所在地はどこですか。

「旧市内（下記以外の地域）」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「安積町」、「大槻町」の割合が 12.3%となっています。



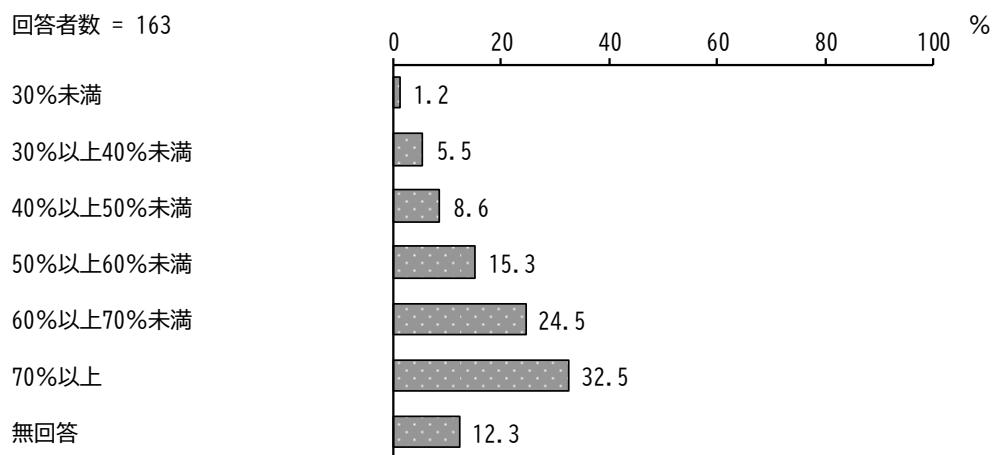
問3 現在の事業所の年間収支状況は、次のうちどれですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「おおむね均衡である」の割合が49.1%と最も高く、次いで「赤字である」の割合が28.2%、「黒字である」の割合が17.2%となっています。



問4 事業支出における人件費の割合は、次のうちどれですか

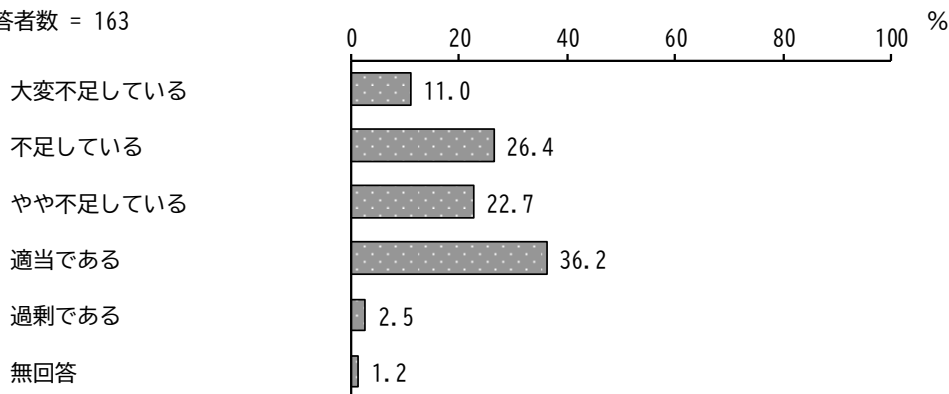
「70%以上」の割合が32.5%と最も高く、次いで「60%以上70%未満」の割合が24.5%、「50%以上60%未満」の割合が15.3%となっています。



問8 現在の職員の過不足は、次のうちどれですか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「適当である」の割合が36.2%と最も高く、次いで「不足している」の割合が26.4%、「やや不足している」の割合が22.7%となっています。

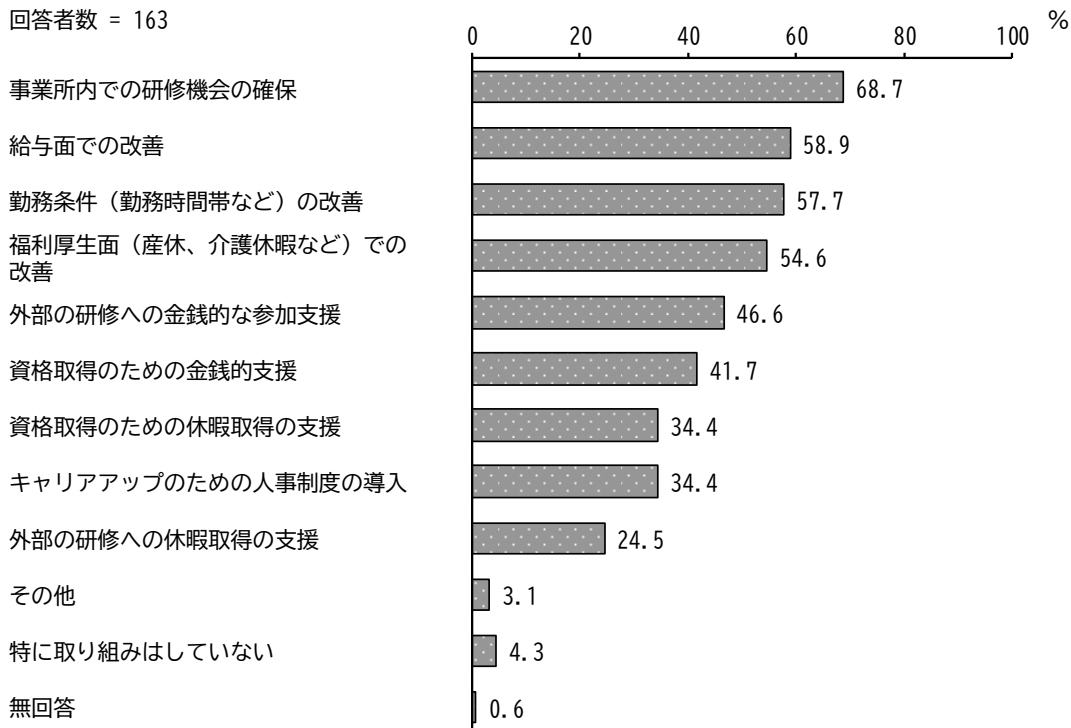
回答者数 = 163



問9 職員定着のために行っている取組は何ですか
(あてはまるものすべてに○をつけてください)

「事業所内での研修機会の確保」の割合が68.7%と最も高く、次いで「給与面での改善」の割合が58.9%、「勤務条件（勤務時間帯など）の改善」の割合が57.7%となっています。

回答者数 = 163



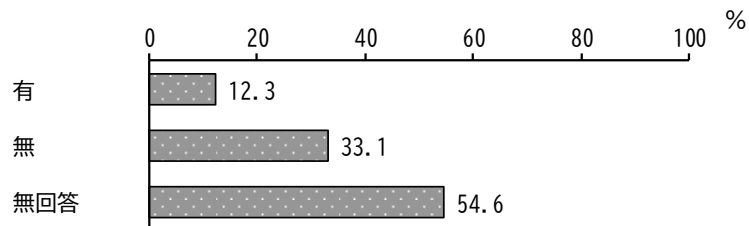
問 10 次に掲げるサービスそれぞれについて、現在、貴事業所が提供している場合は①提供の有無に○を付けて、②実利用者数（令和3年度）と③うち郡山市援護者数を記入し、④新規利用者の受入が可能であったかどうかを当てはまるものに○をつけてください

1 居宅介護

①提供の有無

「有」の割合が 12.3%、「無」の割合が 33.1%となっています。

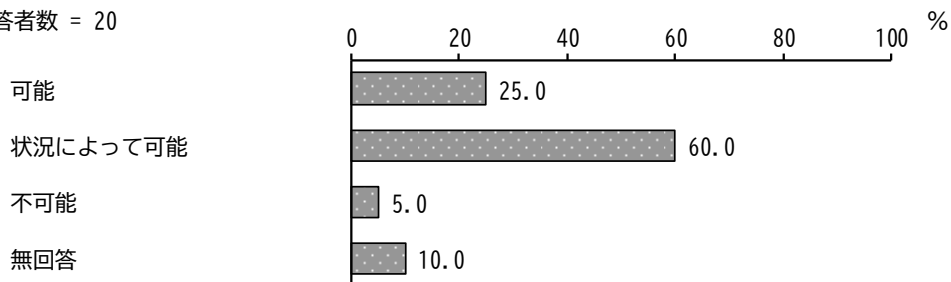
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「可能」の割合が 25.0%となっています。

回答者数 = 20

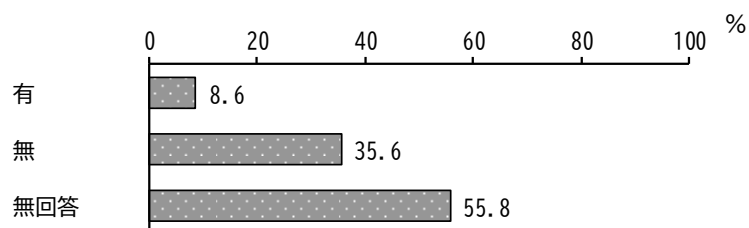


2 重度訪問介護

①提供の有無

「有」の割合が8.6%、「無」の割合が35.6%となっています。

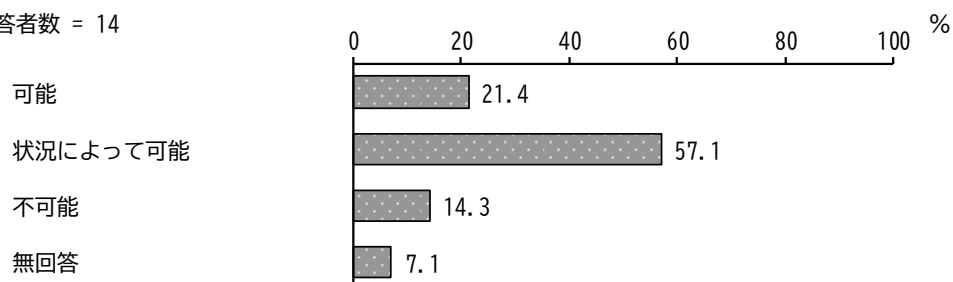
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」の割合が57.1%と最も高く、次いで「可能」の割合が21.4%、「不可能」の割合が14.3%となっています。

回答者数 = 14

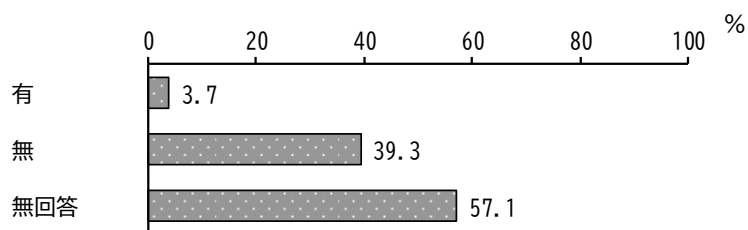


3 同行援護

①提供の有無

「有」の割合が3.7%、「無」の割合が39.3%となっています。

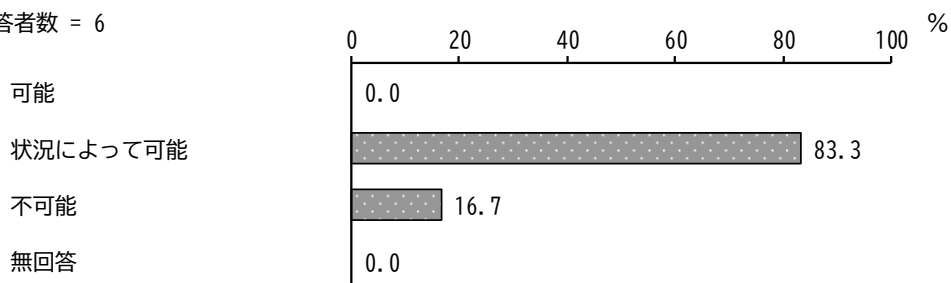
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」が5件となっています。「不可能」が1件となっています。

回答者数 = 6

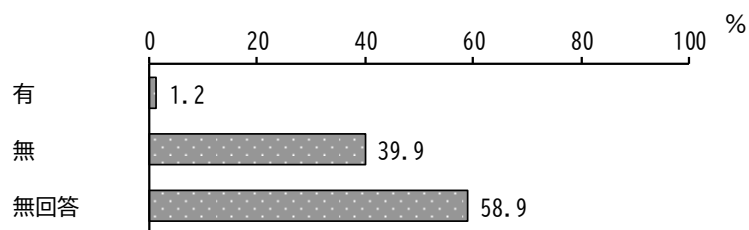


4 行動援護

①提供の有無

「有」の割合が1.2%、「無」の割合が39.9%となっています。

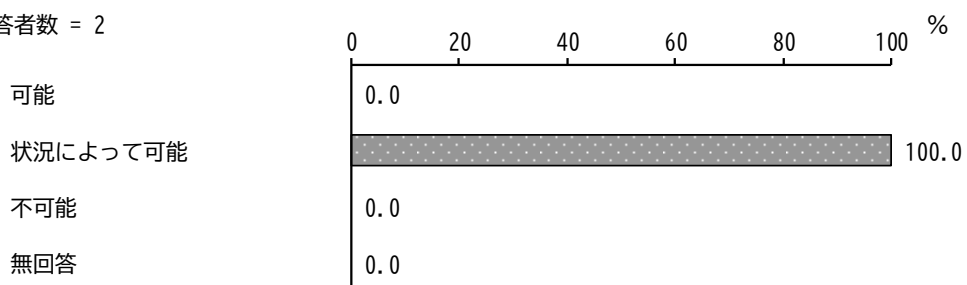
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」が2件となっています。

回答者数 = 2

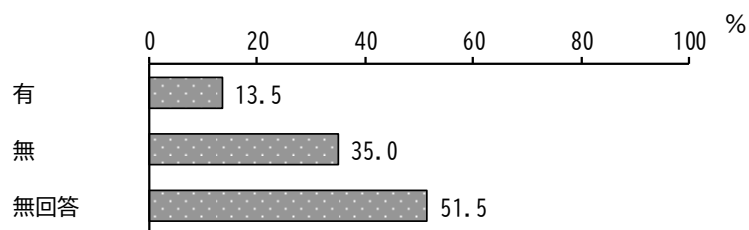


5 生活介護

①提供の有無

「有」の割合が13.5%、「無」の割合が35.0%となっています。

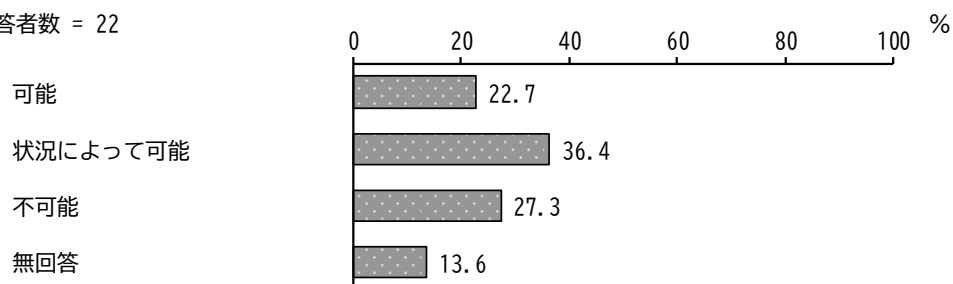
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」の割合が36.4%と最も高く、次いで「不可能」の割合が27.3%、「可能」の割合が22.7%となっています。

回答者数 = 22

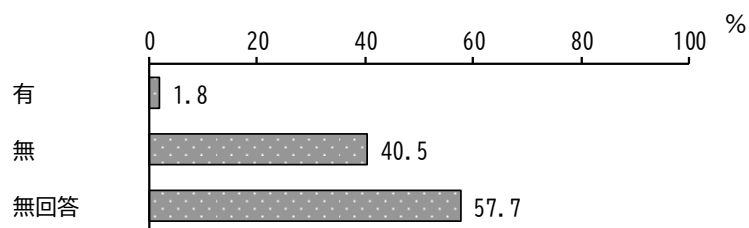


6 施設入所支援

①提供の有無

「有」の割合が1.8%、「無」の割合が40.5%となっています。

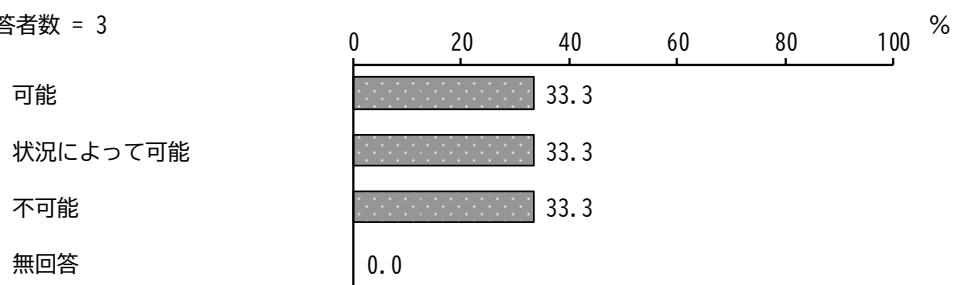
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」、「状況によって可能」、「不可能」が1件となっています。

回答者数 = 3

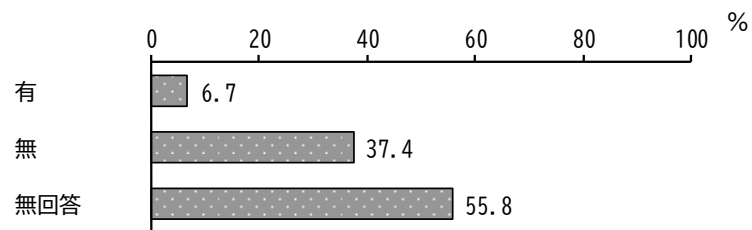


7 短期入所（ショートステイ）

①提供の有無

「有」の割合が6.7%、「無」の割合が37.4%となっています。

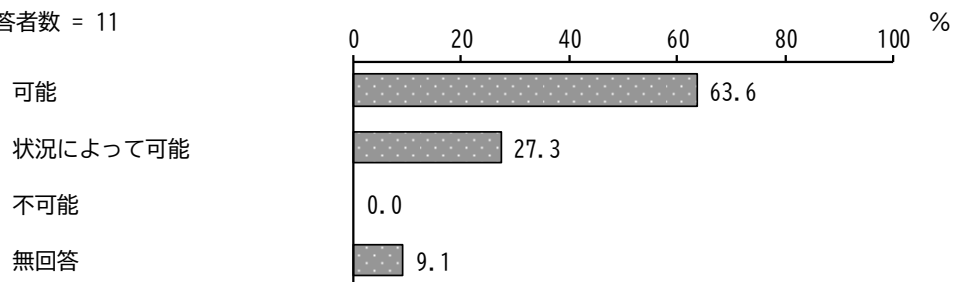
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」の割合が63.6%と最も高く、次いで「状況によって可能」の割合が27.3%となっています。

回答者数 = 11

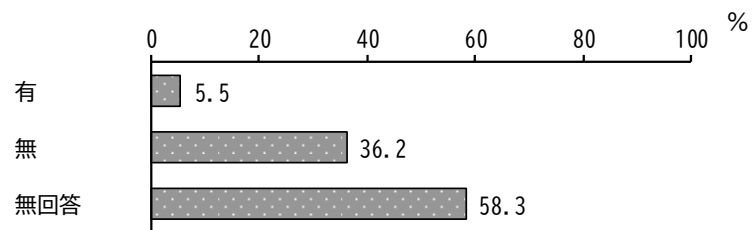


8 自立訓練（生活訓練）

①提供の有無

「有」の割合が5.5%、「無」の割合が36.2%となっています。

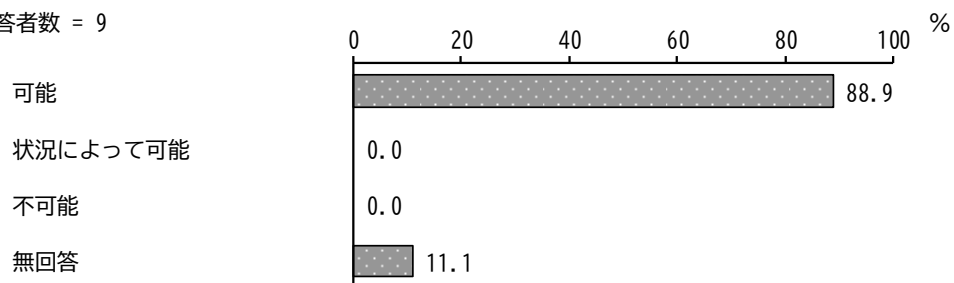
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」が8件となっています。

回答者数 = 9

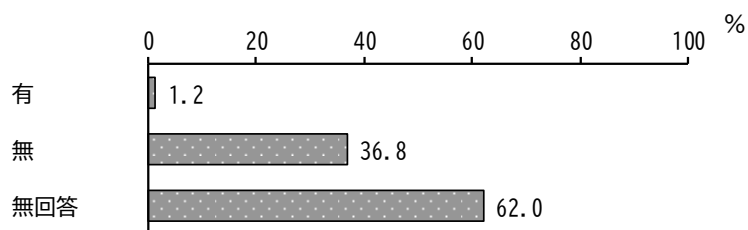


9 宿泊型自立訓練

①提供の有無

「有」の割合が1.2%、「無」の割合が36.8%となっています。

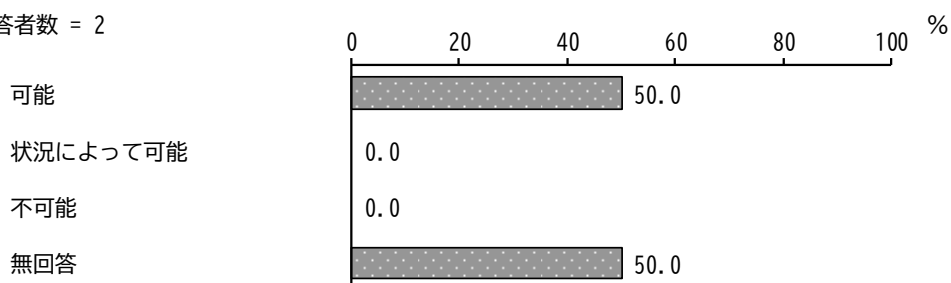
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」が1件となっています。

回答者数 = 2

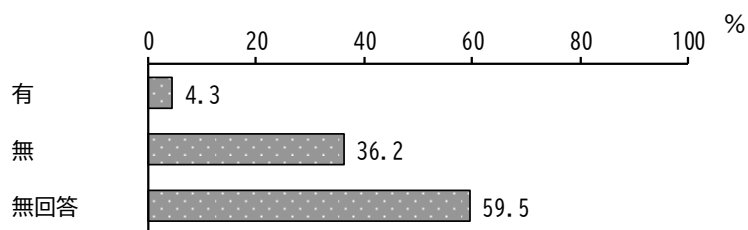


10 就労移行支援

①提供の有無

「有」の割合が4.3%、「無」の割合が36.2%となっています。

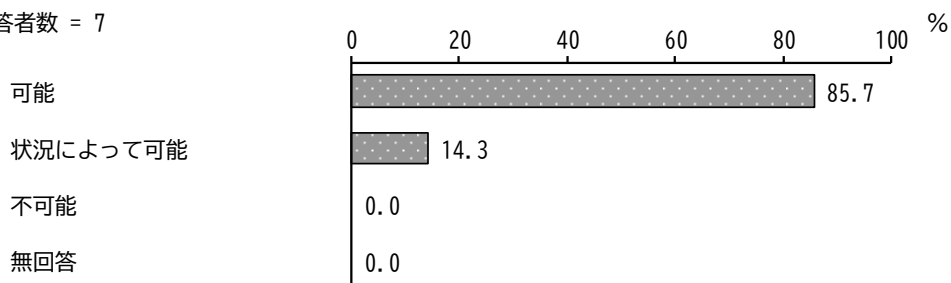
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」が6件となっています。「状況によって可能」が1件となっています。

回答者数 = 7

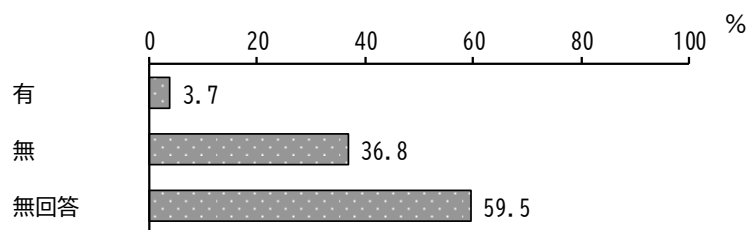


11 就労継続支援 A 型

①提供の有無

「有」の割合が3.7%、「無」の割合が36.8%となっています。

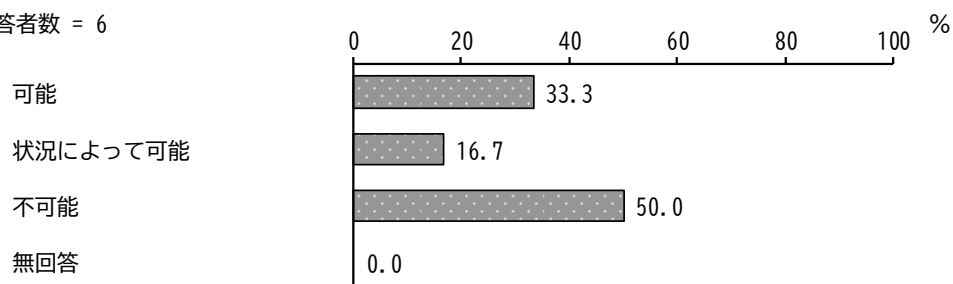
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「不可能」が3件となっています。「可能」が2件、「状況によって可能」が1件となっています。

回答者数 = 6

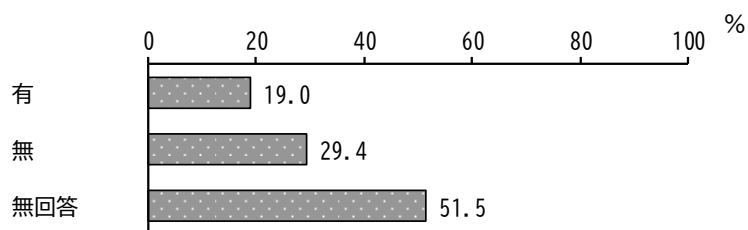


12 就労継続支援B型

①提供の有無

「有」の割合が19.0%、「無」の割合が29.4%となっています。

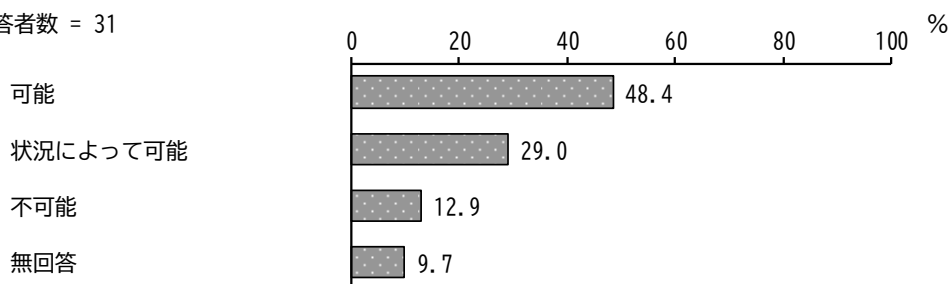
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」の割合が48.4%と最も高く、次いで「状況によって可能」の割合が29.0%、「不可能」の割合が12.9%となっています。

回答者数 = 31

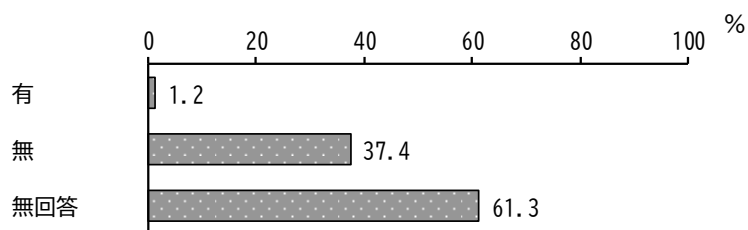


13 自立生活援助

①提供の有無

「有」の割合が1.2%、「無」の割合が37.4%となっています。

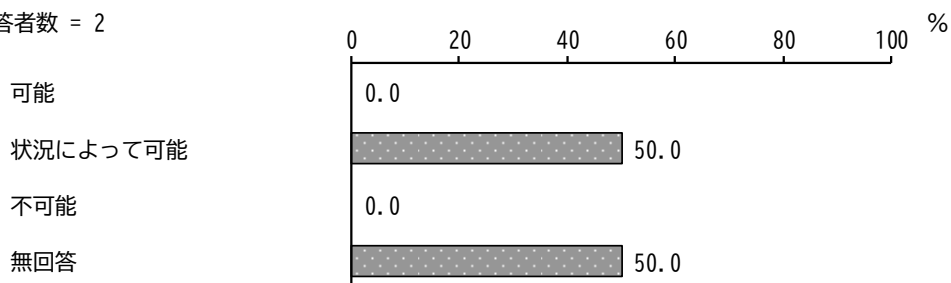
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」が1件となっています。

回答者数 = 2

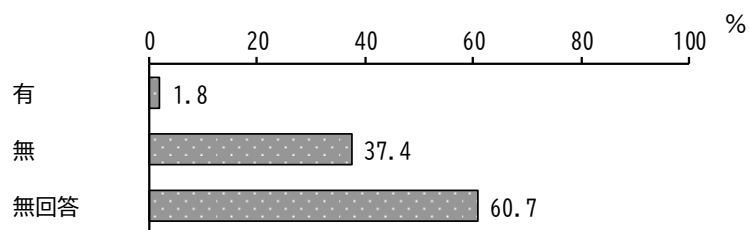


14 就労定着支援

①提供の有無

「有」の割合が1.8%、「無」の割合が37.4%となっています。

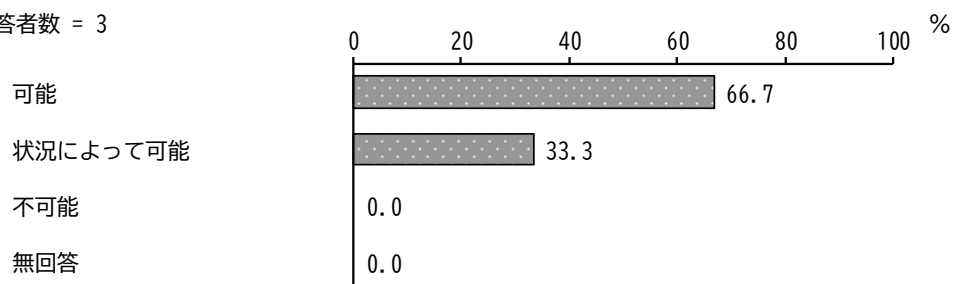
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」が2件となっています。「状況によって可能」が1件となっています。

回答者数 = 3

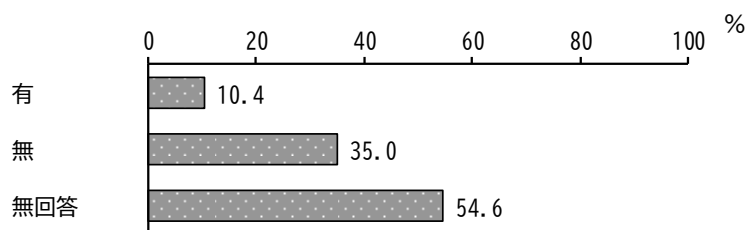


15 共同生活援助(グループホーム)

①提供の有無

「有」の割合が10.4%、「無」の割合が35.0%となっています。

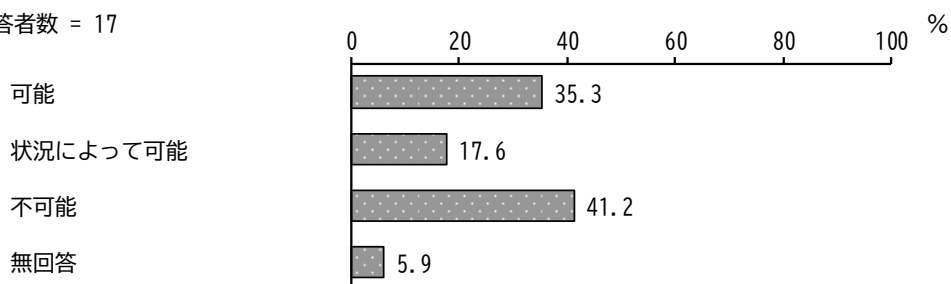
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「不可能」の割合が41.2%と最も高く、次いで「可能」の割合が35.3%、「状況によって可能」の割合が17.6%となっています。

回答者数 = 17

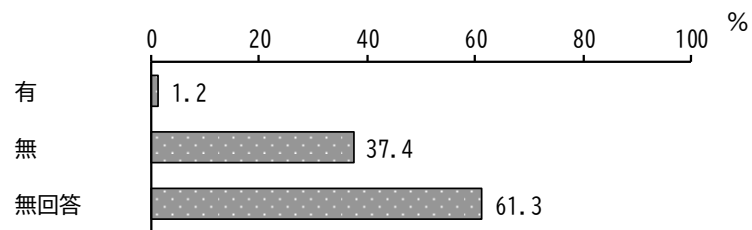


16 地域移行支援

①提供の有無

「有」の割合が1.2%、「無」の割合が37.4%となっています。

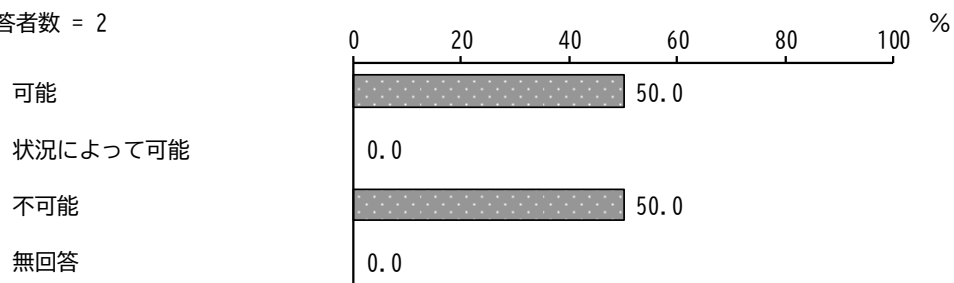
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」、「不可能」が1件となっています。

回答者数 = 2

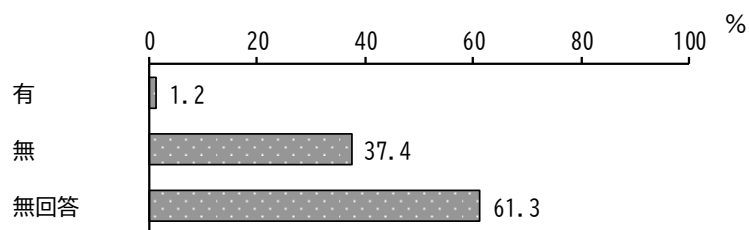


17 地域定着支援

①提供の有無

「有」の割合が1.2%、「無」の割合が37.4%となっています。

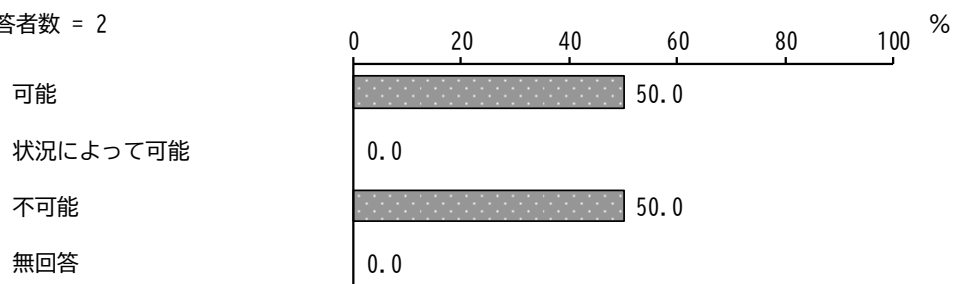
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」、「不可能」が1件となっています。

回答者数 = 2

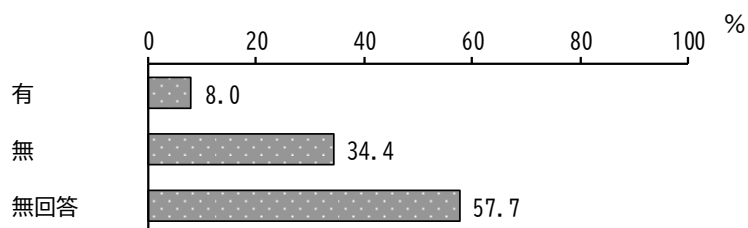


18 計画相談支援

①提供の有無

「有」の割合が8.0%、「無」の割合が34.4%となっています。

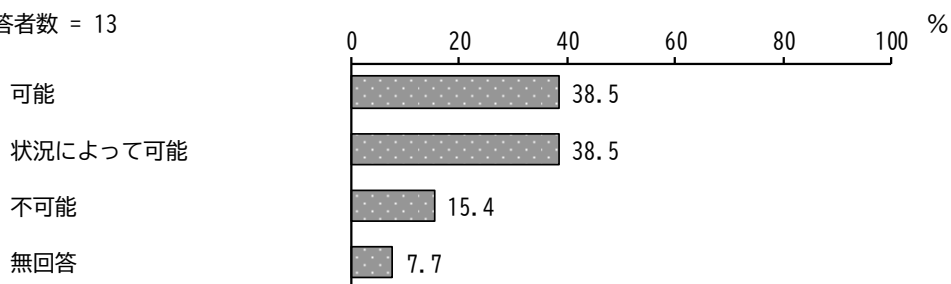
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」、「状況によって可能」の割合が38.5%と最も高く、次いで「不可能」の割合が15.4%となっています。

回答者数 = 13

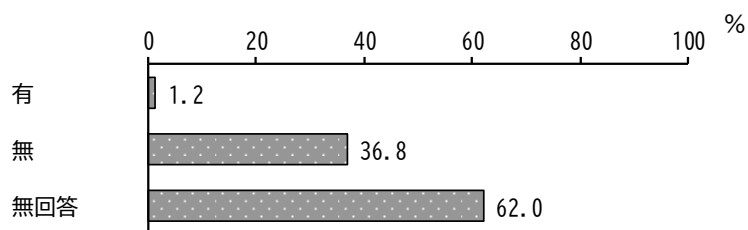


19 障がい児入所施設

①提供の有無

「有」の割合が1.2%、「無」の割合が36.8%となっています。

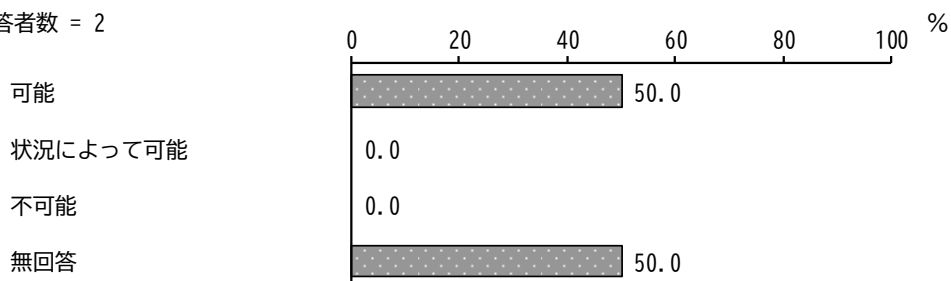
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」が1件となっています。

回答者数 = 2

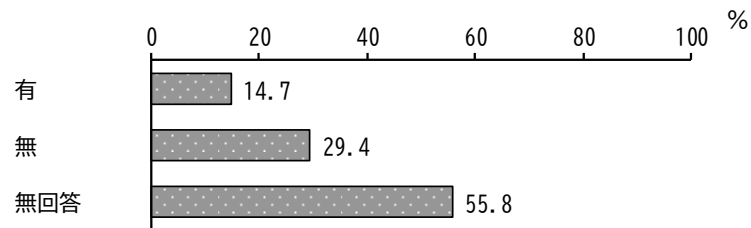


20 児童発達支援

①提供の有無

「有」の割合が14.7%、「無」の割合が29.4%となっています。

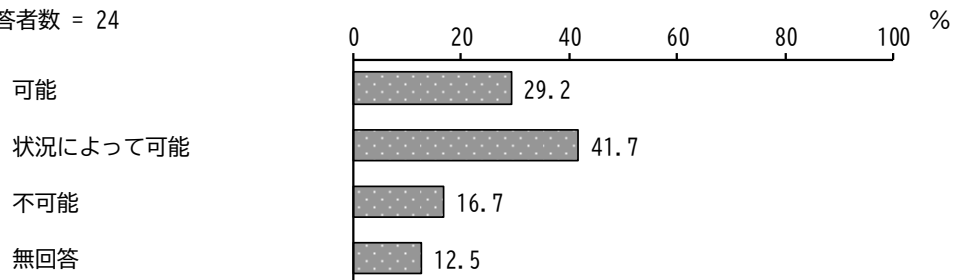
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」の割合が41.7%と最も高く、次いで「可能」の割合が29.2%、「不可能」の割合が16.7%となっています。

回答者数 = 24

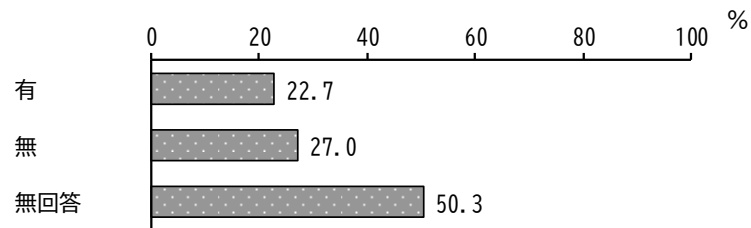


21 放課後等デイサービス

①提供の有無

「有」の割合が22.7%、「無」の割合が27.0%となっています。

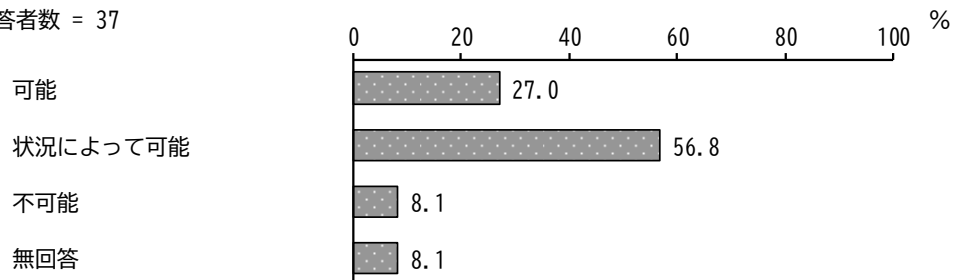
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」の割合が56.8%と最も高く、次いで「可能」の割合が27.0%となっています。

回答者数 = 37

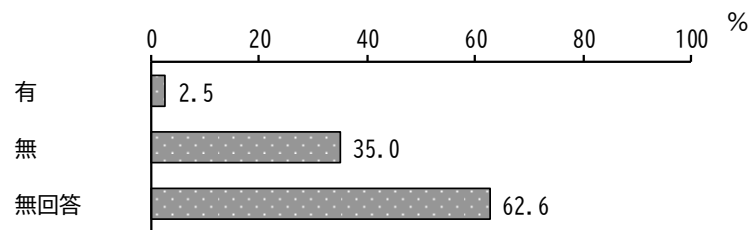


22 保育所等訪問支援

①提供の有無

「有」の割合が2.5%、「無」の割合が35.0%となっています。

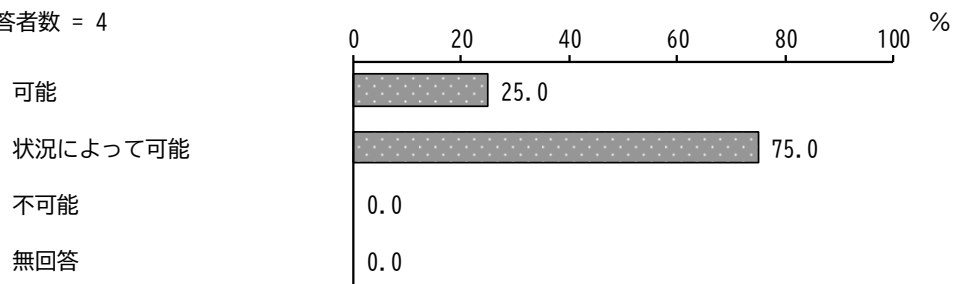
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」が3件となっています。「可能」が1件となっています。

回答者数 = 4

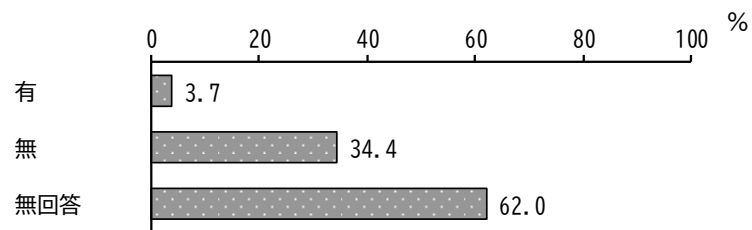


23 障がい児相談支援

①提供の有無

「有」の割合が3.7%、「無」の割合が34.4%となっています。

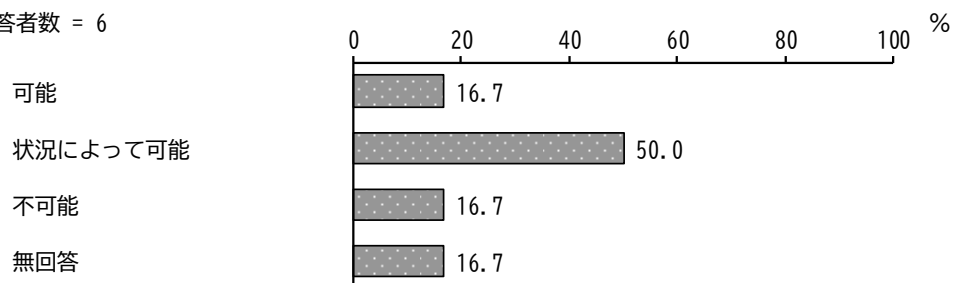
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」が3件となっています。「可能」、「不可能」が1件となっています。

回答者数 = 6

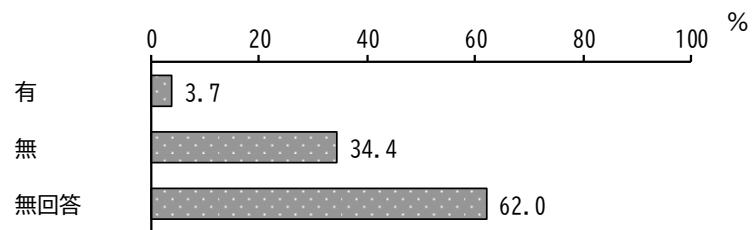


24 移動支援

①提供の有無

「有」の割合が3.7%、「無」の割合が34.4%となっています。

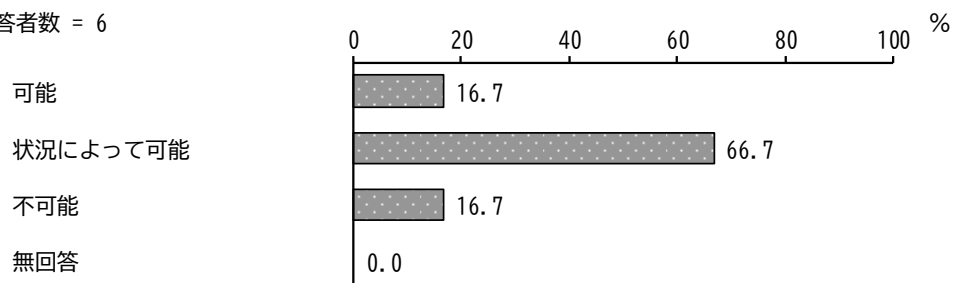
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」が4件となっています。「可能」、「不可能」が1件となっています。

回答者数 = 6

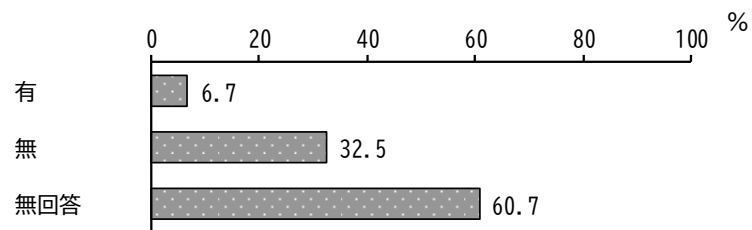


25 日中一時支援

①提供の有無

「有」の割合が6.7%、「無」の割合が32.5%となっています。

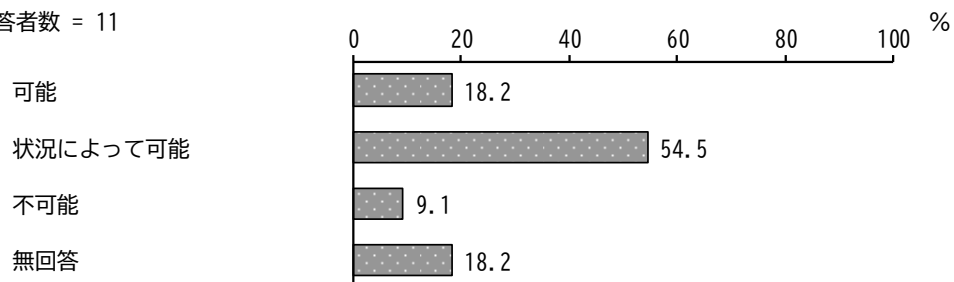
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「状況によって可能」の割合が54.5%と最も高く、次いで「可能」の割合が18.2%となっています。

回答者数 = 11

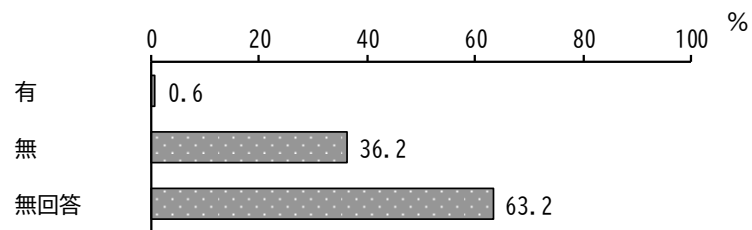


26 地域活動支援センター

①提供の有無

「有」の割合が0.6%、「無」の割合が36.2%となっています。

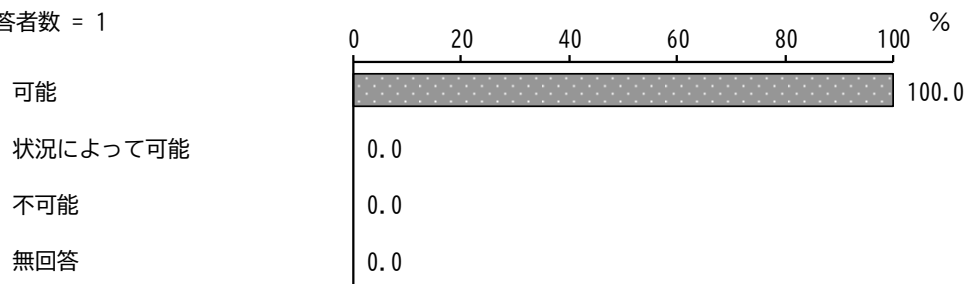
回答者数 = 163



④新規利用者の受入

「可能」が1件となっています。

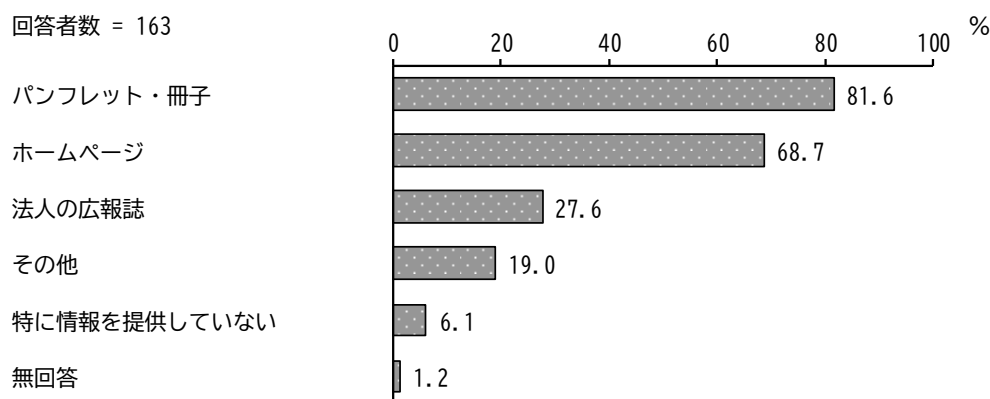
回答者数 = 1



(2) 事業展開における現状と課題について

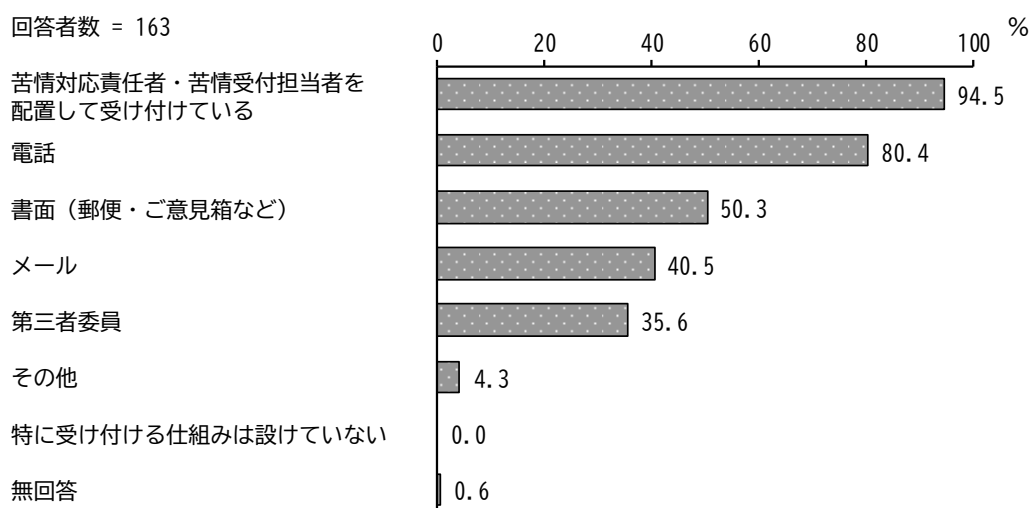
問 11 貴事業所が提供できるサービスについての情報を、利用者に対してどのような方法で提供していますか（あてはまるものすべてに○をつけてください）

「パンフレット・冊子」の割合が 81.6%と最も高く、次いで「ホームページ」の割合が 68.7%、「法人の広報誌」の割合が 27.6%となっています。



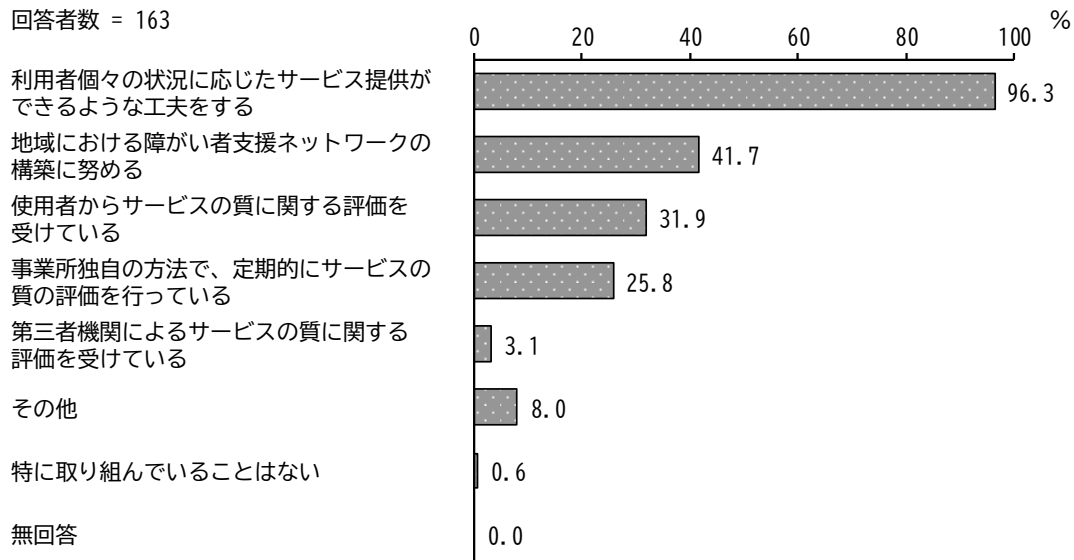
問 12 利用者の意見・苦情をどのような方法で受け付けていますか（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

「苦情対応責任者・苦情受付担当者を配置して受け付けている」の割合が 94.5%と最も高く、次いで「電話」の割合が 80.4%、「書面（郵便・ご意見箱など）」の割合が 50.3%となっています。



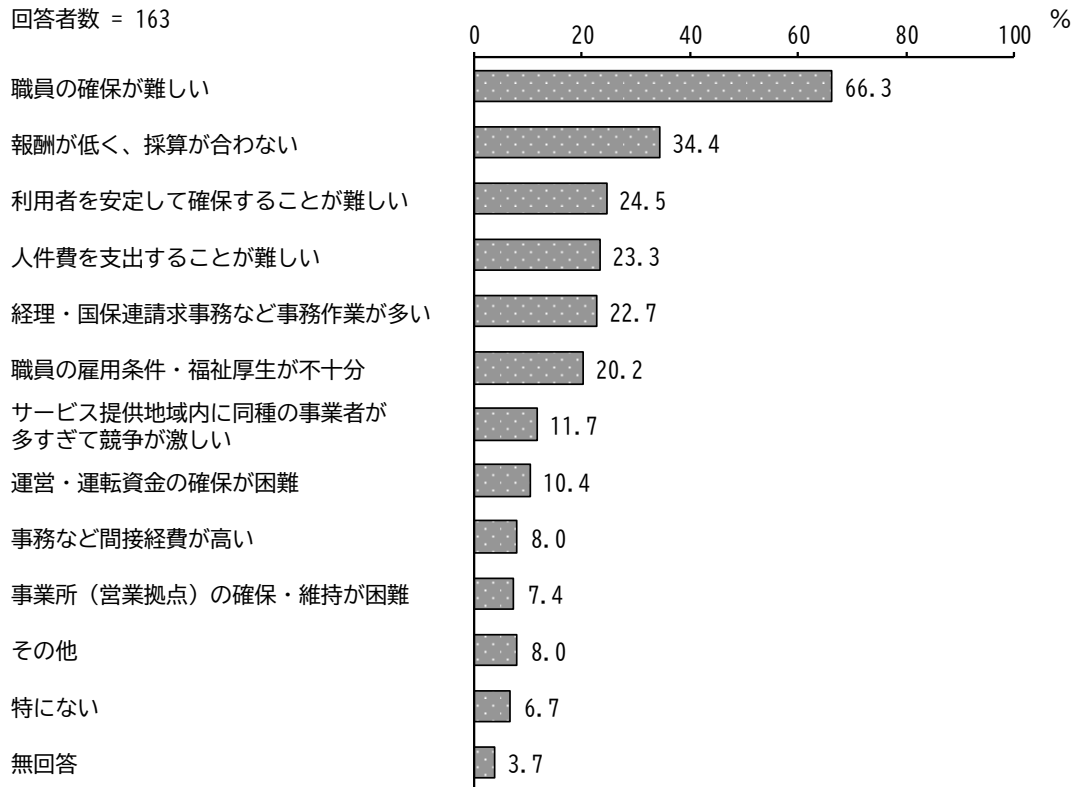
問13 貴事業所が提供するサービスの質の向上のため、どのようなことに取り組んでいますか（あてはまるものすべてに○をつけてください。）

「利用者個々の状況に応じたサービス提供ができるような工夫をする」の割合が96.3%と最も高く、次いで「地域における障がい者支援ネットワークの構築に努める」の割合が41.7%、「使用者からサービスの質に関する評価を受けている」の割合が31.9%となっています。



問 14 貴事業所が事業を展開する上での問題点・課題点がありますか
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)

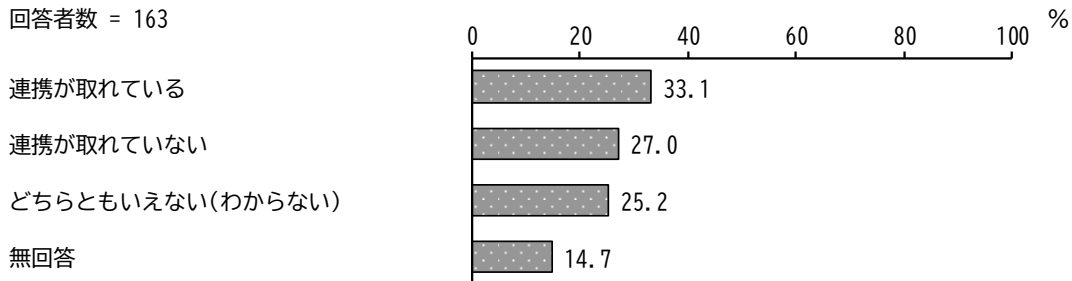
「職員の確保が難しい」の割合が 66.3%と最も高く、次いで「報酬が低く、採算が合わない」の割合が 34.4%、「利用者を安定して確保することが難しい」の割合が 24.5%となっています。



問 15 貴事業所と他の事業者や関係機関等との連絡調整や連携はとれていますか

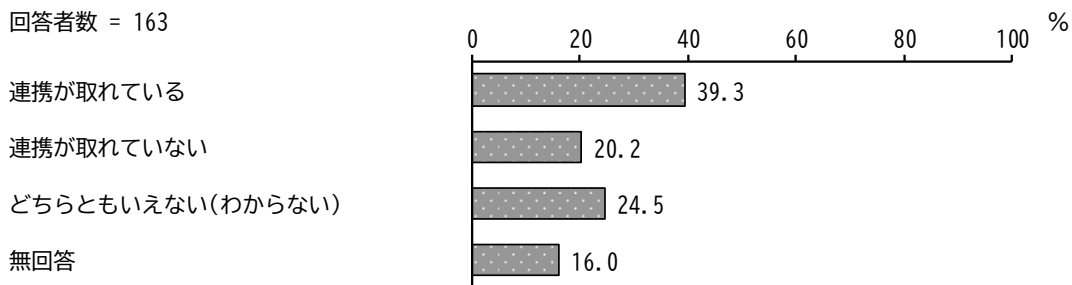
1. 居宅系サービス事業所

「連携が取れている」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「連携が取れていない」の割合が 27.0%、「どちらともいえない(わからない)」の割合が 25.2%となっています。



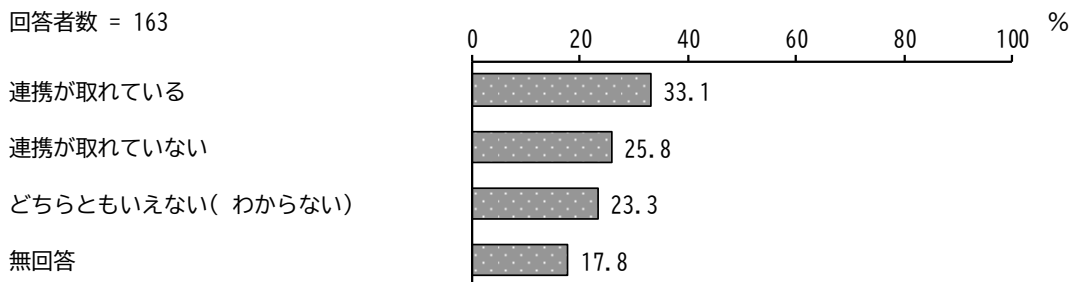
2. 通所施設（就労移行支援、地域活動支援センター等）

「連携が取れている」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「どちらともいえない(わからない)」の割合が 24.5%、「連携が取れていない」の割合が 20.2%となっています。



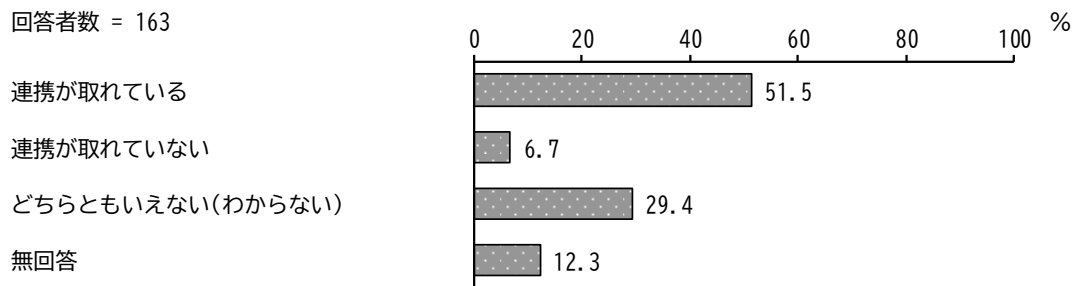
3. 入所施設（障がい者支援施設等）、短期入所施設

「連携が取れている」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「連携が取れていない」の割合が 25.8%、「どちらともいえない(わからない)」の割合が 23.3%となっています。



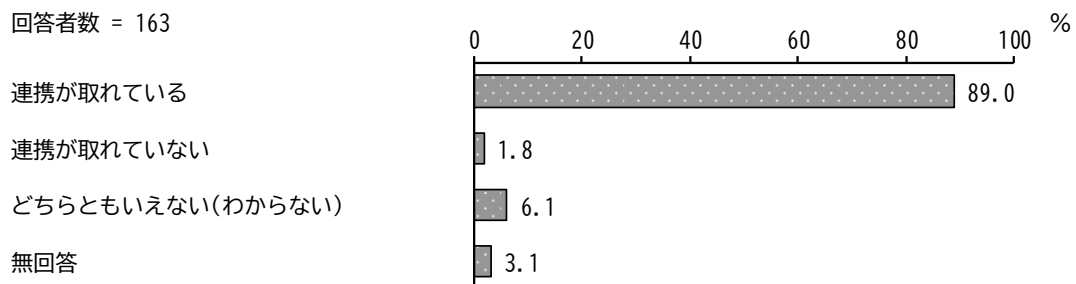
4. 障がい者基幹相談支援センター

「連携が取れている」の割合が51.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない(わからない)」の割合が29.4%となっています。



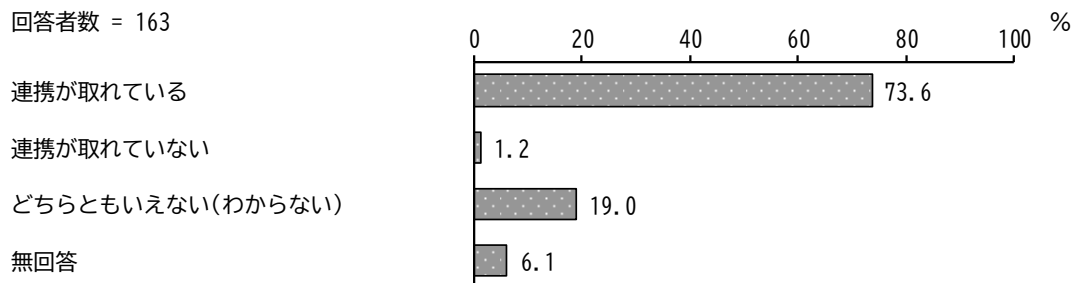
5. 相談支援事業所

「連携が取れている」の割合が89.0%と最も高くなっています。



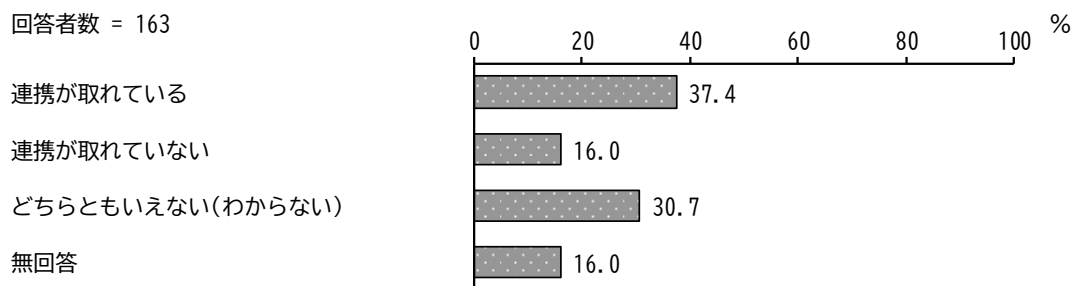
6. 市役所障がい福祉課

「連携が取れている」の割合が73.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない(わからない)」の割合が19.0%となっています。



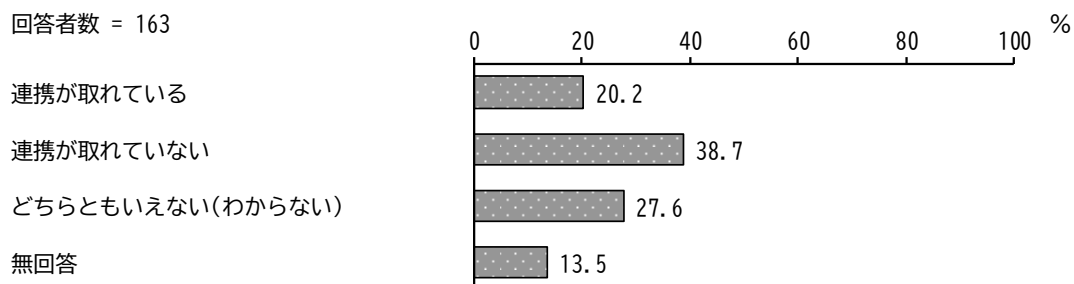
7. (市役所障がい福祉課) 以外の行政機関

「連携が取れている」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない(わからない)」の割合が 30.7%、「連携が取れていない」の割合が 16.0%となっています。



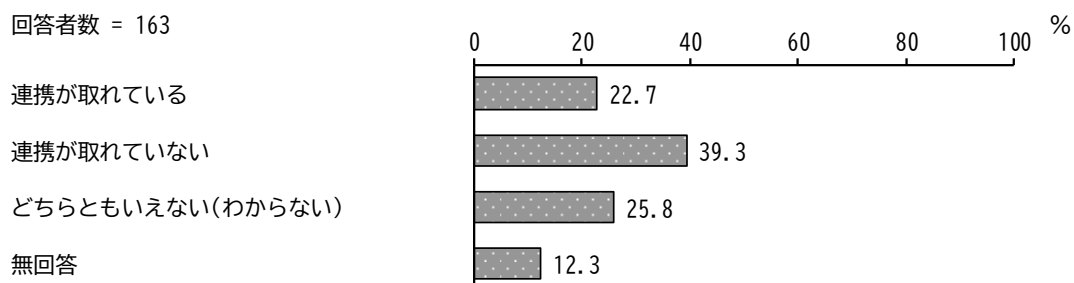
8. 地域包括支援センター

「連携が取れていない」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「どちらともいえない(わからない)」の割合が 27.6%、「連携が取れている」の割合が 20.2%となっています。



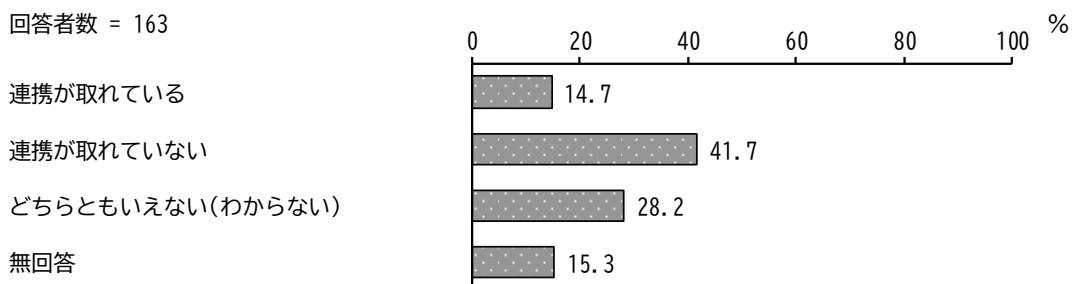
9. ケアマネージャー

「連携が取れていない」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「どちらともいえない(わからない)」の割合が 25.8%、「連携が取れている」の割合が 22.7%となっています。



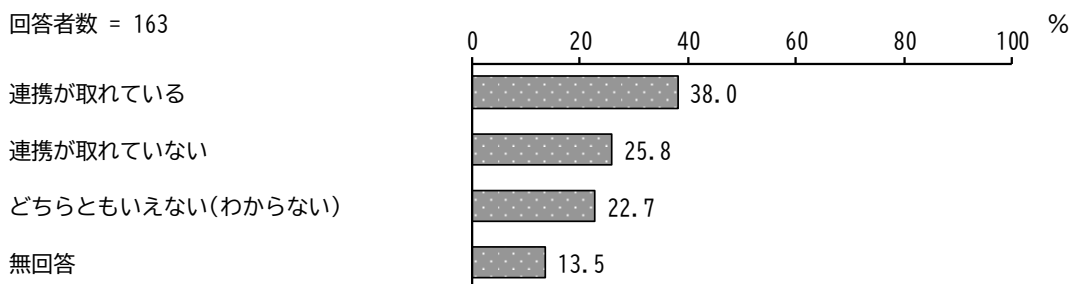
10. 介護保険のサービス事業所

「連携が取れていない」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「どちらともいえない(わからない)」の割合が 28.2%、「連携が取れている」の割合が 14.7%となっています。



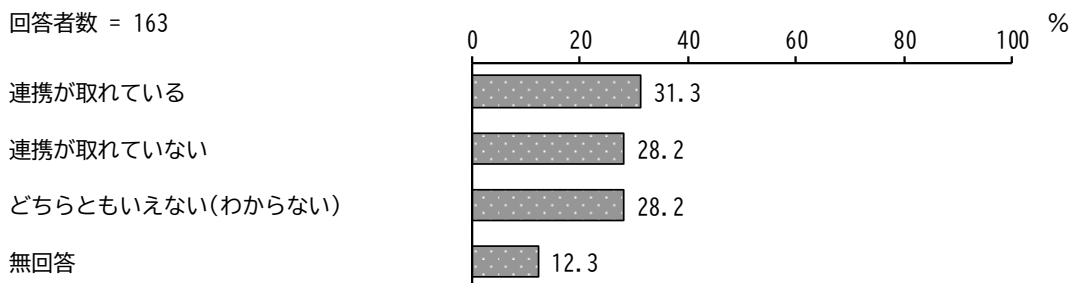
11. 訪問看護ステーション

「連携が取れている」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「連携が取れていない」の割合が 25.8%、「どちらともいえない(わからない)」の割合が 22.7%となっています。



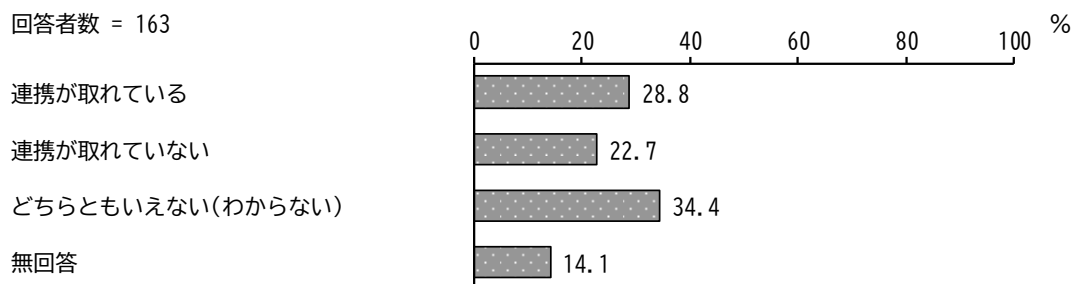
12. 利用者のかかりつけ医

「連携が取れている」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「連携が取れていない」、「どちらともいえない(わからない)」の割合が 28.2%となっています。



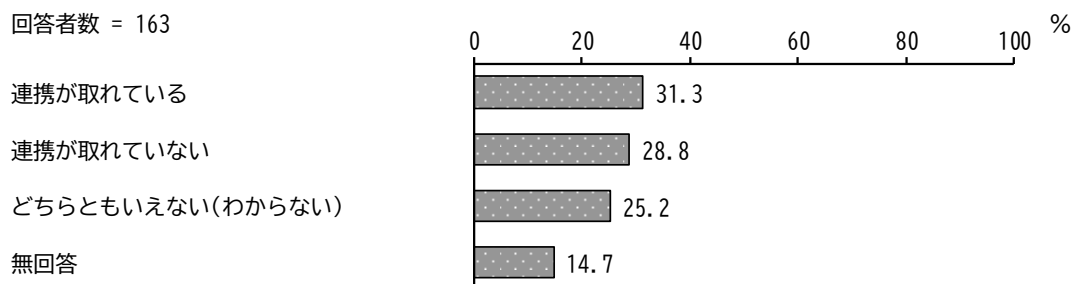
13. 教育機関（保育園、幼稚園、小・中学校、通級、学童保育クラブ等）

「どちらともいえない(わからない)」の割合が 34.4%と最も高く、次いで「連携が取れている」の割合が 28.8%、「連携が取れていない」の割合が 22.7%となっています。



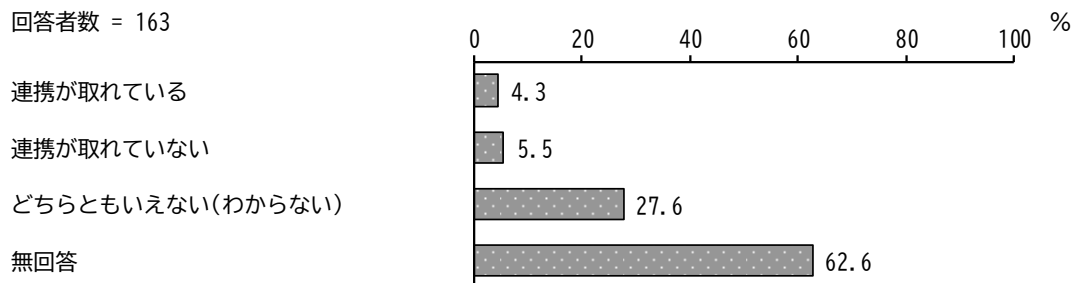
14. 利用者の後見人・補佐人・補助人

「連携が取れている」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「連携が取れていない」の割合が 28.8%、「どちらともいえない(わからない)」の割合が 25.2%となっています。



15. その他

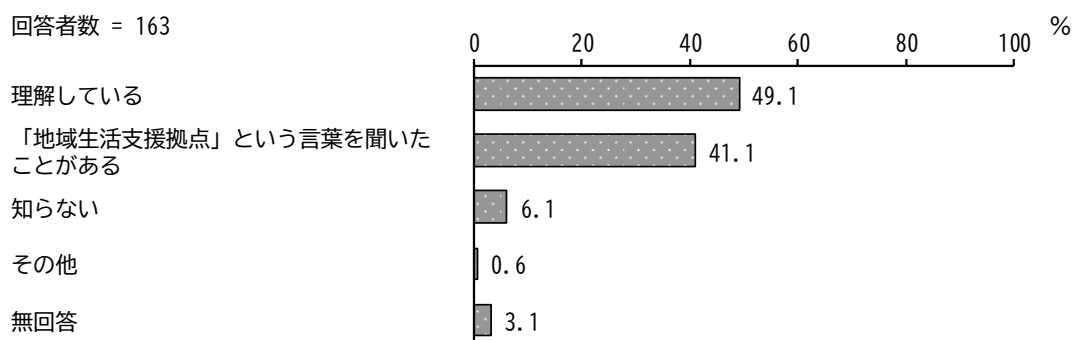
「どちらともいえない(わからない)」の割合が 27.6%と最も高くなっています。



(3) 地域生活支援への取組について

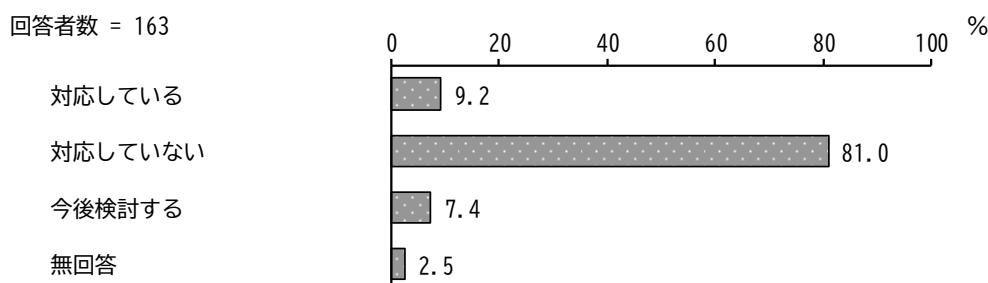
問 16 貴事業所において、「地域生活支援拠点事業」に関する理解度は、次のうちどれですか

「理解している」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「地域生活支援拠点」という言葉を聞いたことがある」の割合が 41.1%となっています。



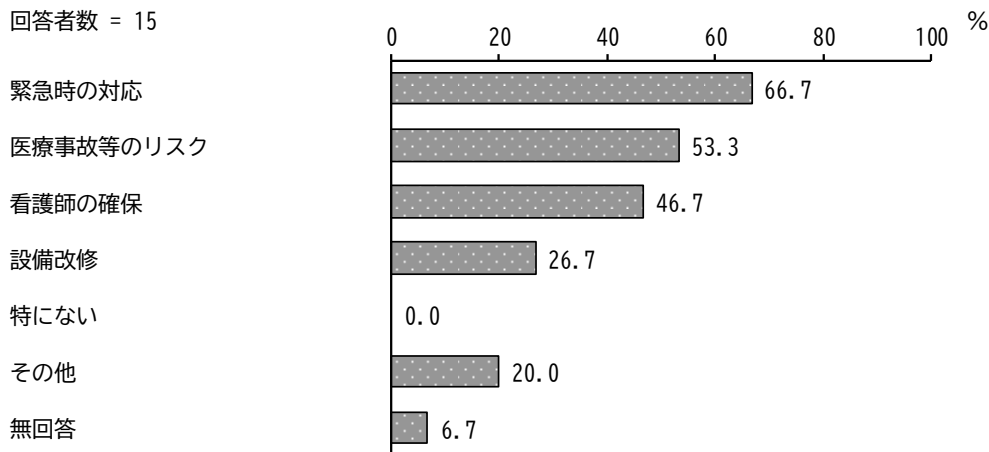
問 17 貴事業所では、「医療的ケア児・者」に対応していますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「対応していない」の割合が 81.0%と最も高くなっています。



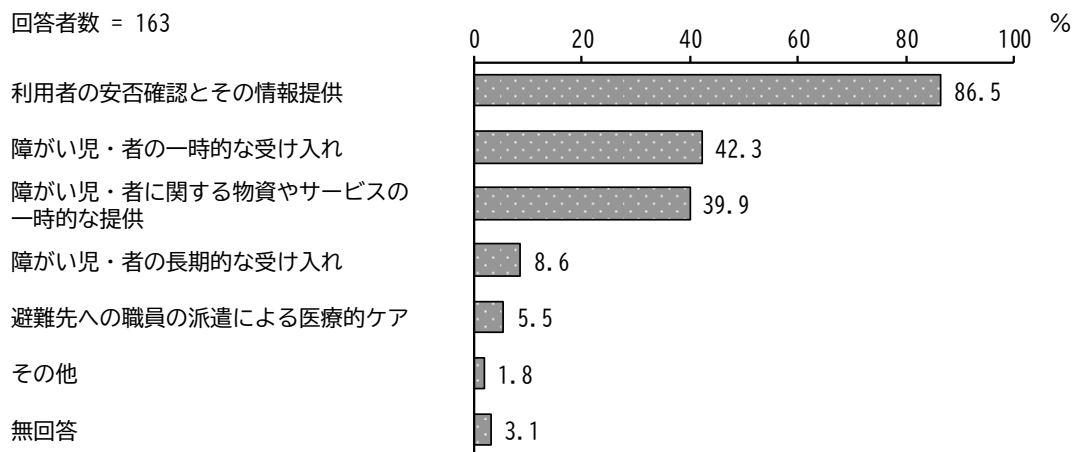
問 19 実施にあたって、課題はありますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください。)

「緊急時の対応」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「医療事故等のリスク」の割合が 53.3%、「看護師の確保」の割合が 46.7%となっています。



問 21 貴事業所では、災害発生時にどのような協力が可能ですか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください)

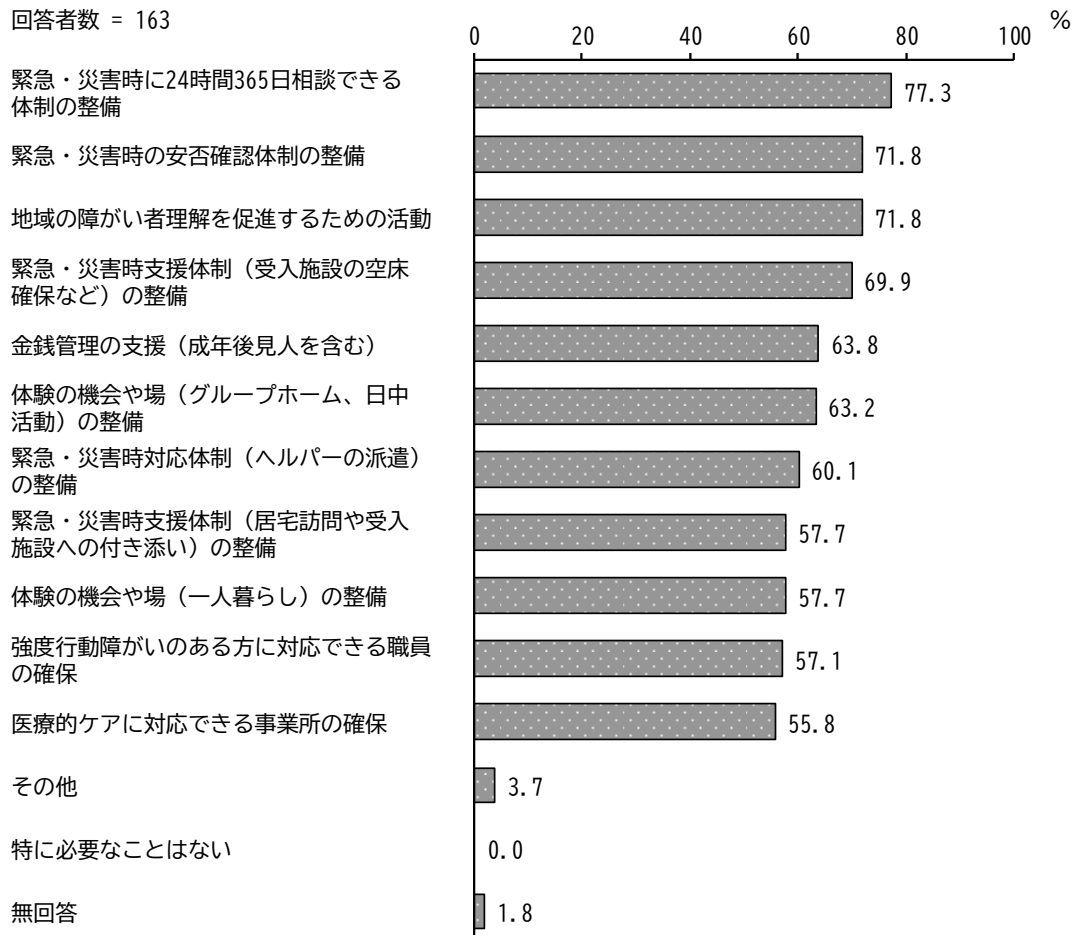
「利用者の安否確認とその情報提供」の割合が 86.5%と最も高く、次いで「障がい児・者の一時的な受け入れ」の割合が 42.3%、「障がい児・者に関する物資やサービスの一時的な提供」の割合が 39.9%となっています。



問 22 障がい者が地域で安心して暮らすために必要なことは何だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください)

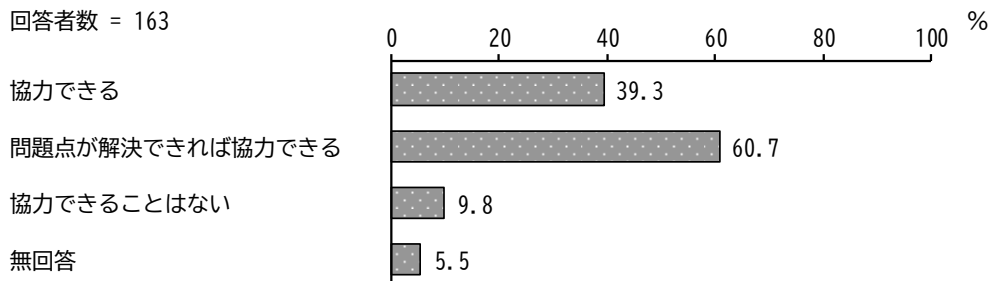
「緊急・災害時に 24 時間 365 日相談できる体制の整備」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「緊急・災害時の安否確認体制の整備」、「地域の障がい者理解を促進するための活動」の割合が 71.8%となっています。

回答者数 = 163



問 23 問 22 の回答項目の中で、貴事業所が協力できることはありますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけてください)

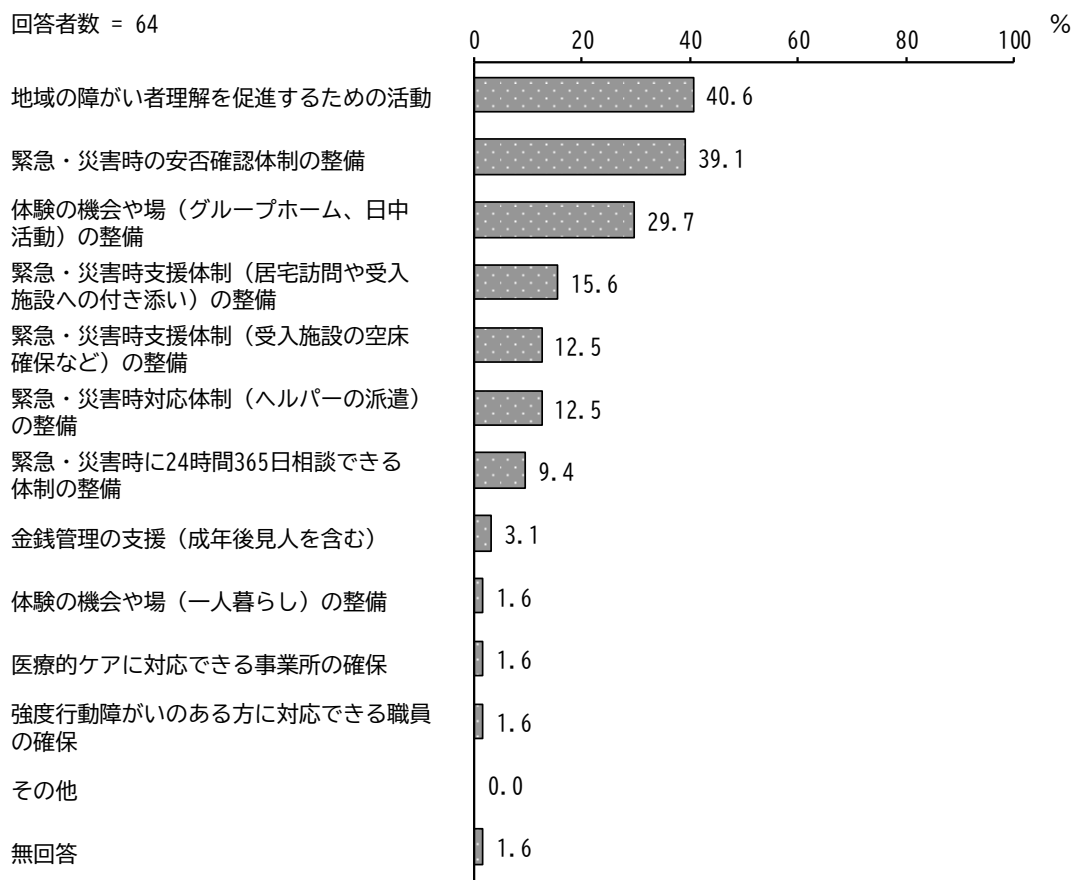
「問題点が解決できれば協力できる」の割合が 60.7%と最も高く、次いで「協力できる」の割合が 39.3%、「協力できることはない」の割合が 9.8%となっています。



<協力できる内容>

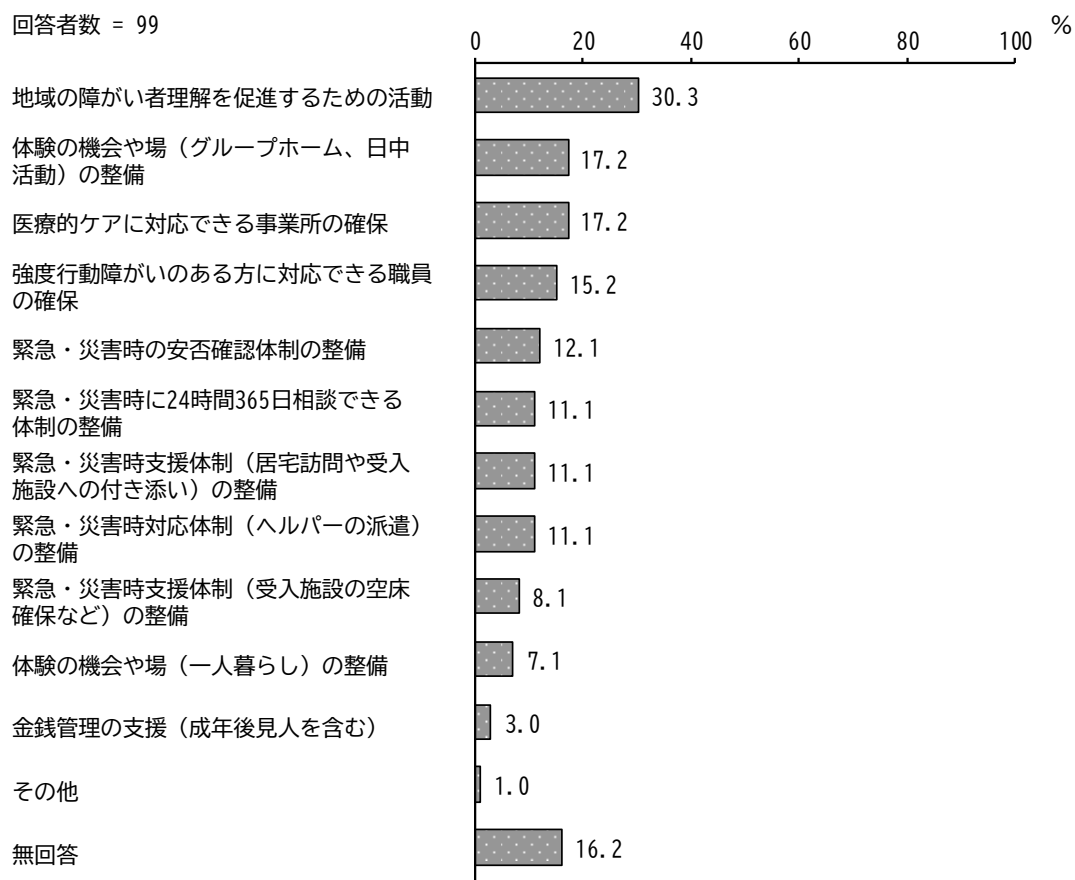
1. 「協力できる」と回答された事業所

「地域の障がい者理解を促進するための活動」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「緊急・災害時の安否確認体制の整備」の割合が 39.1%、「体験の機会や場（グループホーム、日中活動）の整備」の割合が 29.7%となっています。



2. 「問題点が解決できれば協力できる」と回答された事業所

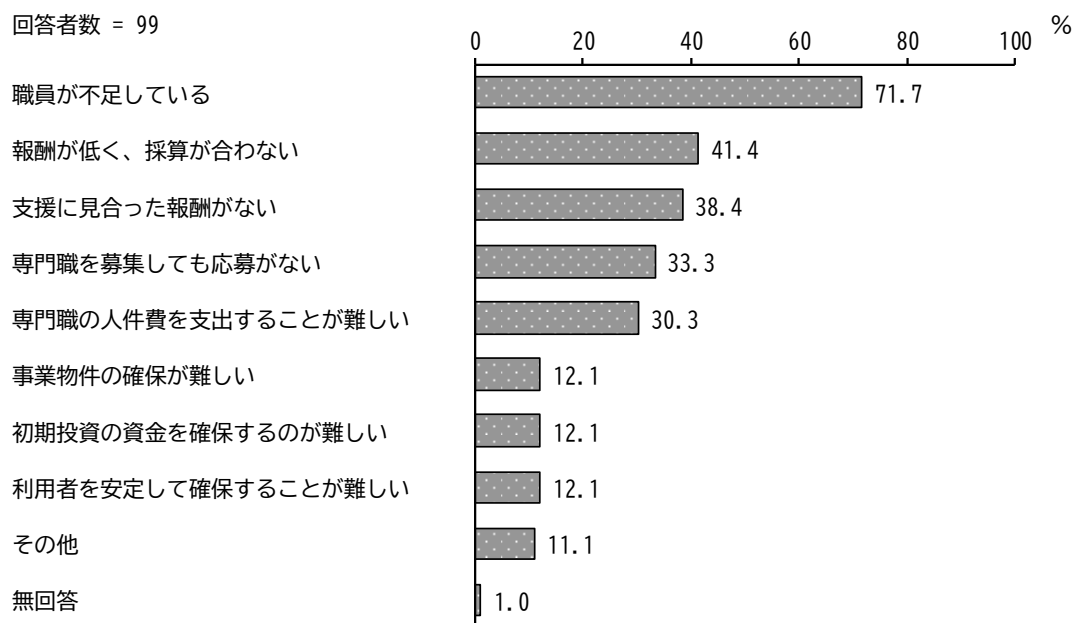
「地域の障がい者理解を促進するための活動」の割合が30.3%と最も高く、次いで「体験の機会や場（グループホーム、日中活動）の整備」、「医療的ケアに対応できる事業所の確保」の割合が17.2%となっています。



【問 23 で「問題点が解決できれば協力できる」と回答した事業所にお聞きします。】

問 24 具体的な問題点は何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください)

「職員が不足している」の割合が 71.7%と最も高く、次いで「報酬が低く、採算が合わない」の割合が 41.4%、「支援に見合った報酬がない」の割合が 38.4%となっています。



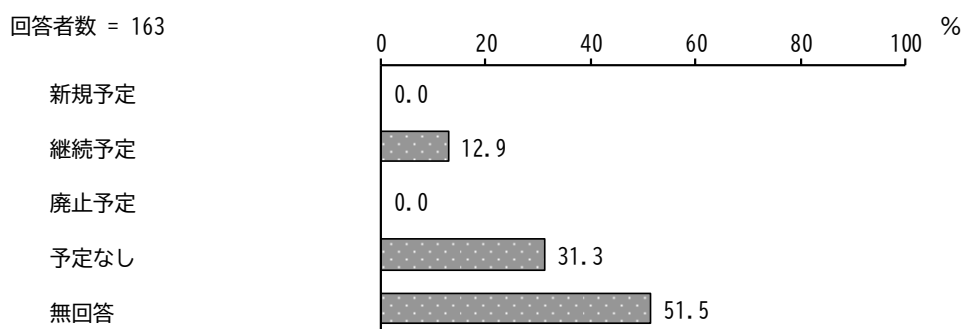
(4) その他

問 25 現在、貴事業所が提供しているサービスも含め、今後のサービス提供予定についてお答えください。(1つの事業につき、1つに○)
また、貴事業所が市内に不足と感じているサービスについて、お答えください。
(○は5つまで)

<今後のサービス提供予定>

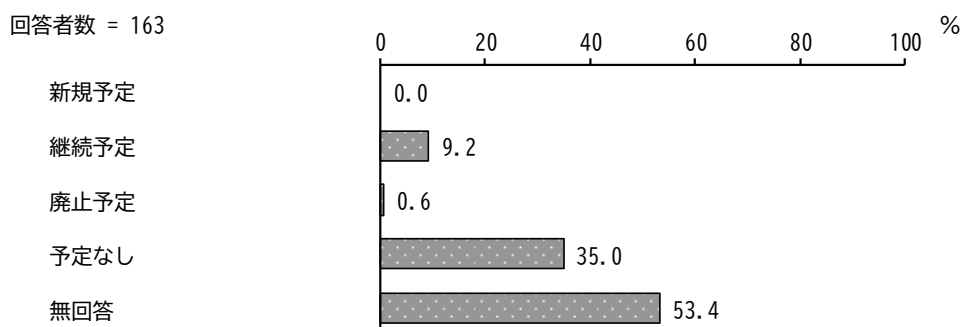
1 居宅介護

「予定なし」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「継続予定」の割合が 12.9%となっています。



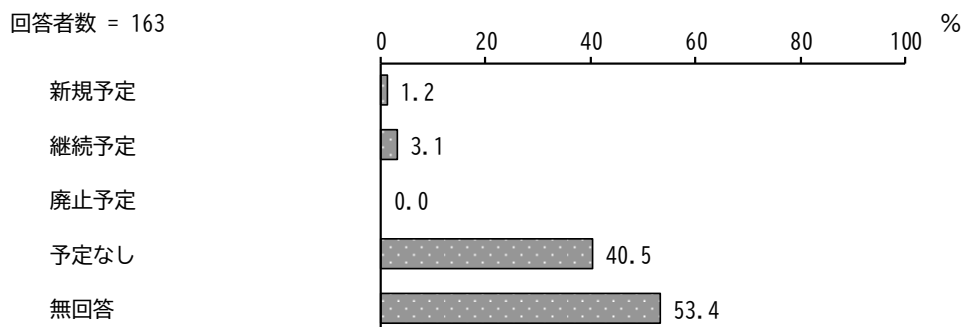
2 重度訪問介護

「予定なし」の割合が 35.0%と最も高くなっています。



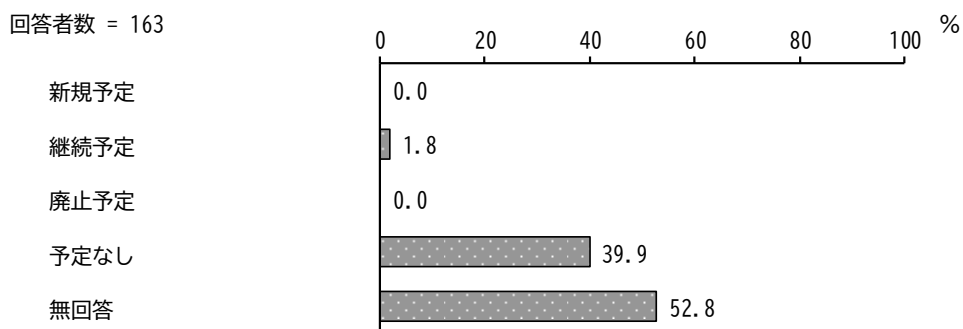
3 同行援護

「予定なし」の割合が40.5%と最も高くなっています。



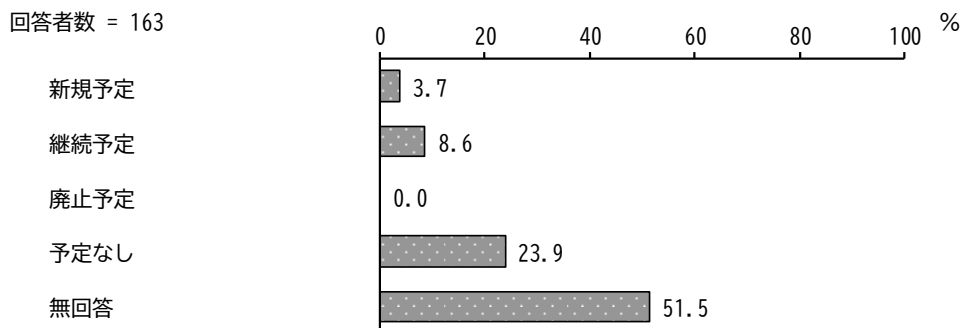
4 行動援護

「予定なし」の割合が39.9%と最も高くなっています。



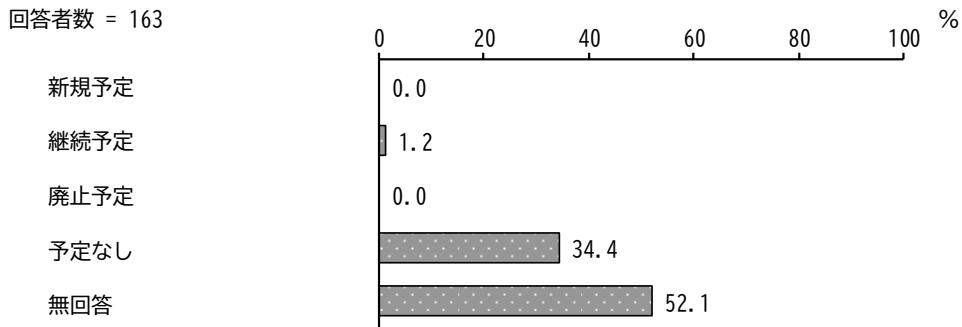
5 生活介護

「予定なし」の割合が23.9%と最も高くなっています。



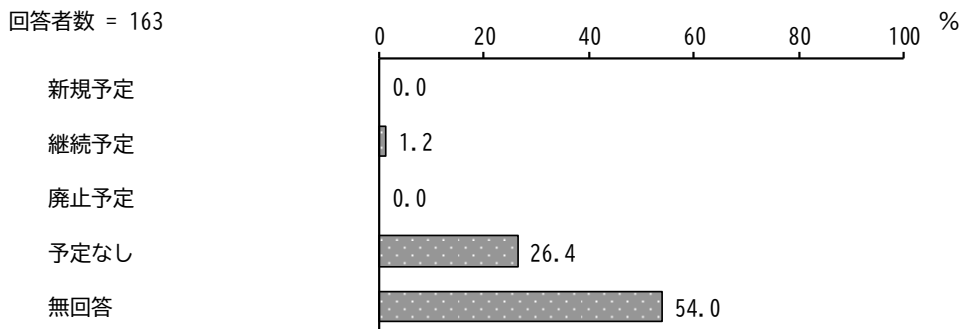
6 施設入所支援

「予定なし」の割合が34.4%と最も高くなっています。



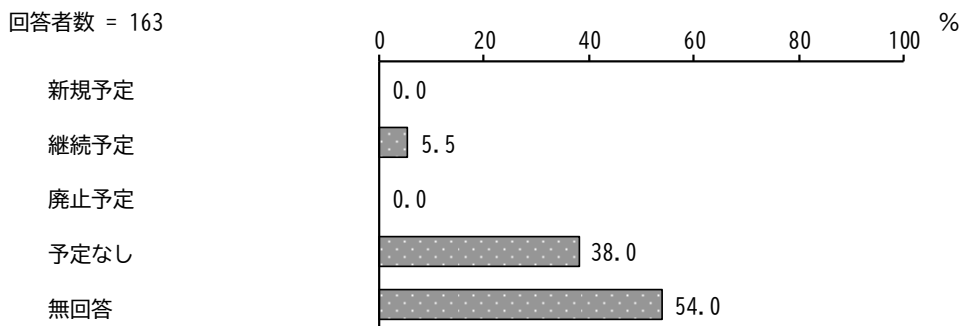
7 短期入所（ショートステイ）

「予定なし」の割合が26.4%と最も高くなっています。



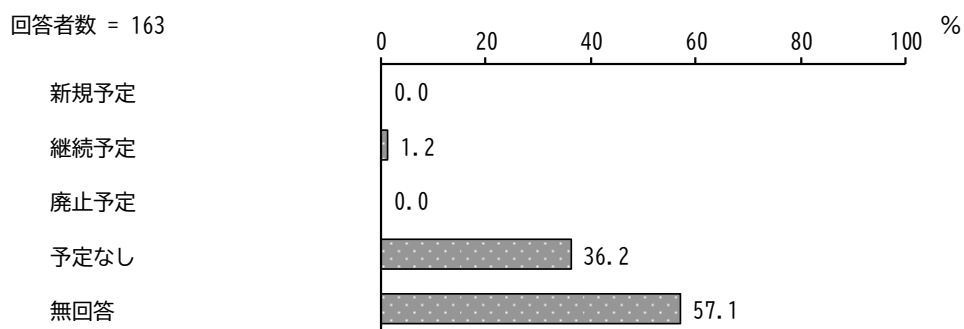
8 自立訓練（生活訓練）

「予定なし」の割合が38.0%と最も高くなっています。



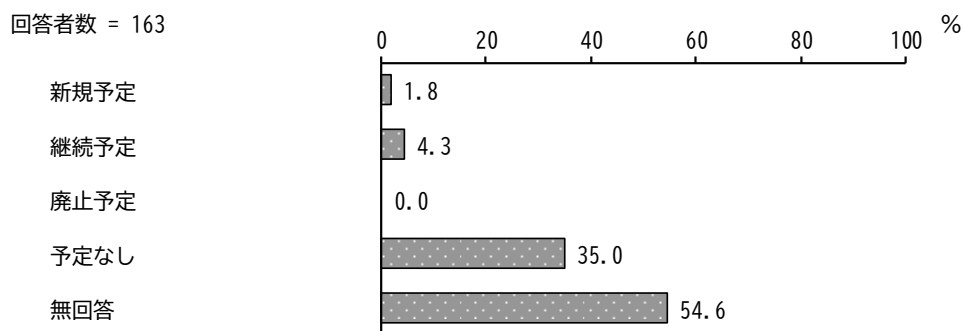
9 宿泊型自立訓練

「予定なし」の割合が 36.2%と最も高くなっています。



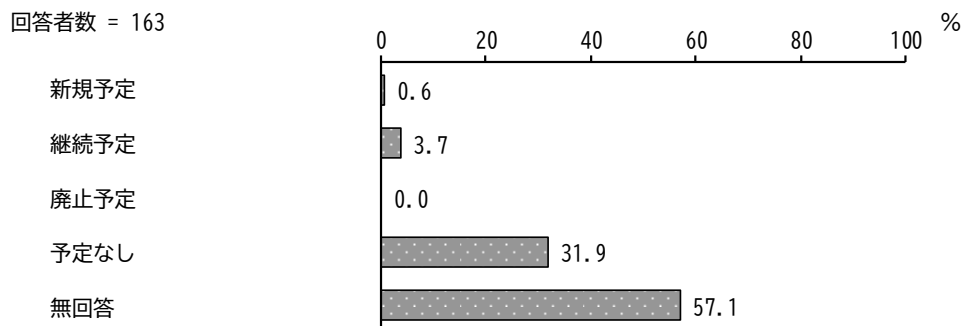
10 就労移行支援

「予定なし」の割合が 35.0%と最も高くなっています。



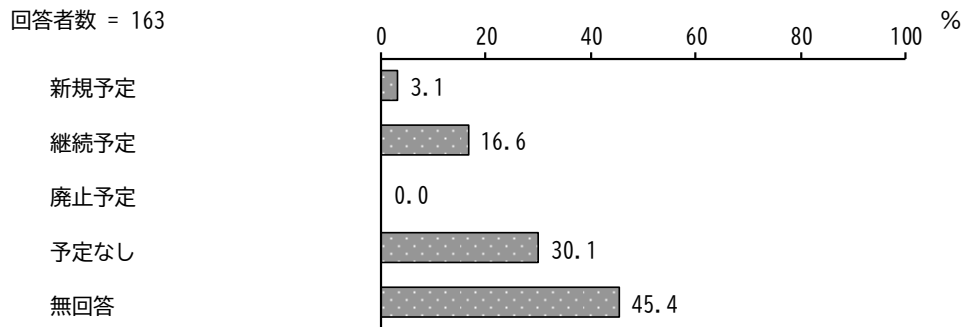
11 就労継続支援 A 型

「予定なし」の割合が 31.9%と最も高くなっています。



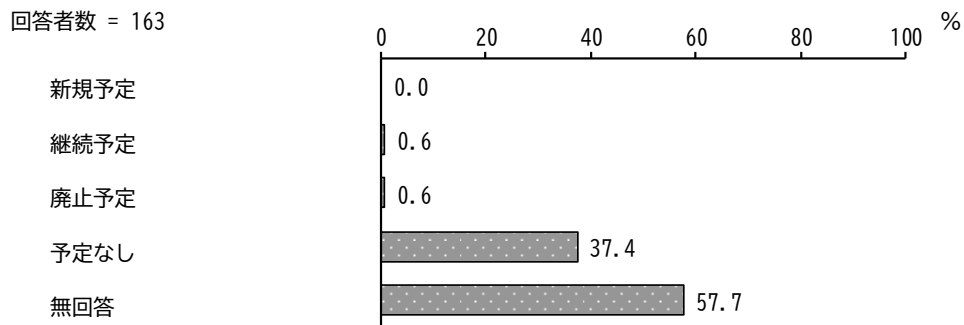
12 就労継続支援 B 型

「予定なし」の割合が 30.1%と最も高くなっています。



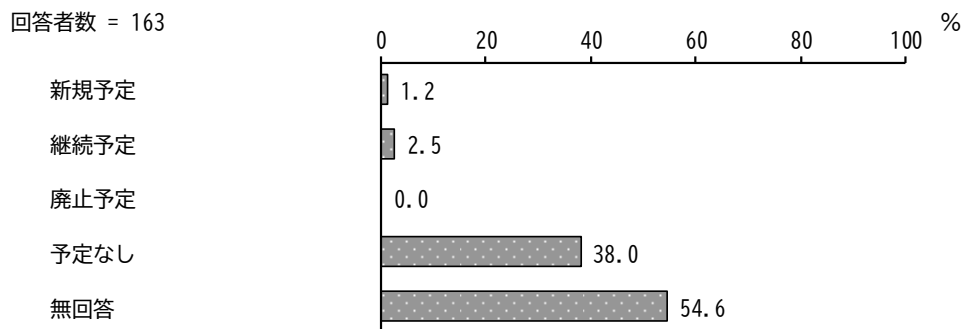
13 自立生活援助

「予定なし」の割合が 37.4%と最も高くなっています。



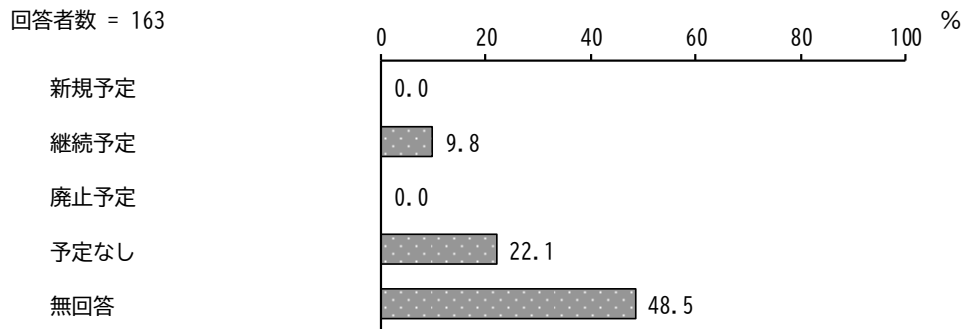
14 就労定着支援

「予定なし」の割合が 38.0%と最も高くなっています。



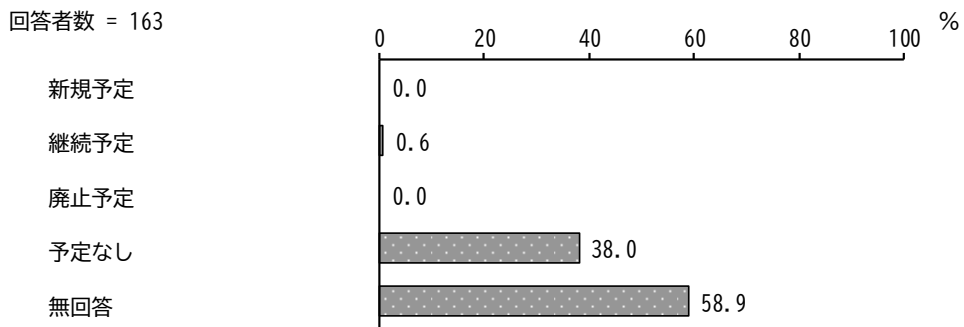
15 共同生活援助

「予定なし」の割合が22.1%と最も高くなっています。



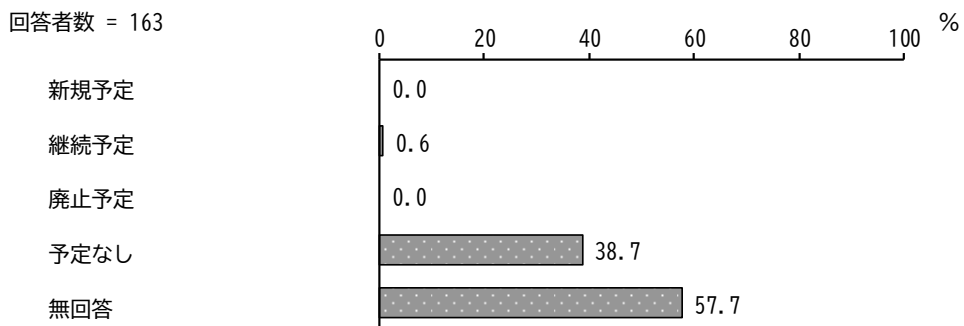
16 地域移行支援

「予定なし」の割合が38.0%と最も高くなっています。



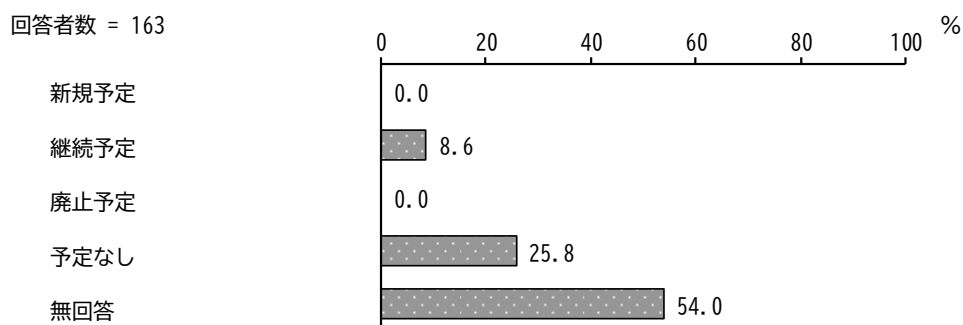
17 地域定着支援

「予定なし」の割合が38.7%と最も高くなっています。



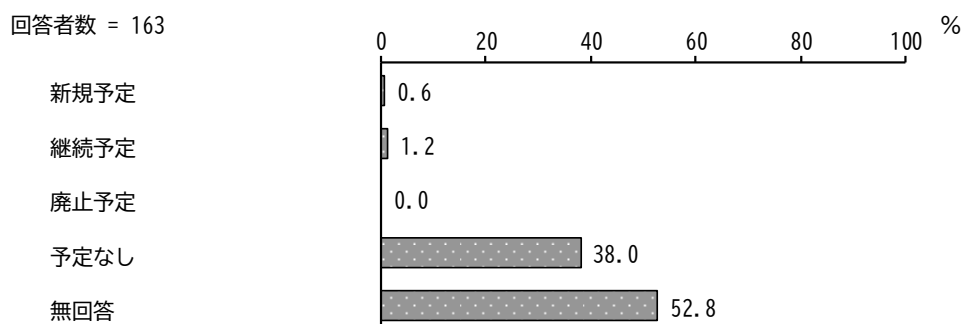
18 計画相談支援

「予定なし」の割合が25.8%と最も高くなっています。



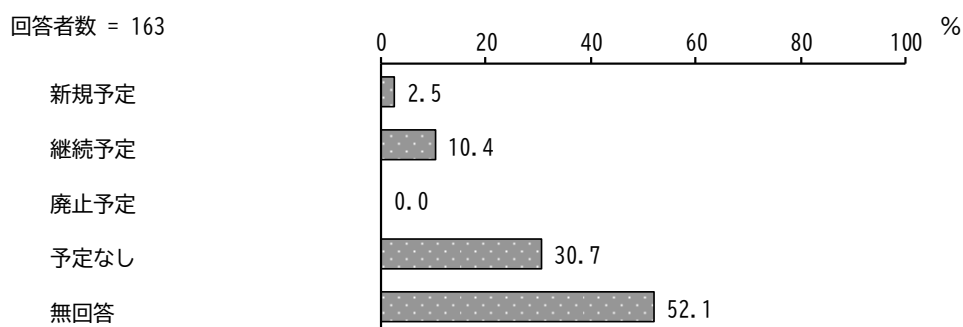
19 障がい児入所施設

「予定なし」の割合が38.0%と最も高くなっています。



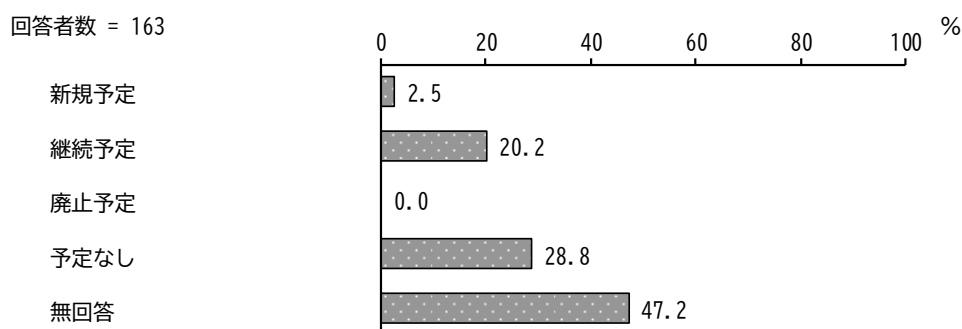
20 児童発達支援

「予定なし」の割合が30.7%と最も高く、次いで「継続予定」の割合が10.4%となっています。



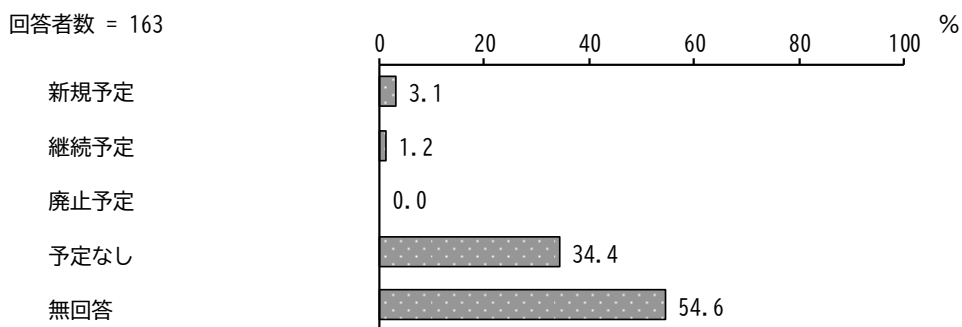
21 放課後等デイサービス

「予定なし」の割合が 28.8%と最も高く、次いで「継続予定」の割合が 20.2%となっています。



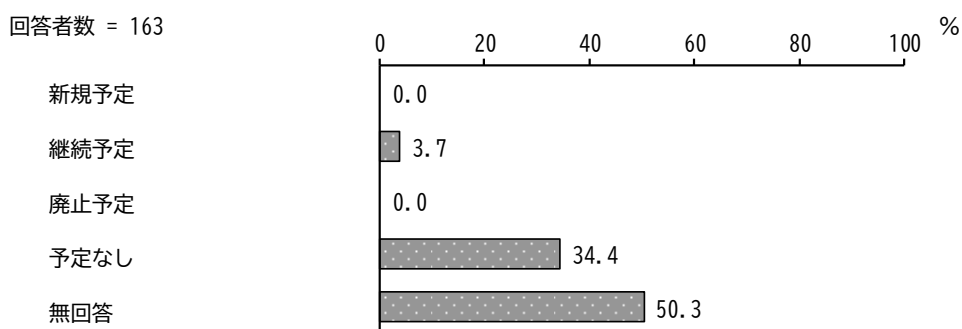
22 保育所等訪問支援

「予定なし」の割合が 34.4%と最も高くなっています。



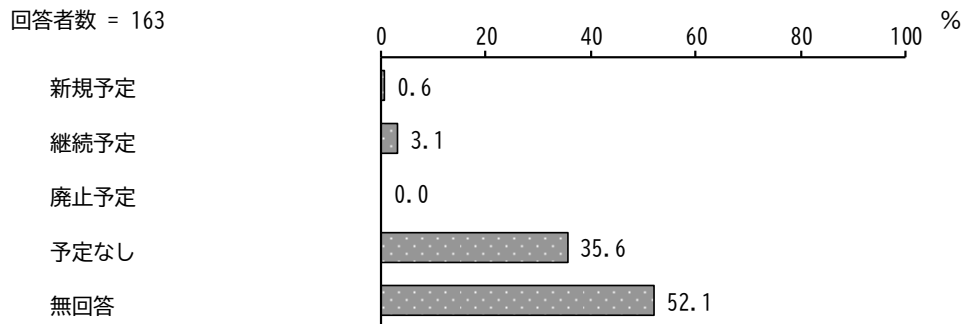
23 障がい児相談支援

「予定なし」の割合が 34.4%と最も高くなっています。



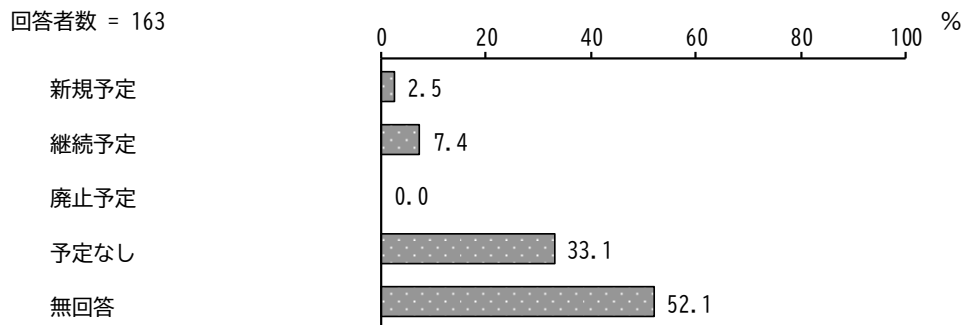
24 移動支援

「予定なし」の割合が 35.6%と最も高くなっています。



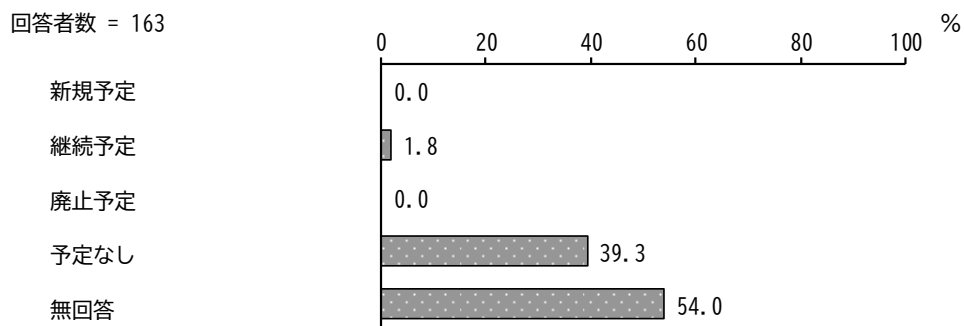
25 日中一時支援

「予定なし」の割合が 33.1%と最も高くなっています。



26 地域活動支援センター

「予定なし」の割合が 39.3%と最も高くなっています。



<市内に不足と感じているサービス>

「共同生活援助」の割合が 26.4%と最も高く、次いで「短期入所（ショートステイ）」の割合が 23.3%、「生活介護」、「計画相談支援」の割合が 16.6%となっています。



自由回答

分類回答	件数
1 療育・教育	0
（1）障がい児の療育・保育	1
2 福祉サービス	0
（1）障がい福祉サービス	6
3 相談・情報提供	0
（1）情報	1
4 地域福祉	0
（1）障がい理解・福祉教育	2
5 生活環境	0
（1）防犯・防災対策	1
（2）外出・コミュニケーション支援	2
6 障害者施策推進体制	0
（1）障がい者の権利擁護	1
（2）障害者施策推進体制の整備	1
7 その他	0
（1）窓口・手続き関係	2
（2）人材確保・育成、賃金等	11
8 特になし（※感謝の言葉など含める）	1

【分類別の主な意見】

1 療育・教育

（1）障がい児の療育・保育

- ・児童発達支援、放課後等デイサービスが乱立し、質の担保が心配。ある地域とない地域の差が激しく、利用できない児童がおり、地域性を考慮して欲しい。

2 福祉サービス

（1）障がい福祉サービス

- ・定期的なケア会議が開催されておらず、支援の継続性、連続性のマネジメントができていない。（1人当たりのケア会議の開催回数を確認してもらいたい。ケアマネジメントが足りておらず、利用者の支援の方向性が見えにくい。

- ・訪問看護全般で見ると介護保険の軽度者に対し、かなりの人力が取られてしまっていると思われる。予算の多くを介護3までの方々に要し、本当に生活の苦しい、生きていく事に辛さを伴っている方の元へ人手が届いていないのが実際です。対して障がい分野で働く事業所数は相対的に少なく、各事業所とも方向性（内容）が異なる為、より、人手という面では不足が生じています。民間企業なので、自由な部分はありますが、部分的なサービスに特化するのではなく、およそすべての事業所がサービス全般に対応可能な形態にすべきかと思えます。また、災害時においても、地域が災害に見舞われれば、健常も障がいも関係なくすべての方が被災者であり、要救助者です。加えて人1人が一度に助けられるのはおよそ1人のみが実際。故に介護サービスである公助も大切ですが、自助、共助の面を個人が住む地域において強化する必要があると思えます。障がいであるが為、他者から理解の得られない時代ではありません。「生きる」という事において、福祉医療分野以外の方々にも積極的な地域参加ができる社会を作ることと同時に進行して行く事で少しずつ地域というコミュニティが形成でき、郡山市の掲げるセーフコミュニティの進み方も良い方向に行くかと思えます。サービス提供者側の努力だけでなく、市民が、それぞれに「生きる」事において各々が責任を持って行動できる社会が構築できれば良いかと思えます。ありがとうございました。
- ・セルフプランから計画相談を利用することになった方やその方の利用しているサービス事業所からの要望が多く感じます。セルフの方の潜在的なニーズがより早く掘り起こせるように計画相談の必要性を強く感じています。
- ・知的のヘルプ事業所がだいぶ少なくなってきたので、今後の郡山市の施策としてご検討頂ければと思います。
- ・老人、子供、障がいの相談が1つの建物のフロアーにて成長の流れも相談しやすく、観ていく事もできる独立した場あればと思う。事業所ごとや人による格差も減るのではないかと？各事業所から出向で勤務の平等性がでてくるのでは。相談もたない事業へのモニタリングも受給者証配布（見直し）まで事業所にはしないと言う所もある。変化は無い判断もする所あった。それぞれの特徴が生活介護もあり（変化もする）良さも問題点も当事者も相手によって話が違うが色々ある為（時に家族代弁者）情報の共有連携協力する為の相談員中心の話し合い必要と思う。
- ・強度行動障がいがある方の受皿（通所・人所・ショートステイ）グループホームは不足しているように感じます。就労移行、B型、放デイは数と実利用者のバランスが崩れてきているのも見受けられるので、新規指定を出す必要性は少ないと思えます。市としては質の工場という部分へさらに尽力して頂き、実地指導だけでなく自立支援協議会、優先調達を通しての工賃向上、各種研修等に係る予算計上や課題として上がっている部分は新たな市独自の事業として考えると良いかと思いました。そのためにも社協や基幹相談、事業団がさらに民間の考え方を取り入れフットワーク軽く動く必要があると思えます。

3 相談・情報提供

(1) 相談

- ・当児童発達支援事業の利用児の半数以上がセルフプランのため、成長の節目で相談支援を適切に受けられない場合がある。そのため必要な福祉サービスの利用が行われないことで、支障をきたすことがある。障がい児相談支援に対するサポートの強化が必要と思われる。

4 地域福祉

(1) 障がい理解・福祉教育

- ・地域にお住まいの人が障がいがある、なし関係なく暮らしやすい環境づくりができるよう頑張っていきたいです！
- ・協力はしたいが何ができるのか。障がい者を軽視したり、差別している人間がいる限り安心して暮らしていけない。

5 生活環境

(1) 防犯・防災対策

- ・郡山市独自の支援不足。災害時、コロナ感染症等、物価高騰、衛生用品を配布するのみでは現場は成り立たない。

(2) 外出・コミュニケーション支援

- ・利用者の方や、車がない親御さんの移動手段がないと感じています。これからの職員数確保は非常に厳しい状態です。施設内でいろんな負担を減らしたり福利厚生を行ってきましたが、厳しいです。利用者や親の方が困っている事多いので、もっと拡げたいので協力よろしくお願いします。
- ・公共機関のバスの路線変更に伴い、本数が少なくなったため移動に課題を持つ方が増えてしまった。また、ご家族の都合で送迎が出来ない方もいらっしゃるので移動方法の確保をお願いしたいです。郡山市には企業が多くありますが、知的障がい者の雇用となると厳しいものがあります。ぜひ郡山市での雇用（パートタイム、施設外就労も含め）を考えてほしいと思います。

6 障害者施策推進体制

(1) 障がい者の権利擁護

- ・社会に必要不可欠な業種なので、利用者、従事者共手厚い支援の充実を望みます。自立支援（生活訓練）の利用期間（2年）の拡充を求めます（3年～）。社会復帰への支援機会の時間不足と感じます。

(2) 障害者施策推進体制の整備

- ・障がい者団体等との意見交換会について、意見を聞くだけの場にせず、施策に活かせる（反映させる）よう継続的に話し合いの場を持ち、要望、提案等を具体化できるようにしてほしい（可否も含めて）

7 その他

(1) 窓口・手続き関係

- ・事務的作業を複数事業所で行う場合、電子サービスで利用者が一括して手続きが取れるサービス。
- ・制度手続きの簡素化、特性に応じた分かりやすい説明。

(2) 人材確保・育成、賃金等

- ・福祉サービスの根幹である、人材確保をどうにかして頂きたい。
- ・報酬体系の変更(自治体の課題ではありませんが)→指定事業所として運営するための設備、人員をそろえているので、通所した人員によって変動するのは、事業毎、地域の性質によって大きく影響してしまい、運営に問題が出やすくなると思います。
- ・現在の加算状況での維持が難しくなっています。当事業所をはじめ他事業所からも廃止の声が上がっています。決められた加算からは、賃上げはとても難しい状況にあります。
- ・人材の確保、継続維持のための職員の給与、ベースアップの仕組みの強化。障がいのある方、ない方が共有できる地域空間作り。
- ・思っている以上にいろいろなパターンの支援方法や危険行為のある利用者さんの支援には体力のいる仕事です。報酬が低く採算が合いません。職員が不足しているのが現状です。実際に現場を見て頂きたいです。
- ・相談者さんの不足を感じます。特にセルフプランの保護者様へのサポートが薄くなってしまいう為、今後の課題として考えて行きたい。
- ・報酬が低く割に合わない。人材の確保が難しい。
- ・職員に賃上げして安定した生活をしてほしい。賃上げ水準が高ければ若い優秀な資格をもった保持者が集まると思っています。
- ・放課後等デイサービスを運営していますが、新規での開所があまりにも多く子どもの確保、職員の流出（引き抜き）などが発生しておりもう少し事業所目線でのサポートをお願いしたい。このままいけば子どもに対するサポートの低下、事業所の閉鎖など起こってくると思われる。子供に対する支援を考えるよりも施設の運営に力を入れざるを得なくなり、支援の低下が予想される。心配だ。

- ・GHを運営している施設ですが、入居される利用者様の重度他、それに対応する職員（主に世話人）の支援の質がなかなか伴わず対応に困ることが多々あります。障がい特性や統合失調症の方の支援、発達障がい等、勉強や研修を受ける機会があるので、ありがたく思っています。また、65歳になられる利用者様の介護保険の移行等、その方の年齢や特性に合ったサービスを受けて頂くことが必要だと思しますので、障がい福祉と介護保険の連携をより強くして頂くような整備が必要だと感じました。

8 特にない（※感謝の言葉など含める）

- ・今後も引き続き、郡山市の障害者福祉の発展に貢献できるよう努める所存です。

令和4年度
郡山市障がい者（児）実態調査
令和5年3月

発行：郡山市 保健福祉部 障がい福祉課
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号
TEL：024-924-2381
FAX：024-933-2290